

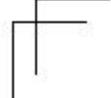
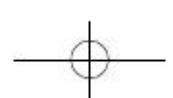
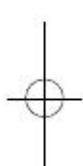
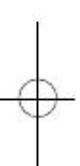
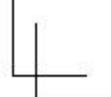
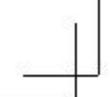
こう ふ じょう か まち い せき

# 甲府城下町遺跡

— 平成26～30年度甲府駅南口周辺地域修景計画事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

2019. 3

山梨県教育委員会  
山梨県県土整備部

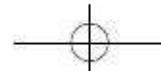




公衆用トイレ建設地点 H27- 地業跡



水景施設地下機械室設置地点 1号井戸



## あらまし

甲府城下町遺跡は、近世の甲府城跡を中心として成立した武家屋敷地や町人地を含む城下町遺跡であり、国指定史跡甲府城跡を中心に半径1km程の範囲に広がる遺跡です。

本書で報告する区域は、甲府城下町遺跡の中でも甲府城の西側に隣接する区域にあたります。この区域において、甲府駅南口周辺地域修景計画に伴う甲府駅南口駅前広場および主要地方道甲府韮崎線（通称「平和通り」）の再整備が計画され、それに伴い埋蔵文化財調査を実施しました。ここでは、各地点の調査概要を紹介します。

### 平和通り中央分離帯地点

平和通り中央分離帯地点は、主要地方道甲府韮崎線県庁前交差点より北側約70mの中央分離帯内にあります。

発掘調査の結果、地表下約1.2mの深さから、4基のピット（柱穴）がみつかりました。

4基のピットは、約1.8mの間隔で、南北方向に1列に並んでいました。



発掘調査でみつかったピット（南から）



基本土層

平和通り中央分離帯地点周辺は、近世の絵図資料に、甲府城西側の柳御門前に広がる広場が描かれており、今回の調査によってみつかったピットは、柳御門の前に設置された柵や堀などの可能性があります。



## 公衆用トイレ建設地点（1）

公衆用トイレ建設地点は、甲府駅南口駅前広場の西側にあります。

平成 27・28 年度の 2 カ年にわたる発掘調査により、地表下約 1～2m の深さから地業跡や井戸などの近世の遺構がみつかりました。



平成 28 年度調査区基本土層



平成 27 年度調査区全景（北西から）



平成 27 年度調査区基本土層

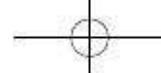


H27-1 号地業跡 粘土検出状況

左の写真は、平成 27 年度の調査でみつかった地業跡です。溝状の掘り込み内に粘土を充填してつき固めて造られており、建物等の基礎として使われたものと考えられます。



H27-1 号地業跡 土層堆積状況



## 公衆用トイレ建設地点（2）

右の写真は平成28年度の調査でみつかった井戸跡です。井戸からは、銭貨や土器、陶器などが出土したほか、井戸枠などに使われたと思われる木杭もみつかりています。



H28-1号井戸からみつかった木杭



H28-1号井戸

公衆用トイレ建設地点からは、地業跡や井戸のほかに、ピット（柱穴）も複数みつかります。このピットの配置から、なんらかの建物があったことが想定されます。

宝永元（1704）年から甲府城主を務めた柳沢吉保の公用日記『楽只堂年録』所収の絵図史料によれば、公衆用トイレ建設地点付近には、柳沢家の家老であった柳沢権太夫屋敷があったとされており、今回みつかったものは、柳沢権太夫屋敷などの武家屋敷に関連するものと思われます。

## 総合案内所建設地点

総合案内所建設地点は、甲府駅南口駅前広場の中央部にあり、近世の絵図史料には甲府城一の堀に面した道路が描かれた地点になります。

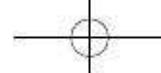


B区 瓦・礫集中



A区 遺物出土状況

発掘調査では、明確な遺構は確認されておりませんが、杭列や近世から近代の瓦などの遺物がまとまって出土する状況が確認されています。



## 水景施設地下機械室設置地点

水景施設地下機械室設置地点は、甲府駅南口駅前広場の西側にあり、近世では、西側に隣接する公衆用トイレ地点と同様に、柳沢家老屋敷などの武家屋敷地にあたります。

発掘調査の結果、近世の遺構や遺物が数多くみつかっています。



調査区全景（西から）



2号井戸

左の写真は、近世の井戸跡（2号井戸）です。水景施設地下機械室設置地点では2基の井戸がみつかっていますが、このうち、調査区北側の2号井戸では、井戸上部にみられる礫溜まりの下より、2本の木杭がみつかりました。この木杭は、井戸枠などの構造材と考えられます。



2号井戸内の木杭



1号土坑 土層堆積状況



円形石列



1号土坑から出土した焼土ブロック



## 確認調査・立会調査

平成 26～30 年度までの 5 カ年にわたり、甲府駅南口周辺地域修景計画に伴い、261 件の確認調査および立会調査をおこないました。そのほとんどが狭小の範囲内の調査でしたが、近世から近代にかけてのこの地域を語るうえで、欠かせないさまざまな史料が得られています。

主要地方道甲府韮崎線の県庁前交差点 - 防災新館前交差点間周辺では、西側に向かって立ち上がる堀状の遺構がみつかっています。

この付近は、甲府城一の堀の存在が推定されており、この遺構の立ち上がりは、一の堀の城外側の立ち上がりにあたると思われます。

これまで、甲府城西側での城外側の立ち上がりは確認されておらず、その正確な位置は不明なままでしたが、今回の発見がその解決の糸口となるかもしれません。



H29 立会No.90 遺構の立ち上がり



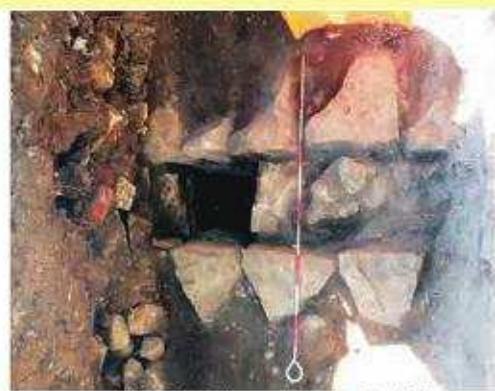
H29 立会No.39 遺構の立ち上がりと石列



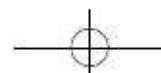
H29 立会No.VII-12 石組水路

今回の調査エリアの南端部、主要地方道甲府韮崎線の市役所前交差点 - 甲府警察署前交差点間の立会調査では、石組水路がみつかっています。

近世において、この付近は武家屋敷地がひろがっていたエリアであり、この石組水路は武家屋敷地の区画を示している可能性があります。



H29 立会No.VII-15 石組水路



## 序 文

本報告書は、甲府駅南口周辺地域修景計画にもとづく再整備事業に伴い、山梨県埋蔵文化財センターが平成26年度から平成30年度にかけておこなった埋蔵文化財調査の記録をまとめたものです。

甲府城下町遺跡は、甲府城跡を中心に成立した武家屋敷地や町人地を含む近世の城下町遺跡であり、甲府城とともに、江戸時代を通じて、甲斐国の政治・文化の中心地として栄えてまいりました。

今回、埋蔵文化財調査を実施した範囲は、甲府城の西側隣接部から南西部にかけての武家屋敷地が展開されたエリアにあたります。

甲府駅南口駅前広場周辺においては、4地点の発掘調査をおこないました。このうち、公衆用トイレ建設地点および水景施設地下機械室設置地点は、宝永元年(1704年)に甲府城主となる柳沢吉保の家老柳沢権太夫をはじめとした甲府城の要人の屋敷地とされており、調査により柱穴や地業跡、井戸などの近世の武家屋敷に関係する遺構がみつかっております。

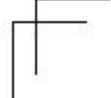
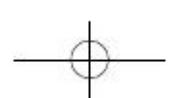
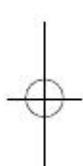
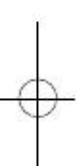
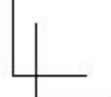
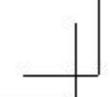
また、全域を対象におこなった立会調査では、甲府城一の堀に関する遺構や、濁川(旧甲府城二の堀)の護岸石垣、土地区画を示すと考えられる石組水路など、近世から近代にかけての遺構がみつかっております。

これらの調査成果は、近世の甲府城下町における武家屋敷地のありかたや、明治維新後の県都甲府の成り立ちを考えるうえで欠かせない、重要な歴史資料となるものと考えられます。本書が、地域における歴史学習や研究のために、多くの方にご活用いただければ幸いです。

末筆ではありますが、調査および報告書作成にあたり、ご指導・ご協力をいただいた関係者、関係機関に厚く御礼申し上げます。

2019年3月

山梨県埋蔵文化財センター  
所長 馬場 博樹



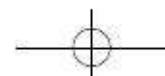
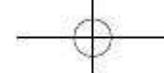
## 例　言

- 1 本書は山梨県甲府市丸の内一丁目および二丁目地内に所在する甲府城下町遺跡の埋蔵文化財調査（発掘調査、立会調査および確認調査）報告書である。
- 2 埋蔵文化財調査は、甲府駅南口周辺地域修景計画にもとづく再整備事業（都市計画道路甲府駅前線他1路線、主要地方道甲府韮崎線外 甲府南口工区）に伴う事前調査であり、山梨県県土整備部より山梨県教育委員会が委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが平成26年度から平成30年度までの期間で調査・整理・報告書作成を実施したものである。
- 3 埋蔵文化財調査にあたった組織は次のとおりである。

調査主体 山梨県教育委員会  
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
- 4 本書の執筆は正木季洋（副主査・文化財主事）がおこない、編集は正木および塩谷風季（非常勤嘱託）が担当した。なお、各調査の担当者については、本文中に明記した。
- 5 遺構写真・調査風景写真は各調査担当者が、遺物写真は正木季洋および塩谷風季が撮影した。
- 6 各調査の期間および整理作業期間は本文中に明記した。
- 7 整理作業は、山梨県埋蔵文化財センターで実施した。
- 8 本書にかかる記録図面・電子データ、写真、出土遺物等は山梨県埋蔵文化財センターに保管している。
- 9 埋蔵文化財調査に係る調整機関および担当者は次のとおりである。

調整機関 山梨県教育庁学術文化財課  
調整担当 埋蔵文化財担当 萩原孝一（平成26年度）  
埋蔵文化財担当 橋本尚一（平成27・28年度）  
埋蔵文化財担当 久保田健太郎（平成29・30年度）
- 10 國土座標による基準杭測量は昭和測量株式会社に委託した。
- 11 甲府駅南口駅前広場総合案内所地点発掘調査にかかる自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果については第4章に所収した。
- 12 遺構の測量及び図化システムとして、株式会社CUBICの「遺構くん」を使用した。
- 13 調査にあたり、次の方々からご教示・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。（敬称略）

志村憲一 平塚洋一 望月健太 望月祐仁 公益財團法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会  
甲府市教育委員会



## 凡 例

- 1 調査区は世界測地形座標により設定しており、全体図におけるX・Y軸延長線上に付した数値は座標線の数値であり、南北のグリッド線及び図中の北印は真北をしめす。
- 2 遺構番号は、発掘調査区内における確認順に遺構種別ごとに番号を付したものである。なお、報告書作成段階の検討により名称を変更した遺構名は、第3章各節に経過を記載している。
- 3 遺構・遺物図面の縮尺は、各図中に示した。
- 4 出土遺物の注記に用いた遺跡の略号は、以下のとおりである。
  - 平成27年度 公衆用トイレ建設地点 ····· 「KJ（トイレ）」
  - 平成28年度 総合案内所建設地点 ····· 「H28 コウフジョウカ（ソウアン）」
  - 平成29年度 水景施設地下機械室設置地点 ··· 「H29 コウフジョウカ（水パン）」
  - 確認調査・立会調査 ··········· 「H〇〇南口立会」（「〇〇」は年度）

なお、確認調査・立会調査の出土遺物については、遺跡の略号の後に各年度の立会番号を注記している。

- 5 遺物実測図の選定は、原則として以下の基準による。

### 〔土器・陶磁器類〕

口径または底径が復元可能なもの、その他特徴的なもの

〔瓦類〕種類ごとに以下の基準を満たすもの、または、刻印を有するなど特徴的なものを選定した。

軒丸瓦・軒平瓦：瓦当面が1／2以上残存するもの

丸瓦・平瓦・棟瓦：1／3以上残存するもの

- 6 遺物観察表の作成にあたり、土器・陶磁器については口径・底径・器高を、瓦・金属製品については最大長・最大幅・最大厚を計測した。なお、観察表中の()付数字は次のとおりである。

### 〔陶磁器・土器〕

口径・底径···推定値

器高······残存値

### 〔瓦〕

長さ・幅···残存地

- 7 遺構図版中のドットマークは遺物を示しており、付された番号はそれぞれの遺物番号に対応している。

- 8 遺構断面図の基点に付した数字は標高(m)を表す。

- 9 土器観察表中及び土層注記の色調名は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』1990年度版による。

- 10 本報告書中遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地図を利用した。

## 目 次

卷頭写真図版	
あらまし	
序文	
例言・凡例	
目次	
第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の目的と課題	1
第3節 発掘調査および確認調査・立会調査の 経過	1
第4節 整理等作業の経過	3
第2章 遺跡の位置と環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査の方法と成果	12
第1節 平和通り中央分離帯地点	12
第1項 調査の方法	12
第2項 層序	12
第3項 遺構	12
第2節 公衆用トイレ建設地点	14
第1項 調査の方法	14
第2項 層序	14
第3項 遺構と遺物	15
第3節 総合案内所建設地点	20
第1項 調査の方法	20
第2項 層序	20
第3項 遺構と遺物	21
第4節 水景施設地下機械室設置地点	29
第1項 調査の方法	29
第2項 層序	29
第3項 遺構と遺物	31
第5節 確認調査・立会調査	38
第1項 平成26年度	38
第2項 平成27年度	38
第3項 平成28年度	40
第4項 平成29年度	44
第5項 平成30年度	51
第4章 甲府城下町遺跡の放射性炭素年代測定	63
第5章 総括	67
第1節 公衆用トイレ建設地点および水景施 設地下機械室設置地点における遺構 配置について	67
第2節 立会調査成果を元にした甲府城一の 堀範囲の復元	69
写真図版	
報告書抄録・奥付	

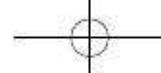
## 図 版 目 次

第1図 発掘調査位置図	4
第2図 確認調査・立会調査 年度別範囲図	5
第3図 甲府城下町遺跡の周辺遺跡	8
第4図 甲府城下町旧街路・旧町名図及び主要 調査地点	10
第5図 平成通り中央分離帯地点 土層模式図	12
第6図 平和通り中央分離帯地点 全体図	13
第7図 公衆用トイレ建設地点 全体図	16
第8図 公衆用トイレ建設地点 基本土層図	16
第9図 公衆用トイレ建設地点 地業跡・井戸 ・溝状遺構・ピット	17
第10図 公衆用トイレ建設地点 出土遺物	18
第11図 総合案内所建設地点 基本土層図	22
第12図 総合案内所建設地点 全体図	23
第13図 総合案内所建設地点 瓦・礫集中	23
第14図 総合案内所建設地点 遺構外遺物分布図	24
第15図 総合案内所建設地点 A区出土遺物	26
第16図 総合案内所建設地点 B区出土遺物(1)	27
第17図 総合案内所建設地点 B区出土遺物(2)	28
第18図 総合案内所建設地点 B区出土遺物(3)	29
第19図 水景施設地下機械室設置地点 基本土層 模式図	29
第20図 水景施設地下機械室設置地点 全体図	30
第21図 水景施設地下機械室設置地点 井戸・	

第22図	石組遺構・土坑(1) ..... 33 水景施設地下機械室設置地点 土坑(2)・円形石列・ピット ..... 34	第34図	平成30年度 確認調査・立会調査位置図(2) ..... 56
第23図	水景施設地下機械室設置地点 遺構外出土遺物分布図 ..... 35	第35図	平成30年度立会調査 H30立会No.II-20 ..... 57
第24図	水景施設地下機械室設置地点 出土遺物 ..... 36	第36図	平成30年度立会調査 H30立会No.V-6 ..... 57
第25図	平成26・27年度 確認調査・立会調査位置図 ..... 39	第37図	平成30年度立会調査 H30立会No.VII-11 ..... 58
第26図	平成28年度 確認調査・立会調査位置図(1) ..... 41	第38図	平成30年度立会調査 H30立会No.VIII-6 ..... 59
第27図	平成28年度 確認調査・立会調査位置図(2) ..... 42	第39図	平成30年度立会調査 H30立会No.VIII-15 ..... 59
第28図	平成28年度立会調査 H28立会No.4 ..... 43	第40図	確認調査・立会調査出土遺物(1) ..... 60
第29図	平成28年度立会調査 H28立会No.10 ..... 43	第41図	確認調査・立会調査出土遺物(2) ..... 61
第30図	平成29年度 確認調査・立会調査位置図(1) ..... 44	第42図	暦年較正結果(1) ..... 65
第31図	平成29年度 確認調査・立会調査位置図(2) ..... 45	第43図	暦年較正結果(2) ..... 66
第32図	平成29年度立会調査 H29立会No.51 ..... 47 ・52・89・90・92 ..... 47	第44図	B区炭化材試料の暦年較正結果 ..... 66
第33図	平成30年度 確認調査・立会調査位置図(1) ..... 54	第45図	絵図からみる調査区の位置比定 ..... 67
		第46図	公衆用トイレ建設地点・水景施設地下機械室設置地点 遺構配置図 ..... 68
		第47図	甲府城一の堀範囲復元・推定図 ..... 70

## 表 目 次

第1表	甲府城下町遺跡周辺の遺跡一覧 ..... 9	・土器観察表 ..... 37	
第2表	甲府城下町遺跡および甲府城跡の発掘調査地点一覧 ..... 11	第13表	水景施設地下機械室設置地点 瓦観察表 ..... 37
第3表	平和通り中央分離帯地点ピット観察表 ..... 12	第14表	平成26年度 立会調査・確認調査一覧 ..... 38
第4表	公衆用トイレ建設地点ピット観察表 ..... 15	第15表	平成27年度 立会調査・確認調査一覧 ..... 38
第5表	公衆用トイレ建設地点 陶磁器・土器観察表 ..... 19	第16表	平成28年度 立会調査・確認調査一覧 ..... 40
第6表	公衆用トイレ建設地点 瓦観察表 ..... 19	第17表	平成29年度 立会調査・確認調査一覧 ..... 48
第7表	公衆用トイレ建設地点 金属製品・錢貨観察表 ..... 19	第18表	平成30年度 立会調査・確認調査一覧 ..... 51
第8表	総合案内所建設地点 陶磁器・土器観察表 ..... 25	第19表	確認調査・立会調査 陶磁器・土器観察表 ..... 62
第9表	総合案内所建設地点 瓦観察表 ..... 25	第20表	確認調査・立会調査 瓦観察表 ..... 62
第10表	総合案内所建設地点 石製品観察表 ..... 25	第21表	放射性炭素年代測定および暦年較正結果 ..... 64
第11表	水景施設地下機械室設置地点 ピット観察表 ..... 32		
第12表	水景施設地下機械室設置地点 陶磁器		



# 第1章 調査の経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

甲府駅南口周辺地域修景計画（以下「南口修景計画」という。）は、「風格ある歴史景観と都市景観が調和した居心地が良い、賑わいのある空間づくり～歴史・文化と緑あふれる賑わい回廊づくり～」を基本理念として、平成24年3月に策定された。これに伴い、甲府駅南口駅前広場は交通・交流拠点としての再整備（都市計画道路甲府駅前線他1路線）が、主要地方道甲府韮崎線（以下「平和通り」という。）は風格と賑わいの感じられる緑豊かで開放的な空間づくりを目的とした再整備（主要地方道甲府韮崎線外 甲府南口工区）が行われることとなった（以下「再整備事業」という。）。

当該区域は、周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」として登録されており、当該区域周辺では、平成14年度に甲府駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査（平成14年度）や甲府市庁舎建設に伴う発掘調査（平成22年度）、県庁舎耐震化等整備事業に伴う発掘調査（平成24～27年度）、南口修景計画にかかる駅前駐輪場整備に伴う発掘調査（平成25年度）などが実施され、中世から近代の遺構や遺物が多数みつかっている。

のことから、山梨県県土整備部と山梨県教育委員会によって、再整備事業における埋蔵文化財の取り扱いに関する協議がおこなわれ、工事着手に先立ち埋蔵文化財調査が実施されることになった。

### 〈参考文献〉

- ・山梨県教育委員会 2004『甲府城下町遺跡－甲府駅周辺土地区画整理事業地内43街区埋蔵文化財発掘調査報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第215集
- ・甲府市教育委員会 2013『甲府城下町遺跡IX－庁舎建設に伴う発掘調査報告書－』甲府市文化財調査報告64
- ・山梨県教育委員会 2015『甲府城下町遺跡（駅前駐輪場地点）－甲府駅南口周辺地域修景計画に係る駅前駐輪場整備に伴う発掘調査報告書－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第305集
- ・山梨県教育委員会 2017『甲府城跡－県庁舎耐震化等整備事業に伴う確認調査、発掘調査および立会調査－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第313集

## 第2節 調査の目的と課題

本調査地点周辺では、前節に記述したとおり、これまで実施された周辺の発掘調査において、中世から近代にかけての遺構や遺物が多数発見されている。本調査地点は、江戸時代、甲府城の西側の二の堀に囲まれた武家屋敷などが設置されたエリアであり、調査においては、遺構・遺物の配置および構造を正確に記録・保存し、それらの帰属時期および変遷を明らかにしつつ、土地区画・利用のあり方と武家屋敷地の構造・変遷について解明に努めた。

なお、再整備事業における掘削幅が1m以上となる工事については確認調査を実施し、確認調査の結果、工事掘削により埋蔵文化財が破壊されるものと判断されたものについては記録保存のための発掘調査を実施した。また、掘削幅が1m未満の工事については、工事掘削時の立会調査による記録保存を実施し、立会調査により重要遺構が確認された場合は、その都度協議をおこない、工事設計の変更により重要遺構を埋設保存する等、破壊の範囲を極力最小限にとどめることも課題としている。

## 第3節 発掘調査および確認調査・立会調査の経過

本再整備事業においては、前節に記述したとおり、発掘調査および確認調査・立会調査をおこなっており、このうち、確認調査および立会調査については、各年度中におこなった山梨県県土整備部と山梨県教育委員会による協議にもとづき実施した。発掘調査の経過については、以下のとおりとなる。

### 〔平成26年度 平和通り中央分離帯地点〕

平成26年8月20日に実施した確認調査（H26立会No1）により埋蔵文化財が確認されたことを受け、同年10月7日に山梨県県土整備部（中北建設事務所）と山梨県教育委員会（学術文化財課・埋蔵文化財センター）による現地協議を実施し、調査工程・方法等について確認をおこなった。

平成 26 年 12 月 1 日に作業ヤードを囲うガードフェンスを設置し、機材・重機の搬入をおこなったのち、重機による表土除去作業を実施し、同日中に完了した。また、同月 1 日から 4 日までの間、作業員を雇用し、人力による遺構確認および掘削・記録作業をおこなった。同月 5 日に重機による埋め戻しののち、機材・重機の撤収およびガードフェンスの撤去をおこなった。

#### 《発掘調査にかかる事務手続き》

- ・ 平成 26 年 10 月 20 日 平成 26 年度甲府駅南口周辺地域修景計画に係る甲府城下町遺跡調査計画書（教埋文第 528 号）を山梨県教育委員会学術文化財課長へ提出
- ・ 平成 26 年 10 月 23 日 平成 26 年度甲府駅南口周辺地域修景計画に係わる甲府城下町遺跡に関する確認書を山梨県県土整備部都市計画課長と山梨県教育委員会学術文化財課長で交換
- ・ 平成 26 年 11 月 28 日 文化財保護法第 99 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘調査着手の報告（教埋文第 629 号）を山梨県教育委員会教育長へ提出
- ・ 平成 26 年 12 月 11 日 発掘調査の終了報告（教埋文第 383 号 -1）を山梨県教育委員会学術文化財課長へ提出
- ・ 平成 27 年 3 月 10 日 発掘調査の実績報告（教埋文第 898 号）を山梨県教育委員会教育長へ提出

#### 〔平成 27 年度 公衆用トイレ建設地点〕

平成 27 年 9 月 10・11 日に実施した確認調査（H27 立会 No.4）により埋蔵文化財が確認されたことを受け、同月 18 日に山梨県県土整備部（中北建設事務所）と山梨県教育委員会（学術文化財課・埋蔵文化財センター）による現地協議を実施し、調査工程・方法等について確認をおこなった。

平成 27 年 10 月 20 日に作業ヤード南側に残る構造物の撤去をおこない、同月 22 日にガードフェンスおよび機材庫の設置をおこなった。同月 27 日に、土留め設置と同時に、重機による表土除去および排土の場外搬出を実施し、翌 28 日に完了した。また、10 月 29 日より 11 月 25 日までの期間で作業員を雇用し、人力による遺構確認および掘削・記録作業をおこなった。11 月 27・28 日に土留め撤去と同時に重機による埋め戻し、機材庫の撤収をおこない、11 月 30 日にはガードフェンスの撤去をおこなった。

#### 《発掘調査にかかる事務手続き》

- ・ 平成 27 年 4 月 8 日 平成 27 年度甲府駅南口周辺地域修景計画に係る甲府城下町遺跡調査計画書（教埋文第 24 号）を山梨県教育委員会学術文化財課長へ提出
- ・ 平成 27 年 4 月 17 日 甲府駅南口周辺地域修景計画に係わる駅前広場の整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する確認書を山梨県県土整備部都市計画課長と山梨県教育委員会学術文化財課長で交換
- ・ 平成 27 年 10 月 28 日 文化財保護法第 99 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘調査着手の報告（教埋文第 675 号）を山梨県教育委員会教育長へ提出
- ・ 平成 27 年 12 月 1 日 文化財保護法第 100 条第 2 項に基づく埋蔵文化財発見の通知を山梨県教育委員会教育長へ提出し、甲府警察署長への通知を依頼（教埋文第 778 号）
- ・ 平成 28 年 1 月 8 日 発掘調査の終了報告（教埋文第 864 号）を山梨県教育委員会教育長へ提出
- ・ 平成 28 年 3 月 14 日 発掘調査の実績報告（教埋文第 1098 号）を山梨県教育委員会学術文化財課長へ提出

#### 〔平成 28 年度 総合案内所建設地点〕

平成 28 年 6 月 1～3 日に実施した確認調査（H28 立会 No.4）により埋蔵文化財が確認されたことを受け、同年 8 月 2 日に調査工程・方法等の確認のための現地協議を、山梨県県土整備部（中北建設事務所）と山梨県教育委員会（学術文化財課・埋蔵文化財センター）で実施し、確認調査区域南側の道路部分もふくめて発掘調査をおこなうこととなった。

なお、発掘調査の作業ヤード内では排土置き場が狭小かつ搬出が困難であったため、調査区を A～C の 3 区にわけ、反転して調査をおこなった。



A区では平成28年9月5日に機材搬入および重機による表土除去を実施し、翌6日に完了した。また、9月5日より作業員を雇用し、人力による遺構確認および掘削・記録作業をおこない、10月5日に重機による埋め戻しを実施し、A区の調査を終了した。

翌10月6日にはB区の調査に着手した。6日に表土除去をおこない、以後、同年10月28日まで人力による遺構確認および掘削・記録作業を実施した。なお、埋め戻しは、A区南側の道路（C区）の切り回し作業完了後の同年11月14日にC区の表土除去と合わせて実施した。

C区の調査は、11月14日より開始し、14日の重機による表土除去後、人力による遺構確認および掘削・記録作業をおこない、同月18日に機材搬出および重機による埋め戻しをおこない、すべての作業を終了した。  
《発掘調査にかかる事務手続き》

- ・平成28年4月1日 甲府駅南口周辺地域修景計画に係わる駅前広場の整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する確認書を山梨県県土整備部都市計画課長と山梨県教育委員会学術文化財課長で交換
- ・平成28年9月5日 文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査着手の報告（教理文第473号）を山梨県教育委員会教育長へ提出
- ・平成28年11月29日 文化財保護法第100条第2項に基づく埋蔵文化財発見の通知を山梨県教育委員会教育長へ提出し、甲府警察署長への通知を依頼（教理文第701号）
- ・平成29年3月21日 発掘調査の実績報告（教理文第1029号）を山梨県教育委員会教育長へ提出

#### 〔平成29年度 水景施設地下機械室設置地点〕

平成29年3月31日に実施した立会調査（H28立会No16）により埋蔵文化財が確認されたことを受け、同年4月6日に、調査工程・方法等の確認のための現地協議を、山梨県県土整備部（都市計画課・中北建設事務所）と山梨県教育委員会（学術文化財課・埋蔵文化財センター）で実施し、表土除去および搬出は山梨県県土整備部で実施することとなった。なお、発掘調査対象範囲の土留めシートパイルおよび作業ヤードを囲う安全柵は、山梨県県土整備部による整備工事により事前に設置されていたものを使用した。

平成29年4月10日に重機による表土除去および排土の場外搬出が山梨県県土整備部によりおこなわれ、同日中に完了した。また、4月10日より同月27日までの期間で作業員を雇用し、人力による遺構確認および掘削・記録作業をおこなった。

#### 《発掘調査にかかる事務手続き》

- ・平成29年4月1日 平成29年度甲府駅南口周辺地域修景計画に係る甲府城下町遺跡調査計画書（教理文第87号）を山梨県教育委員会学術文化財課長へ提出
- ・平成29年4月3日 甲府駅南口周辺地域修景計画に係わる駅前広場の整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する確認書を山梨県県土整備部都市計画課長と山梨県教育委員会学術文化財課長で交換
- ・平成29年4月7日 文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査着手の報告（教理文第14号）を山梨県教育委員会教育長へ提出
- ・平成29年5月4日 文化財保護法第100条第2項に基づく埋蔵文化財発見の通知を山梨県教育委員会教育長へ提出し、甲府警察署長への通知を依頼（教理文第778号）
- ・平成30年3月27日 発掘調査の実績報告（教理文第788号）を山梨県教育委員会学術文化財課長へ提出

## 第4節 整理等作業の経過

#### 〔平成27年度〕

**担当者** 文化財主事 御山亮済、非常勤嘱託 上野桜

**整理作業員** 小関香里、小菅春江、佐野香織、古屋ひろみ

平成27年7月6日から平成28年3月30日にかけて基礎的整理作業としては甲府城下町遺跡に関係する埋蔵文化財情報の精査と、公衆用トイレ建設地点発掘調査出土遺物の水洗・注記・接合・実測作業を実施した。

[平成 28 年度]

**担当者** 主査・文化財主事 依田幸浩、文化財主事 上野桜

**整理作業員** 川住たまみ、佐野香織、古屋ひろみ、保坂理恵子

平成 28 年 5 月 25 日から平成 29 年 3 月 17 日にかけて基礎的整理作業として、甲府城下町遺跡に関係する埋蔵文化財情報の精査と、総合案内所建設地点発掘調査および確認調査・立会調査出土遺物の水洗作業を実施した。

[平成 29 年度]

**担当者** 文化財主事 上野桜

**整理作業員** 小菅春江

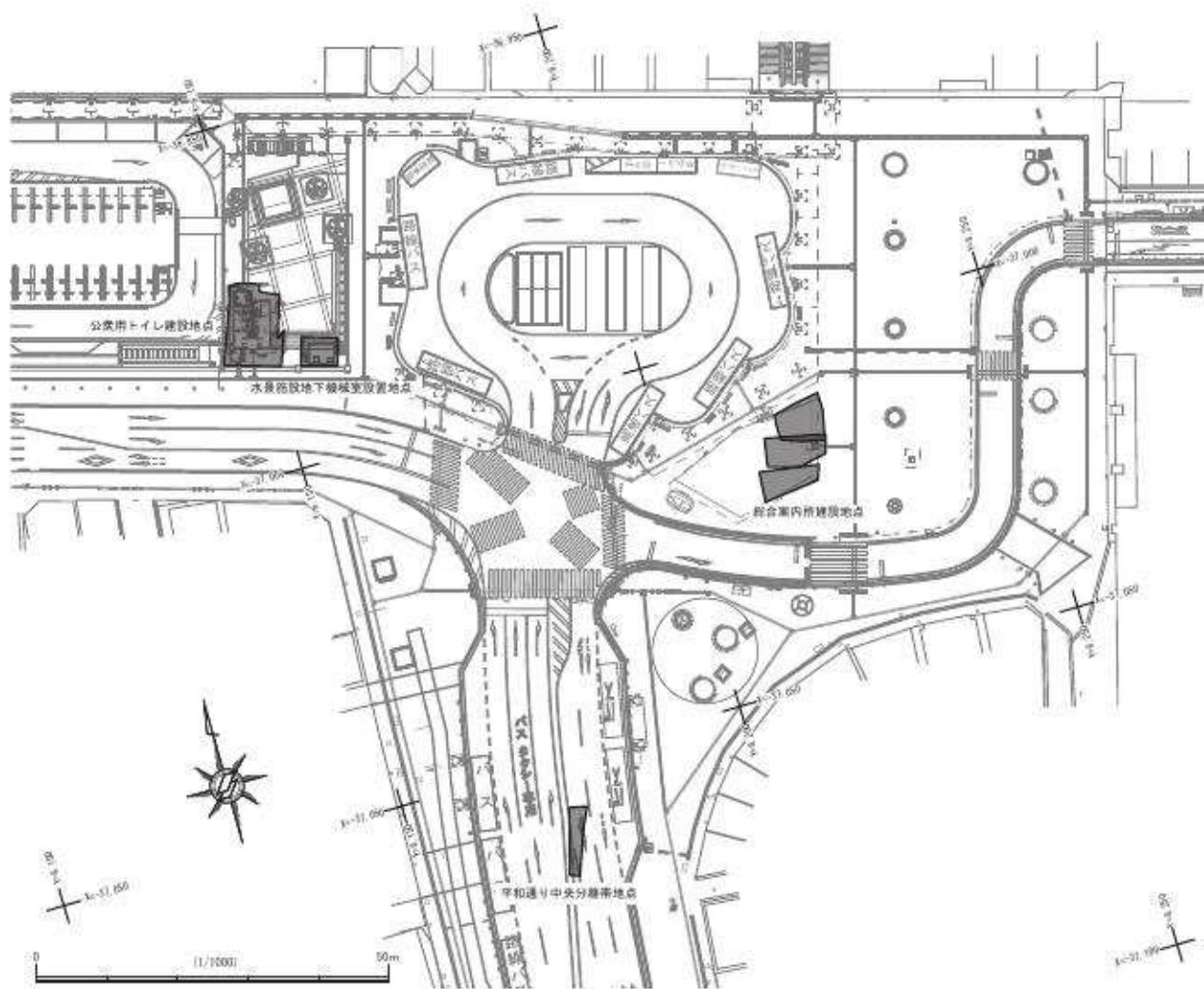
平成 30 年 2 月 5 日から同年 3 月 16 日にかけて基礎的整理作業として、水景施設地下機械室設置地点発掘調査および確認調査・立会調査出土遺物の水洗作業および記録図面・写真類の整理を実施した。

[平成 30 年度]

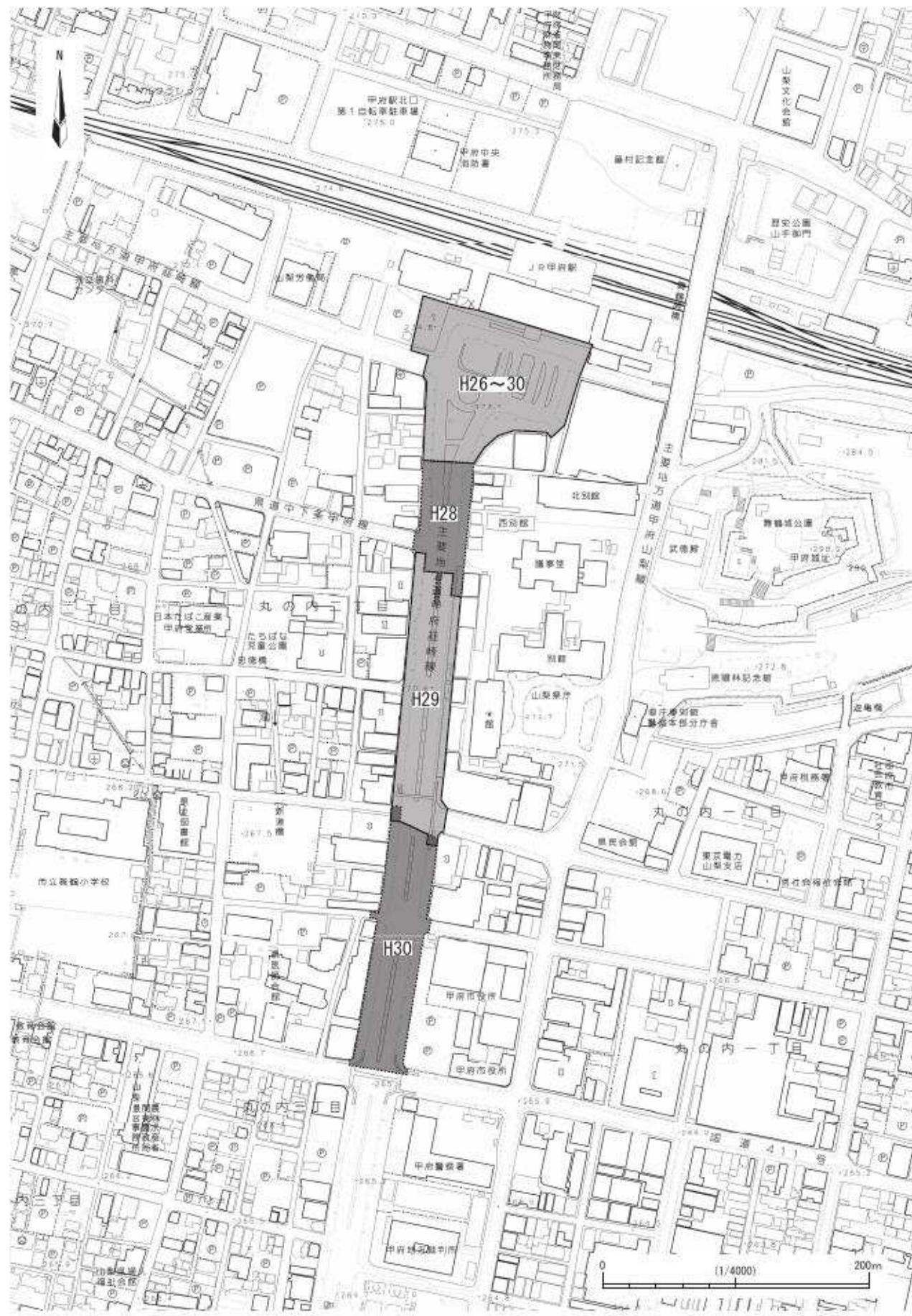
**担当者** 副主査・文化財主事 正木季洋、非常勤嘱託 塩谷風季

**整理作業員** 石坂恵理、清水真弓、土井みさほ

平成 30 年 8 月 1 日から平成 31 年 1 月 31 日にかけて本格的整理作業として作業員を雇用し、平成 30 年度出土遺物の水洗作業、平成 28 年度以降出土遺物の注記・接合作業、平成 27 年度以降出土遺物の実測およびデジタルトレース作業、遺構図面のデジタルトレース作業、遺構・遺物の図版作成作業、記録図面・写真類の整理を実施した。また、原稿執筆・編集作業を担当者がおこない、平成 31 年 3 月 15 日に報告書を刊行した。



第 1 図 発掘調査位置図



第2図 確認調査・立案調査 年度別範囲図



## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

本書にて報告する周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」は、山梨県の県庁所在地である甲府市に所在する。

甲府市は県土中央に展開する甲府盆地を南北に縦断する細長い市域を持つ。南端は甲府盆地南縁にて富士河口湖町と接し、北端は甲府市最高地点である金峰山にて長野県境となる。今回の調査地点が所在する甲府市中心市街地は、北に要害山をはじめとする水ヶ森山地が発達して甲府盆地北縁の一角を構成する。水ヶ森山地と甲府盆地の境界では、秩父山塊へ続く太良ヶ峰より南流する相川が甲府市下積翠寺町付近を扇頂として、相川扇状地を形成する。相川扇状地は東方を興因寺山(854.5m)、西方を北から順に要害山(787m)、大笠山(518.9m)、愛宕山(427.9m)に囲まれる。愛宕山の南西には、相川扇状地の形成とともに周囲が埋没することで形成されたとされる一条小山と呼ばれる独立丘陵がある。近世には一条小山の山体に甲府城が築かれたとともに、甲府城を中心に城下町が形成された。

甲府城および甲府城下町は、一の堀に囲まれた「内城」、内城外縁から二の堀に囲繞された「内郭」、二の堀から三の堀に囲まれた「外郭」、三の堀外側の「郭外」から構成される。内郭には家老屋敷などの諸役所・倉庫・武家屋敷地、外郭には町人地・武家屋敷地、郭外には町人地・寺社地がそれぞれ置かれた。現在、内城部分の大半は国史跡甲府城跡に指定され、内郭および外郭と郭外の一部は周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」として遺跡台帳に登録されている。

今回の調査地点は内城西側の内郭および外郭に位置する。調査地点北部から中央部にかけては内郭にあたり、北西部は18世紀前半の絵図においては、柳沢家家老柳沢権太夫の屋敷地として描かれている。現在においては、甲府駅南口駅前広場の西部に位置し、西側には山梨県埋蔵文化財センターが調査した「甲府城下町遺跡(駅前駐輪場地点)(第2表-65)」が隣接する。調査地点北東部から中央部は内城西側の一の堀および一の堀に沿う道路にあたり、現在は主要地方道甲府韮崎線(通称「平和通り」)となる。また、調査地点南部は外郭に該当し、二の堀および二の堀に沿う道路地にあたり、現在においては、甲府市役所西側の主要地方道甲府韮崎線となる。

### 第2節 歴史的環境 ※( )内の番号は第2図及び第1表中の番号に該当する。

#### 旧石器時代

これまでの甲府盆地における調査では、旧石器時代の居住地と考えられる遺跡は発見されていない。甲府市域においても同様であるが、八幡神社遺跡(93)において、ナイフ形石器や切出形石器など4点の石器が見つかっている。ただし、剥片の出土は確認できず、拠点的な居住域ではないことが指摘されるが、この時代にヒトが立ち入る領域であったことが窺える。

#### 縄文時代

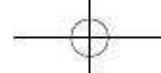
山梨県全域において、縄文時代の遺跡数が多い。しかし、甲府市域においては対照的に少なく、相川扇状地域においては、緑ヶ丘二丁目遺跡(84)や大手下遺跡(88)、八幡神社遺跡などに限られる。ただし、甲府城下町遺跡のこれまでの発掘調査において、縄文時代に帰属する遺物が少量ながら発見されていることから、未発見の遺跡も存在するかもしれない。周辺地域を見ると、集落遺跡として北原遺跡(14)、朝氣遺跡(15)、上石田遺跡(16)がある。

#### 弥生時代

山梨県における遺跡数の傾向では、弥生時代になると遺跡数は減少する。甲府市域も例外ではなく、集落跡が塙部遺跡(13)や朝氣遺跡(15)で発見されるに留まり、遺跡の分布は極めて希少である。

#### 古墳時代

甲府城下町遺跡内では、しばしば古墳時代に帰属する遺物が出土する。また、甲府地方裁判所地点(第2表-50)においては、堅穴状遺構より弥生時代末～古墳時代前期の遺物が伴出するものの、甲府城下町遺跡内において中・近世以前の遺構が見つかるることは珍しい。周辺地域を見ると、甲府城下町遺跡に隣接する塙部遺



跡(13)においては、古墳時代前期の集落跡及び方形周溝墓群が発見されている。方形周溝墓からは古墳時代前期(4世紀後半)のウマの歯が出土しており、甲府盆地北部のこの地において当該期の一勢力を構成していたことが窺える。また、6世紀前半には、甲府城下町遺跡の北西にある湯村山山麓に万寿森古墳(27)が築造されるほか、湯村山(21~26)、愛宕山(52~61)、善光寺周辺地域(34~51)に古墳や積石塚が築かれる。

#### 古代

古代律令下において、甲斐国では山梨郡・巨摩郡・八代郡・都留郡の4郡が置かれた。現在の甲府市域は、古代甲斐国では北東部は山梨郡表門郷、北西部が巨摩郡青沼郷、南部は八代郡白井郷の3郡にまたがる。甲府城下町遺跡の周辺地域では、古墳時代後半から平安時代堅穴建物跡や溝、近世の墓塚などが検出された青沼遺跡(69)や弥生時代から平安時代にかけて形成された集落遺跡である朝氣遺跡が所在する。これらの遺跡は甲府城下町遺跡の南東に位置し、古代には巨摩郡青沼郷の一角をなしていたとされ、特に大規模な集落跡であった朝氣遺跡は、青沼郷の中心地と推定された。

#### 中世

甲斐源氏の始祖である新羅三郎義光の嫡男忠頼は、甲府城が築城される以前の一条小山及び、その周辺に所在した一条郷を領して一条忠頼と称した。一条小山の名称は、忠頼がこの地に居館を置いたことに由来している。寿永三(1184)年、忠頼が源頼朝に誅殺されると、忠頼夫人により菩提の尼寺が建立される。正和元(1312)年には遊行二世他阿真教に帰依した一条時信により時宗寺院として改められ、名を稻久山一蓮寺とした。16世紀前半には武田信虎により甲府の北方、躑躅ヶ崎の地に館が築かれ、信虎・信玄・勝頼の約60年間にわたり武田城下町が整備され、町は発展した。

#### 近世(武田氏滅亡~甲府勤番期)

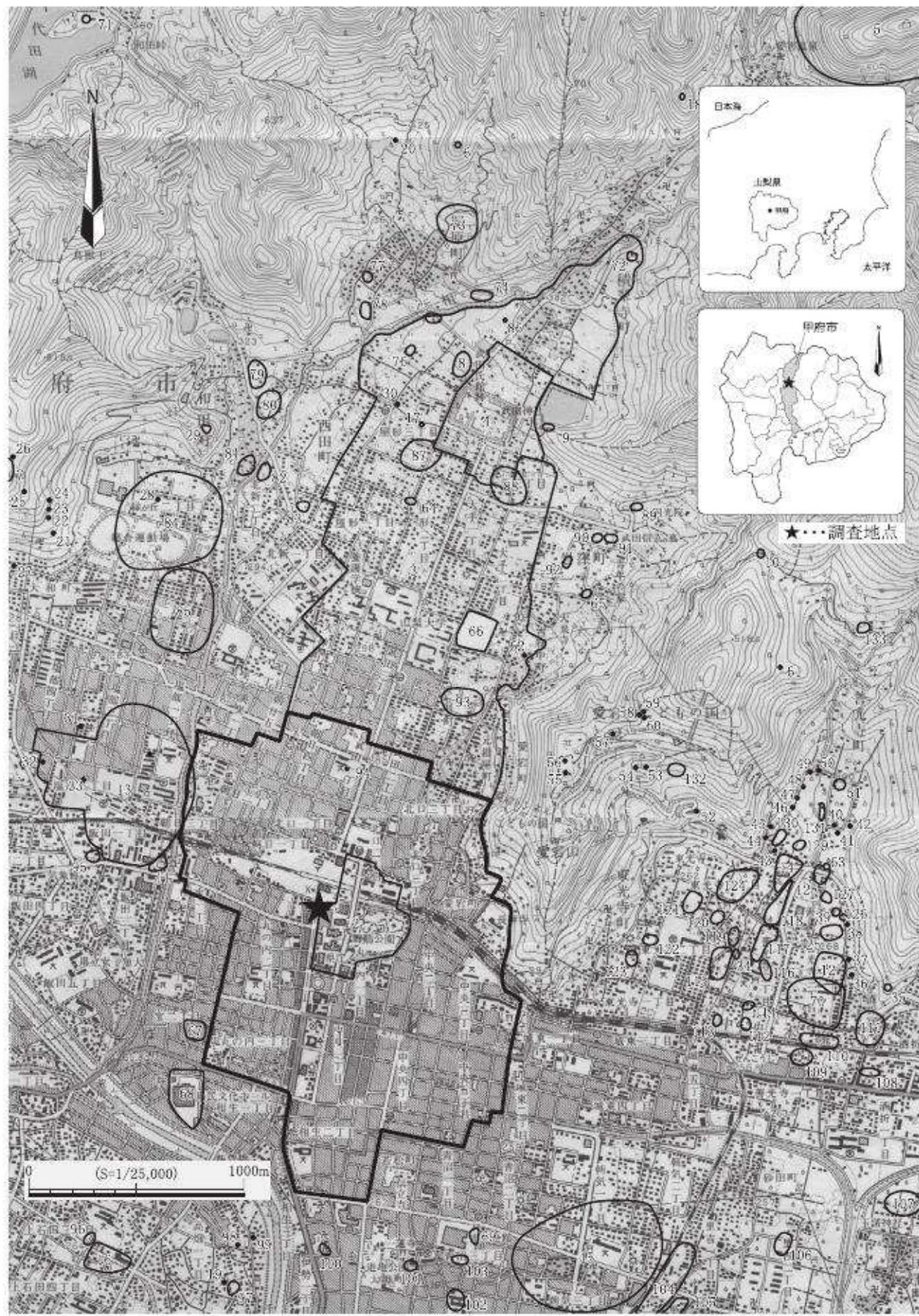
天正十(1582)年に武田氏が滅亡して以降、甲斐国は織田信長の家臣である河尻秀隆が支配することとなるが、同年に本能寺にて信長が倒されると秀隆は一揆により殺害され、徳川家康の家臣平岩親吉が支配するようになる。しかし、同十八(1590)年に家康が関東へ移封されると、豊臣秀吉の甥である羽柴秀勝が甲斐国に置かれ、翌年には代わって秀吉の家臣である加藤光泰、同じく浅野長政へと、甲斐国の支配者は目まぐるしく変化していった。甲府城は秀吉の命令により関東の徳川家康をけん制する目的で、羽柴秀勝、加藤光泰らによって築城が始められ、浅野長政、幸長父子の頃(1600年頃)に完成をみたと言われている。甲府城が築かれた一条小山にあった一蓮寺は天正十九(1591)年頃には城下町の南方に移転され、他の寺院も城や城下町整備時に順次移動させられている。

慶長五(1600)年の関ヶ原の戦い以後、長政・幸長が紀伊国和歌山へ転封され、甲斐国は再び家康の支配下となる。翌慶長六(1601)年に平岩親吉が再び甲府城代として配され、この親吉の治世時に甲府城が完成したと推測される。慶長八(1603)年には徳川義直が甲府城主(城代平岩親吉)となるが、慶長十二(1607)年、義直が尾張清洲城に、親吉が尾張犬山城に転封になると、甲斐国は幕府の直轄地となり、武川十二騎が城番を務めるようになった。元和二(1616)年には2代將軍秀忠の三男忠長が甲府城主となるが、寛永九(1632)年に忠長が改易されると、甲斐国は再び幕府直轄領となる。寛文元(1661)年、3代將軍家光の三男綱重が甲府城主に任せられ、綱重の逝去後は綱重の子綱豈が遺領を継ぎ、甲府城主となる。

宝永元(1704)年に綱豈が5代將軍綱吉の養子となり江戸城西の丸に配されると、綱吉の側用人である柳沢吉保が甲府城主となり、翌宝永二(1705)年には甲府城の屋形曲輪・楽屋曲輪などの殿舎の造営と石垣の修築を行うとともに、武家地の不足に伴い城下町の再整備が行われた。宝永七(1710)年には吉保の子の吉里が甲府城主となるが、享保九(1724)年には、8代將軍吉宗による享保の改革に伴い、吉里は大和郡山城に転封となり、甲斐国は再度幕府直轄領として甲府勤番による統治がなされる。

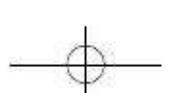
#### 近代(明治~太平洋戦争)

明治六年(1873)の廃城令により甲府城は内城のみが残されることとなり、明治十年前後には城内の主要な建物はほとんどが取り壊された。明治三十六年(1903)の中央線開通に伴い屋形曲輪・清水曲輪が解体され、昭和30年代まで堀の埋め立てや石垣の解体が行われた。甲府城・甲府城下町の跡には次第に新しい市街地が造られ、調査地周辺も甲府駅南口の駅前広場および主要地方道甲府韮崎線へと姿を変えていった。



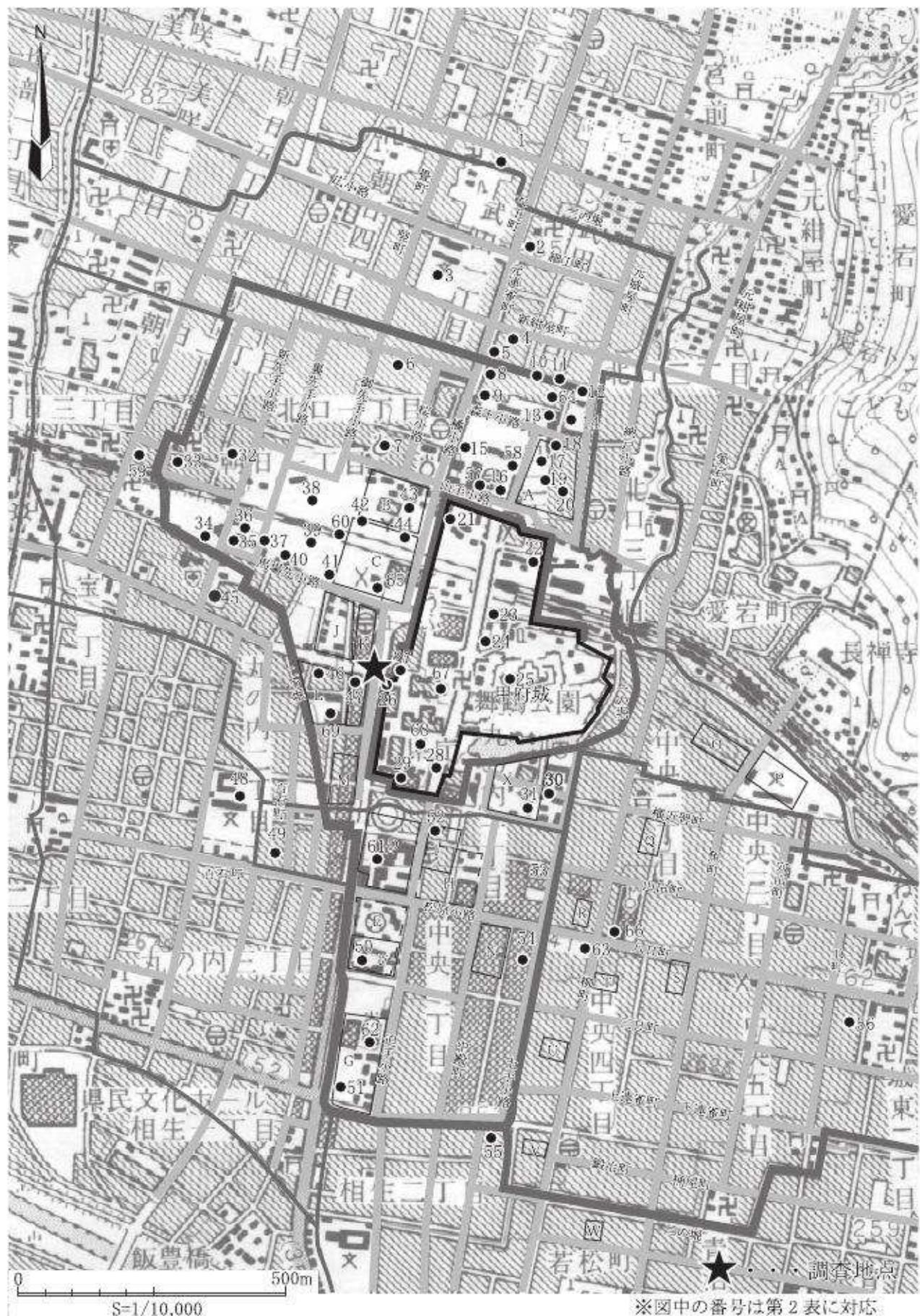
第3図 甲府城下町遺跡の周辺遺跡

※図中の番号は第1表に対応



第1表 甲府城下町遺跡の周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
1	甲府城下町遺跡	近世	城館跡	68	寿町遺跡	繩文～近世	包蔵地
2	甲府城跡	近世	城館跡	69	青沼遺跡	古墳	包蔵地
3	武田城下町遺跡	中世	城館跡	70	本郷遺跡	繩文・古墳～近世	包蔵地
4	武田氏館跡	中世	城館跡	71	丸山遺跡	繩文・古墳	散布地
5	要害城跡	中世	城館跡	72	日影田遺跡		散布地
6	鎌推塙山遺跡	中世	城館跡	73	山路遺跡		散布地
7	渕村山城跡	中世	城館跡	74	不動遺跡	近世	散布地
8	土屋敷遺跡	中世	城館跡	75	御馬屋小路A遺跡	中世	散布地
9	躑躅ヶ崎亭跡	中世	城館跡	76	御馬屋小路B遺跡		散布地
10	茶堂烽火台	中世	城館跡	77	西前田A遺跡	中世・近世	散布地
11	横田氏屋敷跡	中世	城館跡	78	西前田B遺跡		散布地
12	板垣氏屋敷跡	中世	城館跡	79	十二天遺跡	平安	散布地
13	塙部遺跡	弥生～平安	集落跡	80	永井遺跡	古墳・平安	散布地
14	北原遺跡	縄文・平安	集落跡	81	村之内遺跡	古墳～平安	散布地
15	朝氣遺跡	縄文～平安	集落跡	82	向田A遺跡	弥生・古墳	散布地
16	上石田遺跡	縄文	集落跡	83	向田B遺跡		散布地
17	峰本南A遺跡	中世	寺院跡	84	緑ヶ丘二丁目遺跡	古墳～平安	散布地
18	一ノ森経塙遺跡群	中世	経塙	85	緑ヶ丘一丁目遺跡	古墳	散布地
19	高源寺経塙	近世	経塙	86	日影遺跡		散布地
20	疣石古墳	古墳	古墳	87	峰本南B遺跡	近世	散布地
21	渕村山1号墳	古墳	古墳	88	大手下遺跡	縄文	散布地
22	渕村山2号墳	古墳	古墳	89	岩窪C遺跡	古墳	散布地
23	渕村山3号墳	古墳	古墳	90	中道東遺跡	近世	散布地
24	渕村山4号墳	古墳	古墳	91	岩窪A遺跡	近世	散布地
25	渕村山5号墳	古墳	古墳	92	中道西遺跡	古墳	散布地
26	渕村山6号墳	古墳	古墳	93	八幡神社遺跡	縄文	散布地
27	万寿森古墳	古墳	古墳	94	新御屋小学校遺跡	近世	散布地
28	和田無名塙	古墳	古墳	95	飯田一丁目遺跡	弥生・古墳	散布地
29	三光寺山遺跡	古墳	古墳	96	上石田B遺跡	平安	散布地
30	お塙さん古墳	古墳	古墳	97	宮北遺跡	縄文・平安	散布地
31	早乙女塙古墳	古墳	古墳	98	大北河原遺跡	平安	散布地
32	鴨塙古墳	古墳	古墳	99	久保北河原遺跡	平安	散布地
33	荒神塙古墳	古墳	古墳	100	千松院遺跡	中世	散布地
34	法印塙古墳	古墳	古墳	101	太田町遺跡	古墳～近世	散布地
35	不老園塙古墳	古墳	古墳	102	渕田一丁目遺跡	古墳	散布地
36	ポンボコ塙	古墳	古墳	103	青沼三丁目遺跡	中世・近世	散布地
37	おめ塙古墳	古墳	古墳	104	里吉天神遺跡	古墳～平安	散布地
38	善光寺無名塙	古墳	古墳	105	家之前遺跡	平安	散布地
39	善光寺無名塙	古墳	古墳	106	中坪遺跡	古墳	散布地
40	三日月古墳	古墳	古墳	107	大橋遺跡	中世	散布地
41	地藏塙古墳	古墳	古墳	108	内林遺跡	近世	散布地
42	鉢塙古墳	古墳	古墳	109	本郷C遺跡	古墳～中世	散布地
43	北原無名1号墳	古墳	古墳	110	本郷B遺跡	平安～近世	散布地
44	北原無名3号墳	古墳	古墳	111	酒折縄文遺跡	縄文	散布地
45	北原無名4号墳	古墳	古墳	112	宮の前遺跡	縄文	散布地
46	北原無名5号墳	古墳	古墳	113	東光寺遺跡	平安～近世	散布地
47	北原無名6号墳	古墳	古墳	114	説教遺跡	平安～近世	散布地
48	北原無名7号墳	古墳	古墳	115	銀杏之木遺跡	平安～近世	散布地
49	善光寺塙2号墳	古墳	古墳	116	上郷遺跡	平安～近世	散布地
50	善光寺塙1号墳	古墳	古墳	117	宮之船B遺跡	縄文・平安	散布地
51	北善光B遺跡	古墳	古墳	118	宮之船A遺跡	縄文・平安	散布地
52	山美莊古墳	古墳	古墳	119	宮裏遺跡	平安～近世	散布地
53	大笠山3号墳	古墳	古墳	120	六大天遺跡	平安～近世	散布地
54	大笠山2号墳	古墳	古墳	121	亥ノ堀遺跡	縄文・古墳・平安～近世	散布地
55	夢見山2号墳	古墳	古墳	122	六反田遺跡	平安～近世	散布地
56	夢見山1号墳	古墳	古墳	123	御崎田遺跡	平安	散布地
57	大笠山1号墳	古墳	古墳	124	地藏北遺跡	古墳～平安	散布地
58	二少塙1号墳	古墳	古墳	125	殿屋敷遺跡	平安～近世	散布地
59	二少塙2号墳	古墳	古墳	126	南善光A遺跡	平安～近世	散布地
60	二少塙3号墳	古墳	古墳	127	南善光B遺跡	古墳～平安	散布地
61	一少塙古墳	古墳	古墳	128	善光寺北遺跡	縄文・平安	散布地
62	コツ塙古墳	古墳	古墳	129	堤下A遺跡	平安～近世	散布地
63	上土器窯跡	奈良	瓦窯跡	130	堤下B遺跡	平安～近世	散布地
64	長間遺跡	中世	包蔵地	131	北善光A遺跡	平安～近世	散布地
65	岩窪遺跡	奈良～中世	包蔵地	132	大笠山水の元遺跡	古墳	散布地
66	山梨大学遺跡	奈良・平安	包蔵地	133	茶堂遺跡	平安	散布地
67	宝町遺跡	縄文・平安	包蔵地				



第4図 甲府城下町旧街路・旧町名図及び主要調査地点

※図中の番号は第2表に対応

第2表 甲府城下町遺跡および甲府城跡の発掘調査地点一覧

番号	遺跡名	番号	遺跡名
★	甲府城下町遺跡(南口修景事業調査地点)	48	甲府城下町遺跡(舞鶴小学校)
1	甲府城三の堀	49	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目623地点(百石町武家屋敷跡))
2	甲府城下町遺跡(武田二丁目10-100地点)	50	甲府城下町遺跡(甲府地方裁判所地点)
3	甲府城下町遺跡(元組屋小学校校庭地点)	51	甲府城下町遺跡(集会所地点)
4	甲府城下町遺跡(武田二丁目82-3地点)	52	甲府城下町遺跡(紅梅地区再開発)
5	甲府城下町遺跡(武田二丁目(いちやまマート駐車場跡))	53	甲府城下町遺跡(丸の内一丁目505-1他地点)
6	甲府城下町遺跡(朝日四丁目99他地点)	54	甲府城下町遺跡(中央一丁目115他地点)
7	甲府城下町遺跡(北口一丁目50-1地点)	55	甲府城下町遺跡(相生二丁目4地点)
8	甲府城下町遺跡(北口二丁目17-18-21地点)	56	甲府城下町遺跡(城東二丁目9)
9	甲府城下町遺跡(北口二丁目12-1地点)	57	甲府城下町遺跡(舞鶴城公園西通り西区)
10	甲府城下町遺跡(桜シルク跡B区)	58	甲府城下町遺跡(舞鶴城公園西通り線北・南区)
11	甲府城下町遺跡(北口二丁目(二の堀跡))	59	甲府城下町遺跡(土地開発整理事業17街区)
12	甲府城下町遺跡(北口二丁目14-9地点)	60	甲府城下町遺跡(土地区画整理事業43街区)
13	甲府城下町遺跡(桜シルク跡A区)	61	甲府城下町遺跡(甲府市庁舎建設地点)
14	甲府城下町遺跡(日向町遺跡第1地点)	62	甲府城下町遺跡(甲府法務局建設地点)
15	甲府城下町遺跡(武田県道沿い)	63	甲府城下町遺跡(古府中環状浅原橋線)
16	甲府城下町遺跡(北口二丁目(県立図書館建設地点))	64	甲府城下町遺跡(北口二丁目1-8・1-9地点)
17	甲府城下町遺跡(日向町遺跡第2地点)	65	甲府城下町遺跡(駅前駐輪場地点)
18	甲府城下町遺跡(北口二丁目94地点)	66	甲府城下町遺跡(旧柳町一丁目地点)
19	甲府城下町遺跡(森田氏屋敷跡)	67	甲府城跡(県庁構内委員会室棟地点)
20	甲府城下町遺跡(北口三丁目101(納戸小路武家屋敷跡))	68	甲府城跡(県庁構内前庭地点)
21	甲府城跡(清水曲輪地点)	69	甲府城下町遺跡(公用車等駐車場地点)
22	甲府城跡(30街区地点(山手門))		
23	甲府城跡(駐輪場(櫻形曲輪))		
24	甲府城跡(駐車場(櫻形曲輪))		
25	国指定史跡甲府城跡		
26	甲府城跡(県庁前ローソン地点)		
27	甲府城跡(櫛門)		
28	甲府城跡(追手門)		
29	甲府城跡(楽屋曲輪地点)		
30	甲府城下町遺跡(丸の内一丁目13(市道))		
31	甲府城下町遺跡(丸の内一丁目13-9地点)		
32	甲府城下町遺跡(朝日二丁目214)		
33	甲府城下町遺跡(横沢口)		
34	甲府城二の堀		
35	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目8-8地点)		
36	甲府城下町遺跡(丸の内一丁目2-3他地点)		
37	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目(裏先手小路跡))		
38	甲府城下町遺跡(B西区)		
39	甲府城下町遺跡(丸の内一丁目1-3地点)		
40	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目183地点)		
41	甲府城下町遺跡(43街区労働局地点)		
42	甲府城下町遺跡(B区)		
43	甲府城下町遺跡(北口一丁目1-5地点(山手御役宅跡))		
44	甲府城下町遺跡(A区)		
45	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目109地点)		
46	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目31-9地点)		
47	甲府城下町遺跡(丸の内二丁目3地点)		



## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 平和通り中央分離帯地点

調査期間 平成26年12月1日～5日

調査担当者 主幹・文化財主事 浅川一郎、副主幹・文化財主事 吉岡弘樹

発掘作業員 北野礼子 土屋常子 望月孝次

#### 第1項 調査の方法

発掘調査は、確認調査（平成26年度立会No.1）の成果をもとに、南北約10m、東西約1.5～3m、調査面積約23m<sup>2</sup>の範囲を対象に実施した。調査対象地は主要地方道甲府韮崎線の道路敷内にあることから、調査実施にあたり道路占有許可を山梨県知事より、また、道路使用許可を甲府警察署長より取得し、安全対策として調査対象区域を囲むガードフェンスにチューブライトを設置した。

表土層の除去は試掘調査の結果をふまえて、地表下約1.2mにみられる暗黄褐色土層上面の遺構確認面直上まで重機を用いて掘削し、以下、人力による掘り下げおよび遺構確認を行った。平面プランを確認できた遺構については、完掘後、図化・写真撮影等記録作業を行った。

記録図類については世界測地形座標に基づく基準杭を設置し、遠方測量により測量で作成した。また、記録写真については小型一眼レフカメラによる35mmモノクロネガ・カラーポジを主体に撮影し、補足的にデジタルカメラも使用した。

#### 第2項 層序

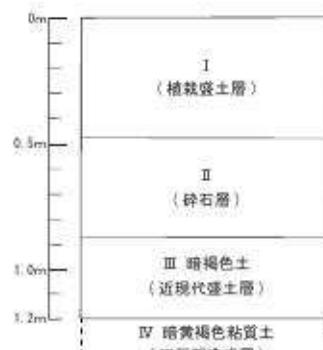
調査区内において地表下よりI～IV層の4つの土層堆積が確認された（第5図）。以下に、個々の層について概観する。

I層：表土層であり、主要地方道甲府韮崎線の中央分離帯内の植栽用盛土層である。

II層：5cm大の角礫を主体とした、近代～現代の盛土（碎石）層である。

III層：暗褐色土を主体とする土層であり、20～30cm大の角礫を含む。層中にII層でみられる碎石も混じるなど、近代～現代の盛土層の可能性がある。

IV層：暗黄褐色の粘質土を主体とし、黒色粘質土粒・黄褐色粘質土粒を含む土層であり、遺構はこの層の上面より確認されている。江戸期の造成層の可能性がある。



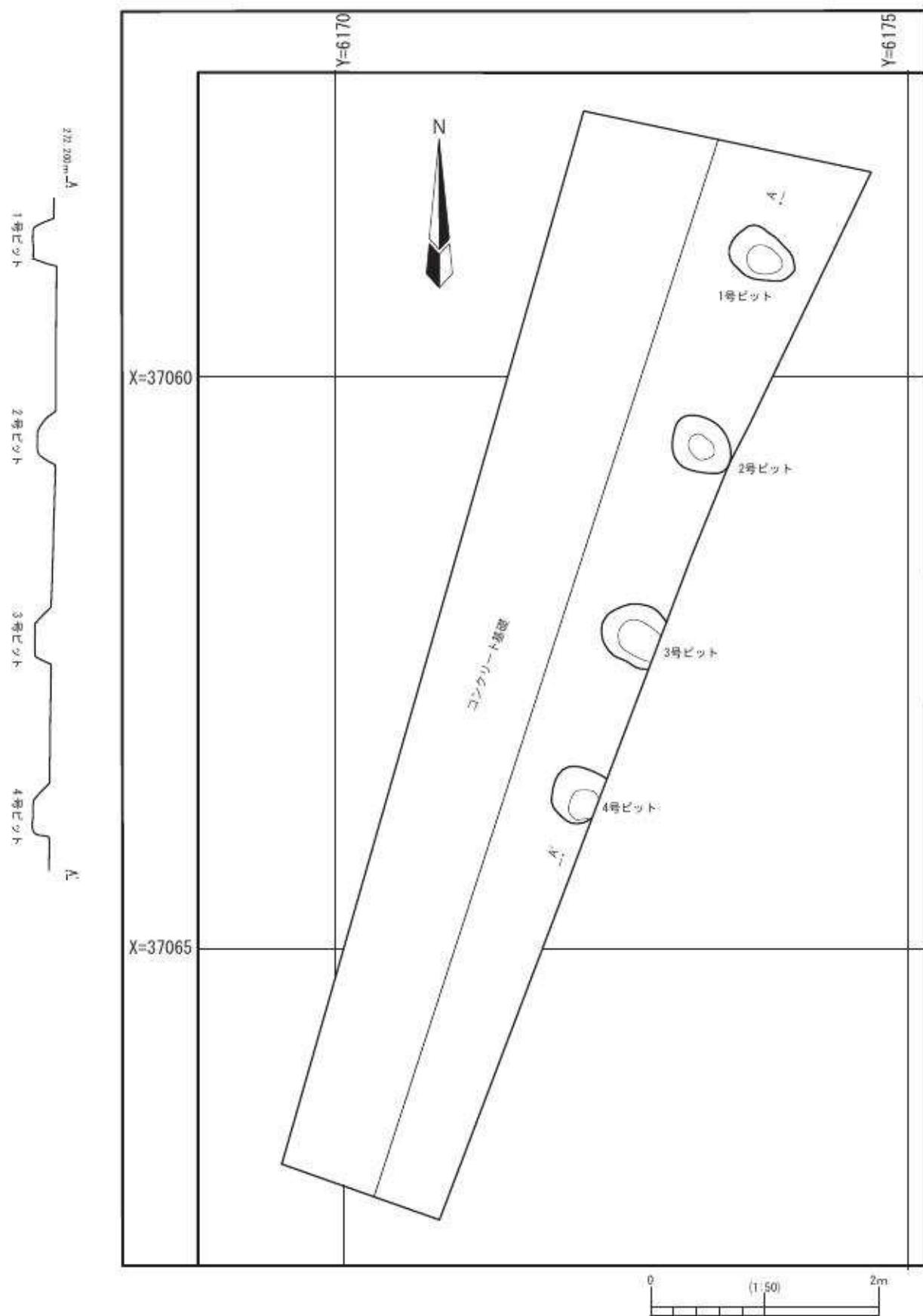
第5図 平和通り中央分離帯地点  
土層模式図

#### 第3項 遺構

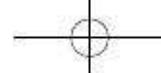
4基のピットが、約1.8mの間隔で南北方向に並んだ状態で確認された（第6図）。いずれのピット内も、黒褐色土を主体とし黄灰色～褐色土粒を含む層が堆積している。また、ピットからは遺物は検出されていない。

第3表 平和通り中央分離帯地点ピット観察表

ピット番号	形状	規模(m)			出土遺物	備考
		長径	短径	深さ		
1号ピット	椭円形	0.60	0.41	0.22	-	
2号ピット	椭円形	0.58	0.45	0.22	-	
3号ピット	椭円形	-	0.52	0.15	-	
4号ピット	椭円形	-	0.49	0.15	-	



第6図 平和通り中央分離帯地点 全体図



## 第2節 公衆用トイレ建設地点

本節では、平成27年度に発掘調査を実施した甲府駅南口駅前広場公衆用トイレ建設地点の成果と、翌28年度に隣接地で実施した立会調査（平成28年度立会調査No.3）の成果をあわせて報告する。なお、平成27年度の発掘調査により確認した遺構には「H27」を、平成28年度の立会調査により確認した遺構には「H28」を遺構名の前に付している。

**調査期間** 《平成27年度》平成27年10月20日～11月30日

《平成28年度》平成28年5月31日～6月3・6・9日

**調査担当者** 《平成27年度》文化財主事 御山亮済、非常勤嘱託 上野桜

《平成28年度》主幹・文化財主事 浅川一郎、主査・文化財主事 依田幸浩

文化財主事 久保田健太郎、文化財主事 上野桜、非常勤嘱託 加々美鮎美

**発掘作業員** 《平成27年度》新谷博朋 小林英樹

《平成28年度》新谷和美 山本茂樹

### 第1項 調査の方法

#### 1. 調査区の規模

平成27年度の調査区は南北約8.6m、東西約3mの長方形に近い形状となる。平成28年度の調査区は、平成27年度の外周と西側に広がる南北約11.5m、東西約8mの範囲であり、総調査面積は約83m<sup>2</sup>である。

#### 2. 表土層の除去

平成27年度は確認調査（平成27年度立会No.5）の結果をふまえて、地表下約0.9mにみられる江戸期の遺物包含層である暗黄褐色土層上面まで重機を用いて掘削を行った。なお、調査区北部および西部は近現代の工事などにより掘削されており、碎石が地表下2m以上にわたり充填されていた。

平成28年度は、地表下約2mにみられる江戸期の遺構確認面である暗褐色土層上面まで重機を用いて掘削を行った。

#### 3. 表土層除去後の調査

平成27年度は、遺物包含層を人力により掘り下げ、平成28年度は重機による表土除去後に人力による精査を行い、遺構確認を行った。

平面プランを確認できた遺構については、遺構の規模に応じて土層観察ベルトを設定するか、半裁する方法で掘削し、遺構断面図・土層堆積状況図・遺構平面図・遺物出土状況図を適宜作成し、同時に記録写真撮影を行った。記録図類については世界測地形座標に基づく基準杭を設置し、立面図および詳細図などの平面図の一部は方眼紙への計測図化、平面図は光波測量機とコンピュータによる測量で作成した。また、記録写真については小型一眼レフカメラによる35mmモノクロネガ・カラーポジを主体に撮影し、補足的にデジタルカメラも使用した。出土した遺物については、光波測量機とコンピュータを用いて出土点を記録した。

### 第2項 層序

基本土層は、調査区内に安定的に堆積するI～V層の5つの層に分けられる（第8図）。土層の確認は、平成27年度調査区南壁および平成28年度調査区西側北壁付近にて行った。以下に、個々の層について概観する。

I層：コンクリート片などを含む褐色の粘質土層であり、近現代の造成土と思われる。

II層：明黄褐色のシルト質土層であり5cm大の礫を含む。北側に向かい厚く堆積することから、駅舎整備に伴う整地土層の可能性がある。

III層：褐色粘質土層で5cm大の礫を含む。II層との関係から、駅舎整備前の近代の地盤層の可能性がある。

IV層：暗褐色粘質土で礫を含まず、炭化物と江戸期の遺物を包含する層である。

V層：暗褐色土で暗黄褐色土粒を斑状に含む地山層であり、層上面から江戸期の遺構が確認されている。

### 第3項 遺構と遺物

甲府駅南口駅前広場公衆用トイレ建設地点では近世に属する遺構を検出した。検出した遺構は地業跡1基(平成27年度)、井戸1基(平成28年度)、溝状遺構1条(平成28年度)、ピット14基(平成27年度:4基、平成28年度:10基)である。

#### 1.H27－地業跡(第8・9図)

**遺構概要** 調査区南西部に位置する。南北約2m、幅約0.5m、L字状のプランで南北方向に主軸を有し、北側において東方向に屈曲する。南北約0.6mの溝状の掘り込みに粘性の強い土を充填してつき固めた構造であり、建物の地業跡と考えられる。北東部には5~30cm大の礫集中が盛土確認面と同レベルでみられる。

**出土遺物** 時期を特定する遺物は出土していないが、盛土中よりすり鉢片(第10図No.1)などが出土している。

**帰属時期** 近世。

### 2. 井戸

#### H28－1号井戸(第9図)

**遺構概要** 調査区南部に位置する。遺構の大半が調査区外におよぶため、形状・深さ等は不明であるが、確認された規模は南北約0.5m、東西約1.9m、深さ約0.6mである。遺構南東部には木杭があり、木杭周囲には10cm大の礫が集中しており木杭を固定していた可能性がある。

**出土遺物** 時期を特定する遺物は出土していないが、覆土中より錢貨(洪武通宝)(第10図No.2)および土器片が出土している。

**帰属時期** 近世。

### 3. 溝状遺構

#### H28－1号溝状遺構(第9図)

**遺構概要** 調査区北西部に位置する。長軸約2.3m、幅約0.3m、深さ約0.1m、南北方向に主軸をもつ。溝北部と中央やや南よりにピット状の掘り込みをもつ。北部の掘り込みは南北約0.7m、東西約0.5m、深さ約0.35m、中央やや南よりの掘り込みは南北約0.75m、東西約0.45m、深さ約0.2mの規模となる。

**出土遺物** なし。

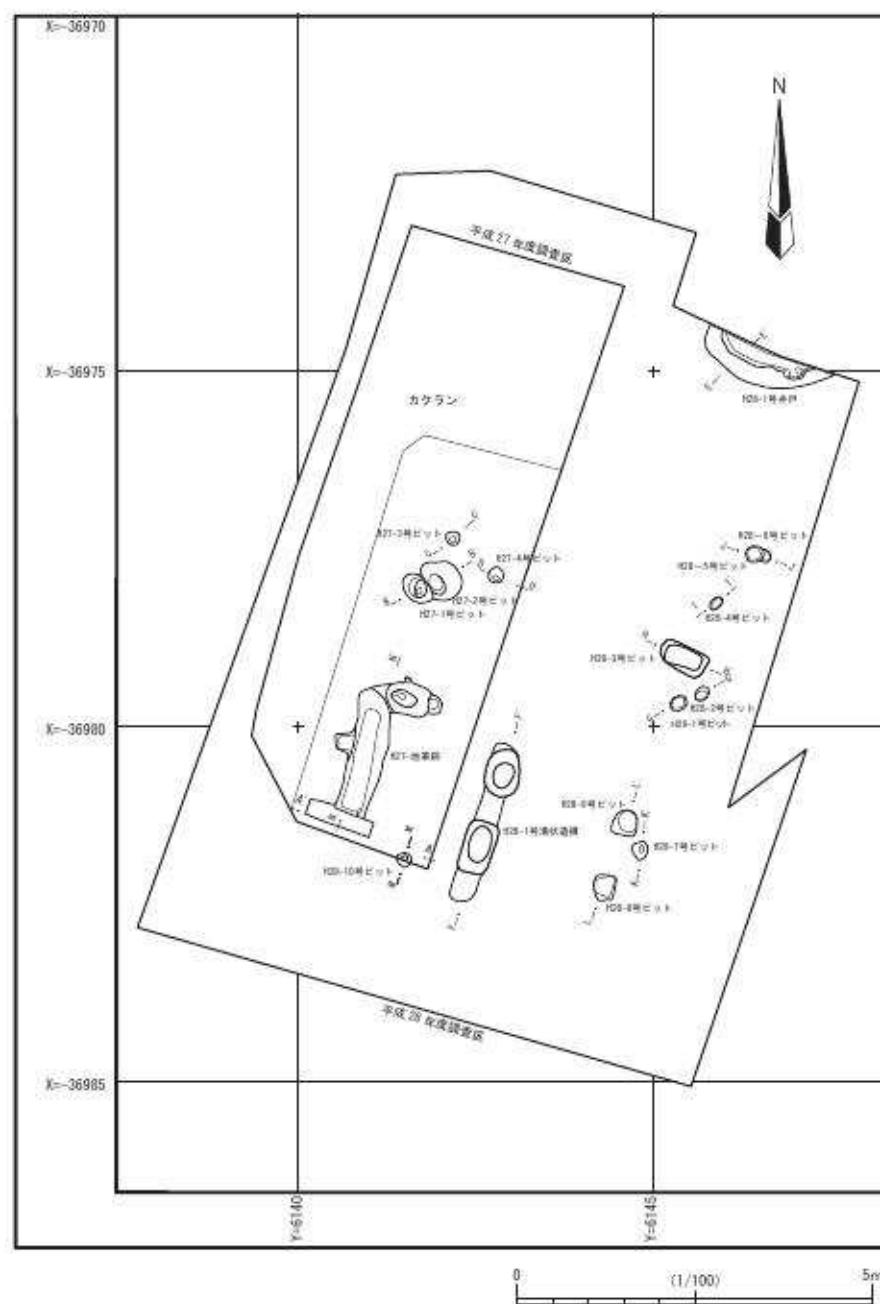
**帰属時期** 近世。

### 4. ピット

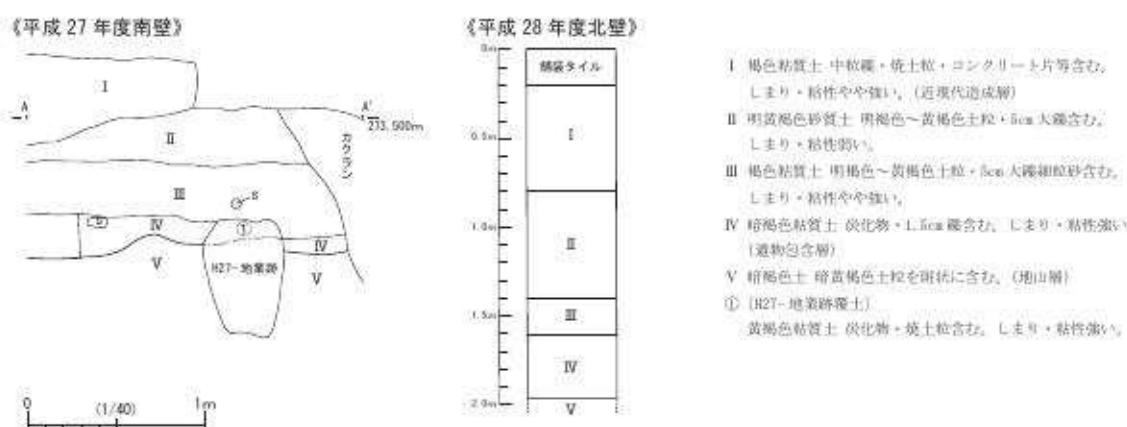
今回の調査区では、14基のピットを検出した(第9図)。各ピットのデータは第4表に掲載した。今回検出したピットは、その大半が遺物を伴わないと想定されるため詳細な帰属時期が判然としないが、検出層位から近世に帰属するものと思われる。ピットのみの配置には規則性がみられず建物跡などを認識するには至らないが、他の遺構との配置を踏まえた検討については第5章にて後述する。

第4表 公衆用トイレ建設地点ピット観察表

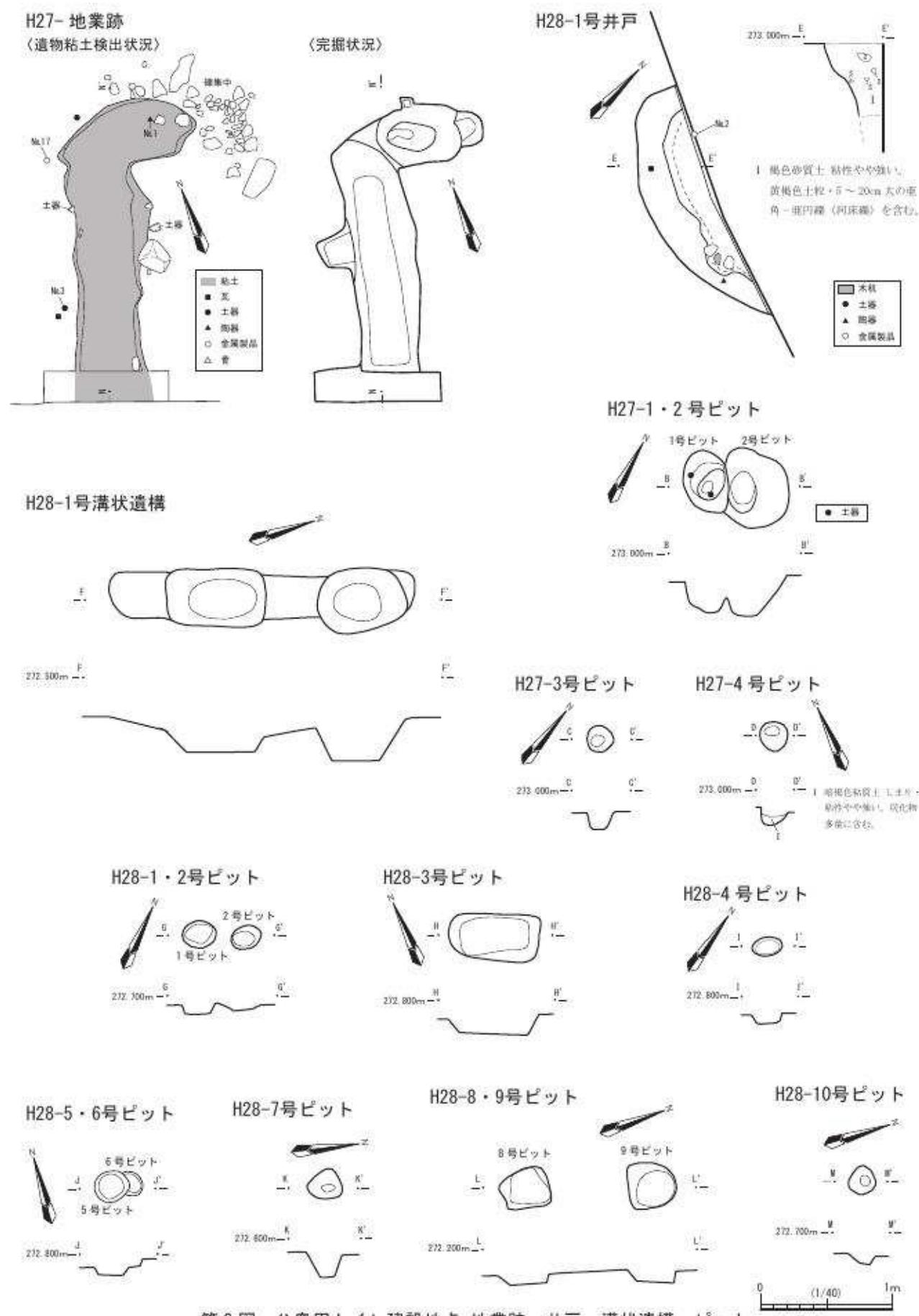
ピット番号	形状	規模(m)			出土遺物	重複	備考	ピット番号	形状	規模(m)			出土遺物	重複	備考
		長径	短径	深さ						長径	短径	深さ			
H27-1号ピット	楕円形	0.50	-	0.24	土器	H27-2号ピット		H28-4号ピット	楕円形	0.23	0.14	0.08	-		
H27-2号ピット	不整形	0.62	-	0.31	陶器・土器	H27-1号ピット		H28-5号ピット	円形	0.25	0.24	0.08	-	H28-6号ピット	
H27-3号ピット	円形	0.20	0.20	0.13	土器			H28-6号ピット	-	0.21	-	0.06	-	H28-5号ピット	
H27-4号ピット	円形	0.21	0.20	0.14	-			H28-7号ピット	楕円形	0.26	0.22	0.18	-		
H28-1号ピット	楕円形	0.23	0.20	0.10	-			H28-8号ピット	不整形	0.37	0.31	0.07	-		
H28-2号ピット	楕円形	0.22	0.19	0.05	-			H28-9号ピット	不整形	0.40	0.38	0.09	-		
H28-3号ピット	楕円形	0.68	0.35	0.17	-			H28-10号ピット	円形	0.22	0.20	0.09	-		



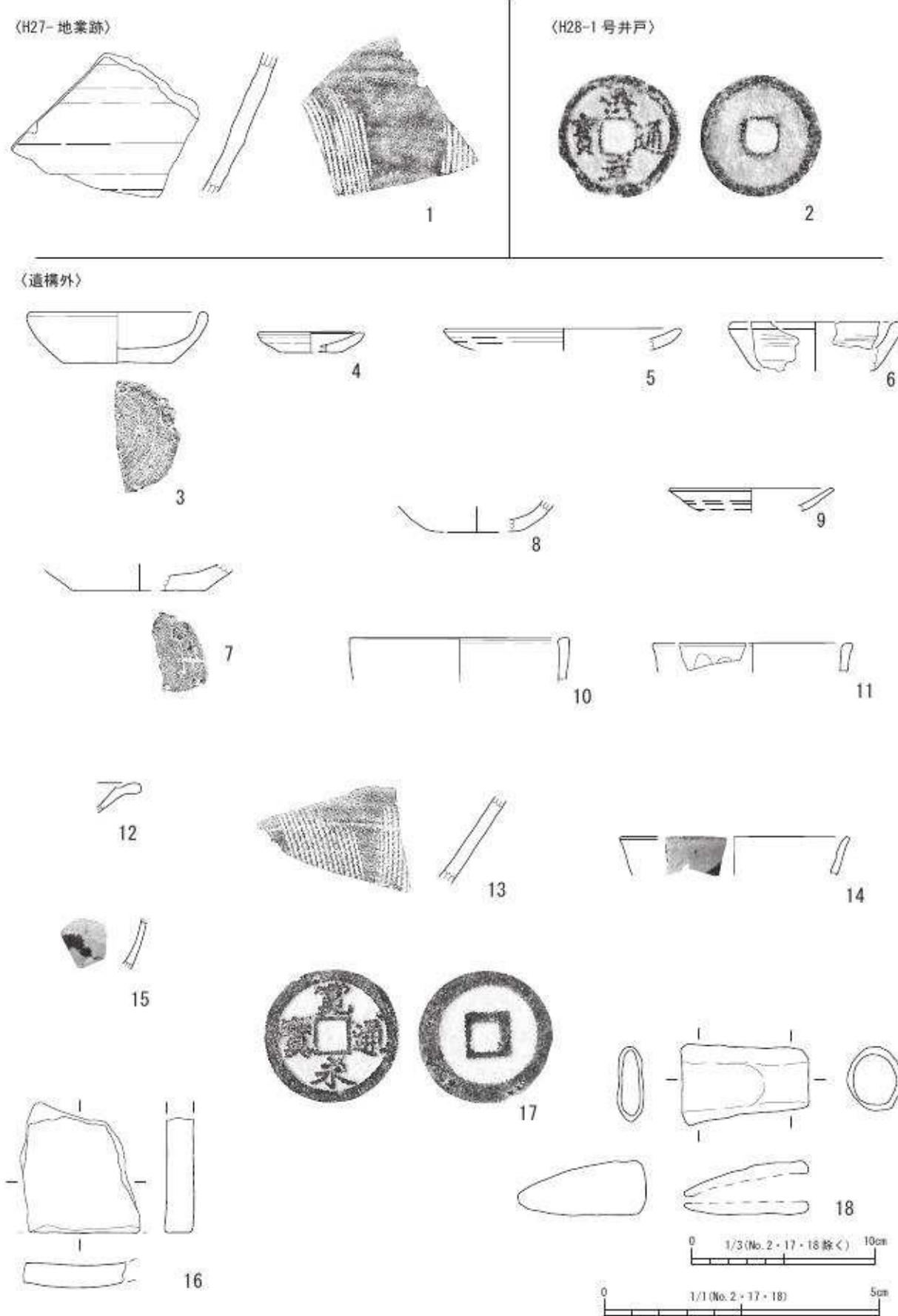
第7図 公衆用トイレ建設地点 全体図



第8図 公衆用トイレ建設地点 基本土層図



第9図 公衆用トイレ建設地点 地業跡・井戸・溝状遺構・ビット



第10図 公衆用トイレ建設地点 出土遺物

第5表 公衆用トイレ建設地点 陶磁器・土器観察表

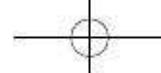
遺物番号	図版番号	測定番号	測定記	地點	遺構名	種別	器種	形状	測量(cm)			備考	
									口径	底径	高さ		
1 第10回	16	KJ (H-1) S X01盛土中T - 1		地表	陶器	すり鉢	-	-	(8.10)	褐色~灰白色		鉛釉	
3 第10回	15	KJ (M-1) イコブ外P-1		包含層	土器	かわらけ	-	(6.00)	(2.80)	褐色	やや壊		
4 第10回	17	KJ (H-1) イコブ外P-3		包含層	土器	かわらけ	-	(5.80)	(3.40)	1.15	にぶい壊		
5 第10回	1	KJ (H-1) 10cm掘り下げ包含層		包含層	土器	かわらけ	7.00	-	(1.40)	褐色	金雲母 密	良	
6 第10回	8	KJ (H-1) 包含層		包含層	土器	かわらけ	(9.40)	-	(2.70)	にぶい壊	金雲母 やや壊		
7 第10回	7	KJ (H-1) 包含層		包含層	土器	かわらけ	-	(7.00)	(1.45)	褐色	金雲母 密	やや良	
8 第10回	11	KJ (M-1) 壱土割き直下包含層		包含層	土器	かわらけ	-	(8.00)	(1.70)	にぶい壊	金雲母 やや壊	良	
9 第10回	3	KJ (H-1) 10cm掘り下げ包含層		包含層	土器	小皿	(9.00)	-	(1.70)	オリーブ	密	良	
10 第10回	4	KJ (H-1) 10cm掘り下げ包含層		包含層	陶器	中碗	-	(12.00)	-	(2.40)	オリーブ	密	良
11 第10回	5	KJ (H-1) 10cm掘り下げ包含層		包含層	陶器	中碗	-	(11.00)	-	(1.60)	褐色	密	良
12 第10回	6	KJ (H-1) 10cm掘り下げ包含層		包含層	陶器	?	-	-	(11.60)	灰白	密	良	良
13 第10回	18	KJ (H-1) 包含層		包含層	陶器	すり鉢	-	-	(4.60)	褐色~灰白	密	鉛釉	
14 第10回	12	KJ (H-1) 壱土割き直下包含層		包含層	陶器	大碗	-	(12.40)	-	(2.10)	褐色	密	良
15 第10回	13	KJ (H-1) 壱土割き直下包含層		包含層	陶器	碗	-	-	(2.80)	褐色灰	密	透明釉	

第6表 公衆用トイレ建設地点 瓦 觀察表

遺物番号	図版番号	測定番号	測定記	地點	遺構名	種別	器種	長さ	幅	測量(cm)	特徴		色調		粘土	備考	
								平瓦	瓦	厚さ	巴	連珠	-	灰灰色	白色		
16 第10回	14	KJ (ト-1) 壱土割き直下包含層			包含層	瓦	(7.10)	(6.50)	1.60	-	-	-	-	灰白色	白色	白色粒子	

第7表 公衆用トイレ建設地点 金属製品・錢貨 観察表

遺物番号	図版番号	測定番号	測定記	地點	遺構名	種別	器種	引法(cm)		重量(g)	備考
								最大長	最小幅		
2	第10回	4	H-28廻口立会No.3	H-28廻口立会No.3	1号井戸	錢貨	2.3	2.3	0.1	2	汎用通貨
17	第10回	19	KJ (ト-1) Z-1	遺構外	錢貨	2.5	2.5	0.1	4	4	貴重通貨
18	第10回	20	KJ (ト-1) KN-1	遺構外	錢幣缺口	2.3	1.5	Q.15	6	-	



### 第3節 総合案内所建設地点

調査期間 平成28年9月5日～11月18日

調査担当者 主査・文化財主事 依田幸浩、文化財主事 上野桜

発掘作業員 飯室恵子 川住たまみ 金野裕子 保坂理恵子

### 第1項 調査の方法

調査区は、事業用地内における確認調査(平成28年度立会No.4)の結果をもとに南北約14m、東西約11mの範囲で設定した。発掘調査では、作業ヤード内の排出土置き場が狭小かつ搬出が困難であり、また調査地南側は現行の道路であったため、調査区をA区・B区・C区の3区に分けて調査を行った。調査面積は、A区が33.4m<sup>2</sup>、B区が35.5m<sup>2</sup>、C区が26.6m<sup>2</sup>であり、総面積は95.5m<sup>2</sup>である。

表土層は、確認調査の結果をふまえて、遺物包含層である暗褐色土層(基本土層第7層)上面まで重機を用いて掘削し、人力による掘削、遺構の精査、遺構掘削などの発掘作業を行い、調査の進捗に応じて測量及び写真撮影等の記録作業を行った。

記録図類については世界測地形座標に基づく基準杭を設置し、立面図および詳細図などの平面図の一部は方眼紙への計測図化、平面図は光波測量機とコンピュータによる測量で作成した。また、記録写真については小型一眼レフカメラによる35mmモノクロネガ・カラーポジを主体に撮影し、補足的にデジタルカメラも使用した。出土した遺物については、光波測量機とコンピュータを用いて出土点を記録した。

### 第2項 層序

土層の確認は、A区北壁、B区北壁、C区南壁の3地点にて行ったが、A区北壁およびC区南壁の土層注釈記録に漏れがみられるため、B区北壁を基本土層として扱う(第11図)。

B区北壁は、13の層に分けられる。以下に、個々の層について概観する。また、各層中より採取した炭化物を対象に放射性炭素年代測定を実施しており、その結果に基づく各層の推定形成年代もあわせて表記する。なお、放射性炭素年代測定の詳細は、第4章を参照されたい。

1層：碎石層。

2層：褐色粘質土層であり3～10cm大の礫を含む。層上部は碎石を多量に含む。炭化物・焼土ブロックが部分的に入る。(放射性炭素年代測定による推定形成年代：17世紀末～近代)

3層：下層(4・5・6層)の上面部が酸化した土層。

4層：暗褐色シルト質土層。

5層：暗褐色粘質土層であり、黄褐色細粒砂を含む。

6層：黄褐色シルト質土層。

7層：暗褐色粘質土層であり、黒色粘土粒を含む。瓦片等が出土する遺物包含層。

8層：暗褐色シルト質土層であり、5cm大の礫を少量含む。瓦片等が出土する遺物包含層。(放射性炭素年代測定による推定形成年代：16世紀前半～18世紀末)

9層：黒褐色粘質土層であり、1～15cm大の礫を少量含む。発掘調査時に認識していないが、この土層堆積付近より近世～近代の瓦片等が多量に出土しており、近世に形成された落ち込みの可能性がある。(放射性炭素年代測定による推定形成年代：17世紀後半～近代)

10層：黒褐色シルト質土層であり、粘性が強く、暗褐色粘土粒および3cm大の礫を少量含む。(放射性炭素年代測定による推定形成年代：16世紀前半～17世紀中頃)

11層：灰オリーブ色シルト質土層であり、東側では暗オリーブ色となる。

12層：灰オリーブ色粘質土層であり、東側では暗オリーブ色となる。

13層：黒褐色粘質土層。



### 第3項 遺構と遺物

甲府駅南口駅前広場総合案内所建設地点では、瓦・礫集中1基、木杭を検出した。また、包含層中から近世から近代にかけての瓦・陶磁器等が出土している。

#### 1. 瓦・礫集中(第13図)

**遺構概要** B区南壁際に位置する。瓦片および2~40cm大の礫が南北0.5m×0.8mの範囲に分布する。掘り込みは確認できず、礫の配置に規則性はみとめられないが、人為的に投棄されたものと考えられる。

**出土遺物** 近世から近代にかけての平瓦を中心とした瓦片が出土している。

**帰属時期** 近代。

#### 2. 木杭

##### 1号杭列(第12図)

**遺構概要** A区中央部に位置し、4本の木杭が東西方向に直列状に並ぶ。木杭の間隔は西より1.63m・1.76m・1.96mとなる。詳細な検出状況が不明なため、時期・性格等は不明である。

**出土遺物** なし。

**帰属時期** 不明。

##### 1号杭集中(第12図)

**遺構概要** A区北西部に位置し、2本の木杭が南北方向に0.2mの間隔で並ぶ。周辺より板状木材を検出したが、1号杭集中との関係は不明である。詳細な検出状況が不明なため、時期・性格等は不明である。

**出土遺物** なし。

**帰属時期** 不明。

#### 3. 遺構外出土遺物(第14~18図・第8~10表)

A・B区を中心に、近世・近代の瓦など、プラスチック収納箱(寸法:30×46×25cm)18箱分の遺物が出土している。ここでは、区ごとに出土遺物を概観する。

##### 《A区》

A区全域より近代から近世の遺物が出土し、特にA区北西部の落ち込み部より集中して出土している。なお、落ち込みは近世以降の埋土層上部よりみられることから、近代以降に投棄された可能性がある。

出土遺物の大半が瓦であり、軒丸瓦(第15図No.1~6)、丸瓦(第15図No.7・8)、軒平瓦(第15図No.9)、平瓦(第15図No.10)などがある。また、表土中より出土したかわらけ(第15図No.11)や甕(第15図No.12・13)などの土器も少量であるが出土している。

##### 《B区》

B区北東部の落ち込みとみられる土層(第11図B区北壁7層)付近より近代から近世の遺物が集中して出土する傾向がある。

A区と同様に、出土遺物の大半が瓦であり、軒丸瓦(第16図No.14~20)、丸瓦(第16図No.21・22・23、第17図No.24)、江戸系の軒平瓦(第17図No.25~27)、平瓦(第17図No.28・29)、棟瓦(第17図No.30・31、第18図No.32)などがある。平瓦のなかには刻印(丸に「一」)がほどこされたものもある(第17図No.28)。また、全面に使用痕跡のある砥石(第18図No.33)も出土している。

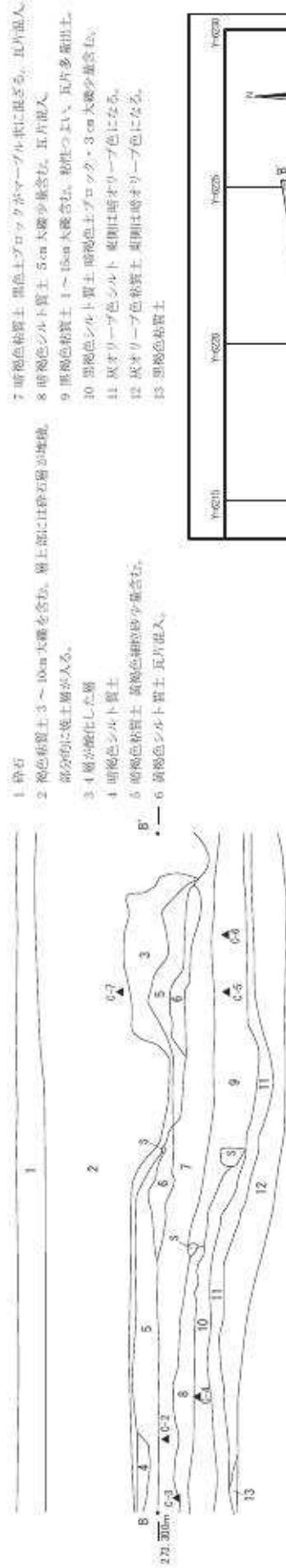
##### 《C区》

C区においては、A・B区と異なり、磨耗した土器片1点が出土した以外に、遺物は出土していない。

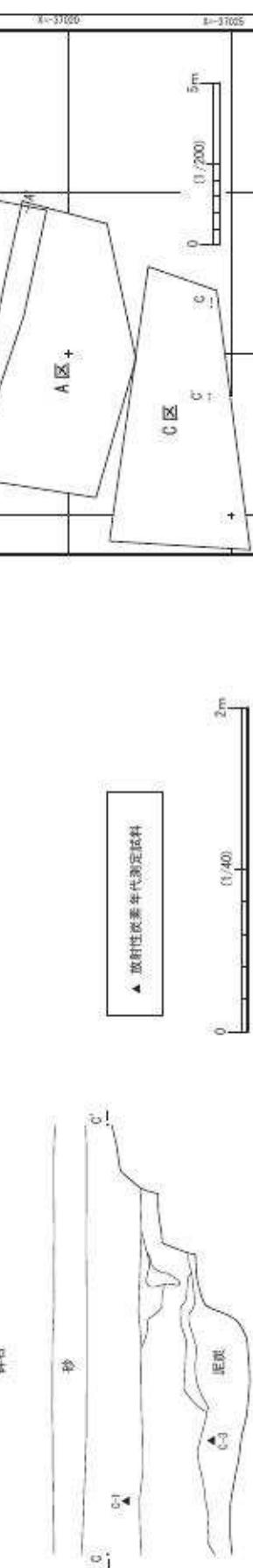
### 《総合案内所建設地点A区北壁》



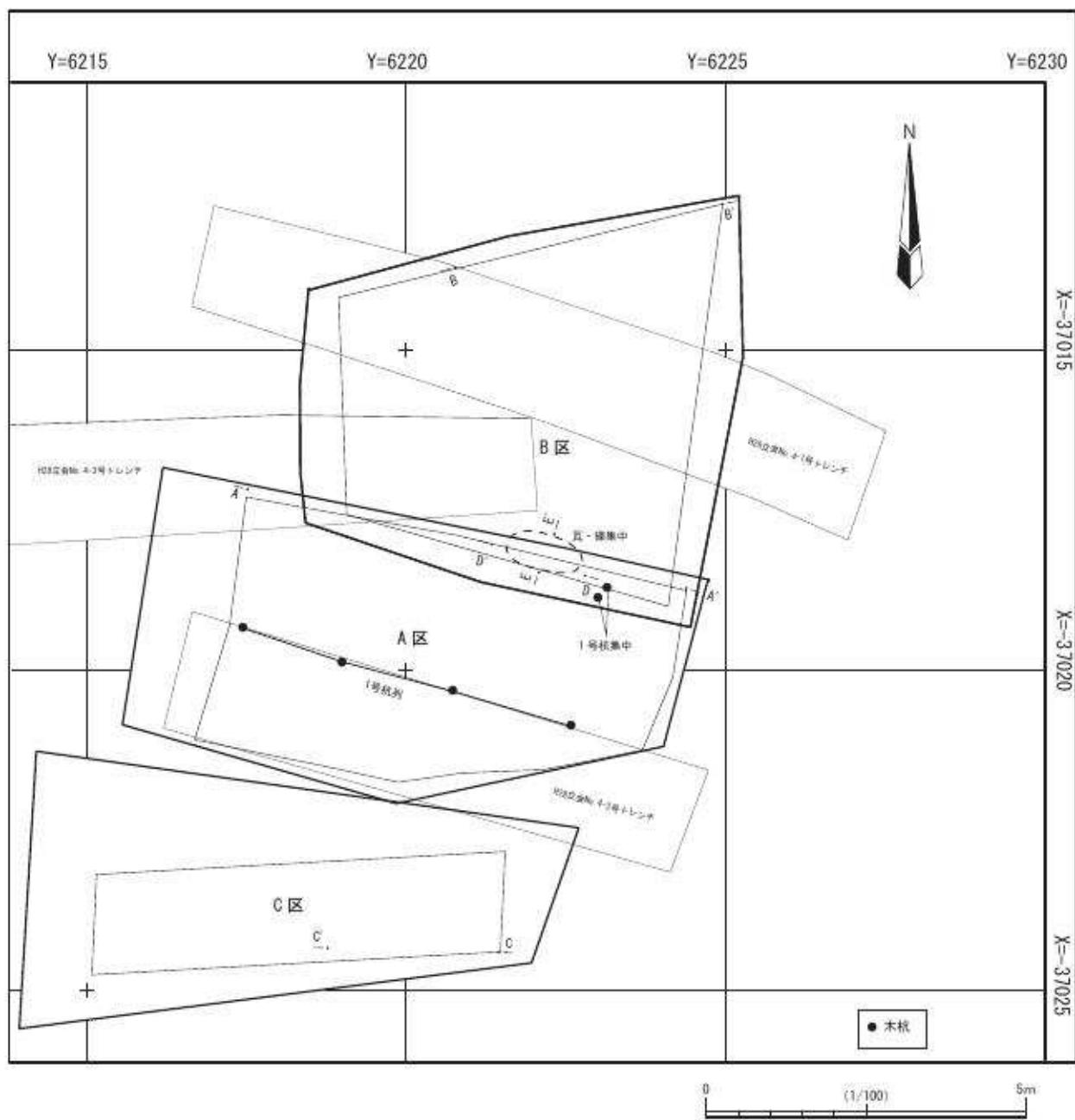
### 《総合案内所建設地点B区北壁》



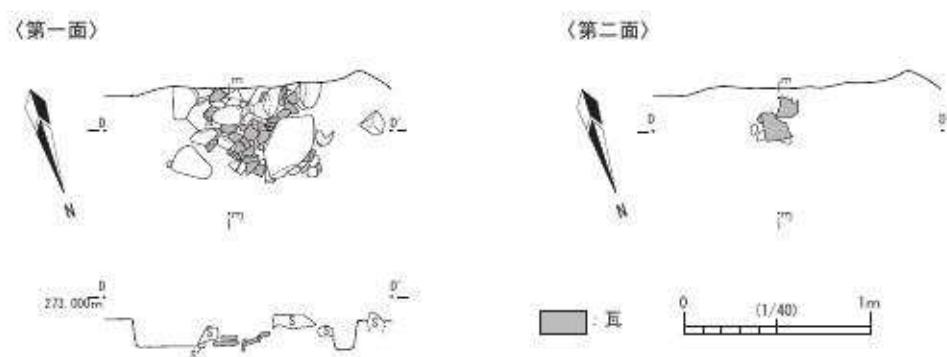
### 《総合案内所建設地点C区南壁》



第11図 総合案内所建設地点 基本土層図

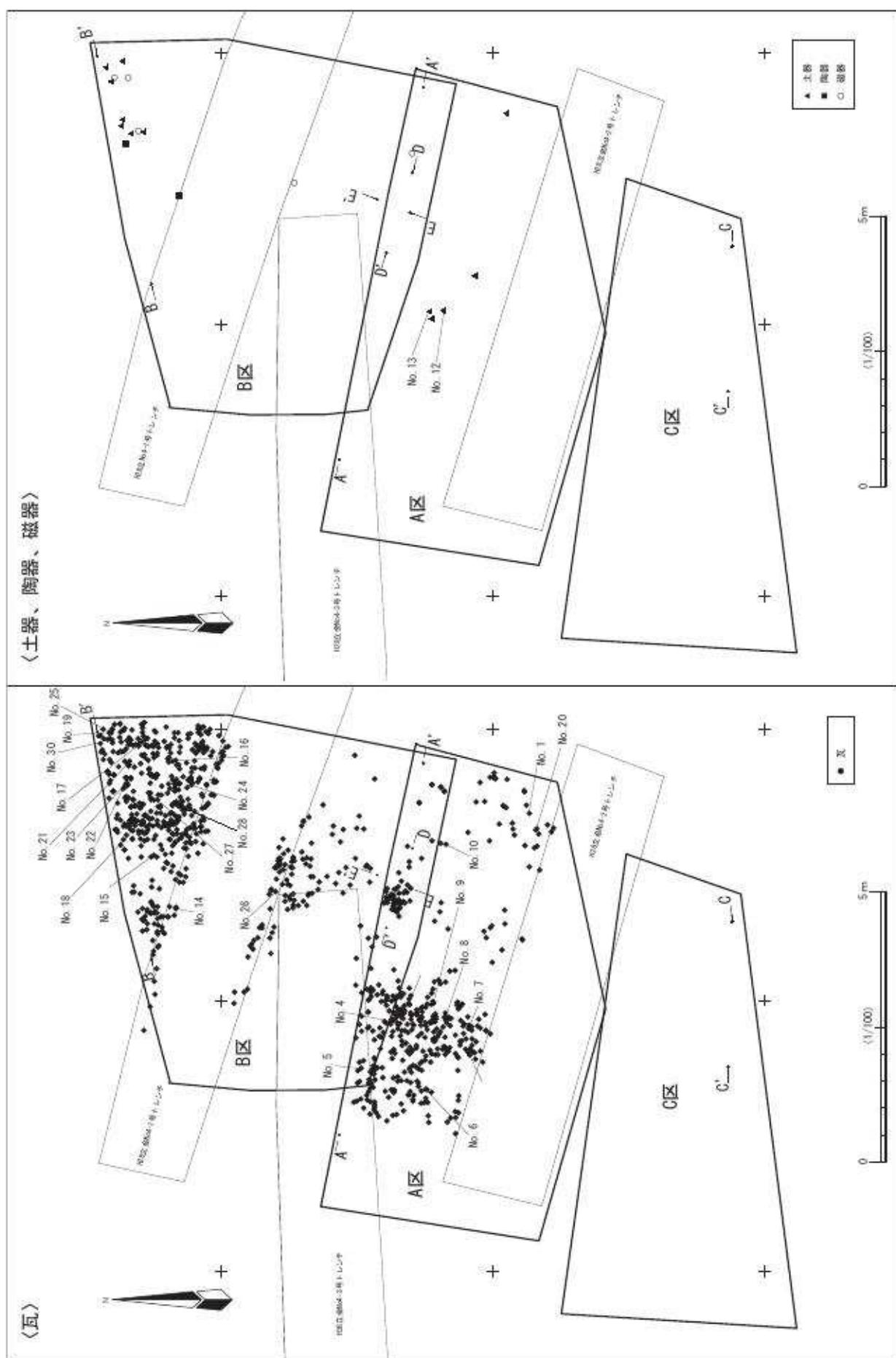


第12図 総合案内所建設地点 全体図



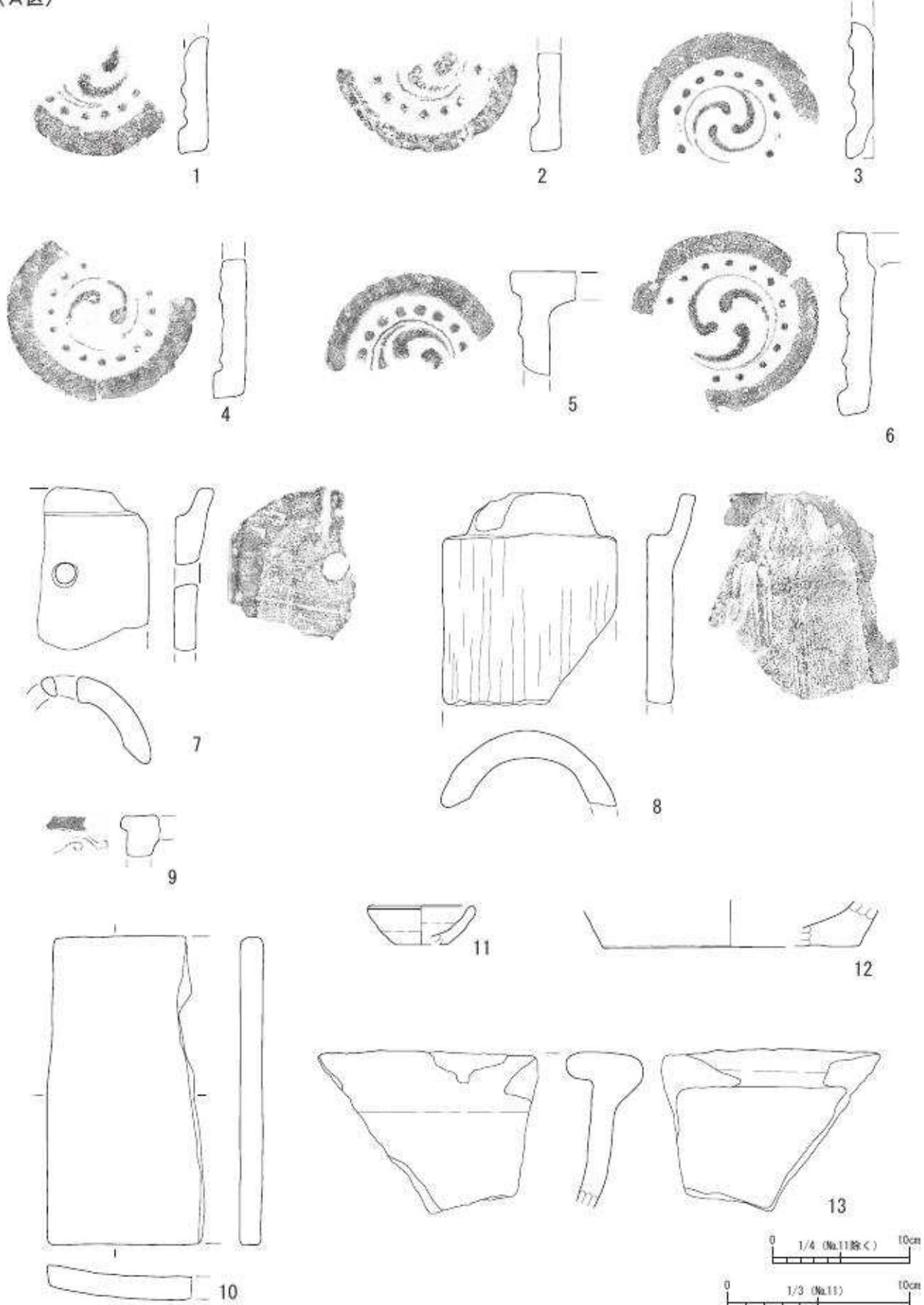
第13図 総合案内所建設地点 瓦・礫集中

第14図 総合案内所地点 遺構外遺物分布図

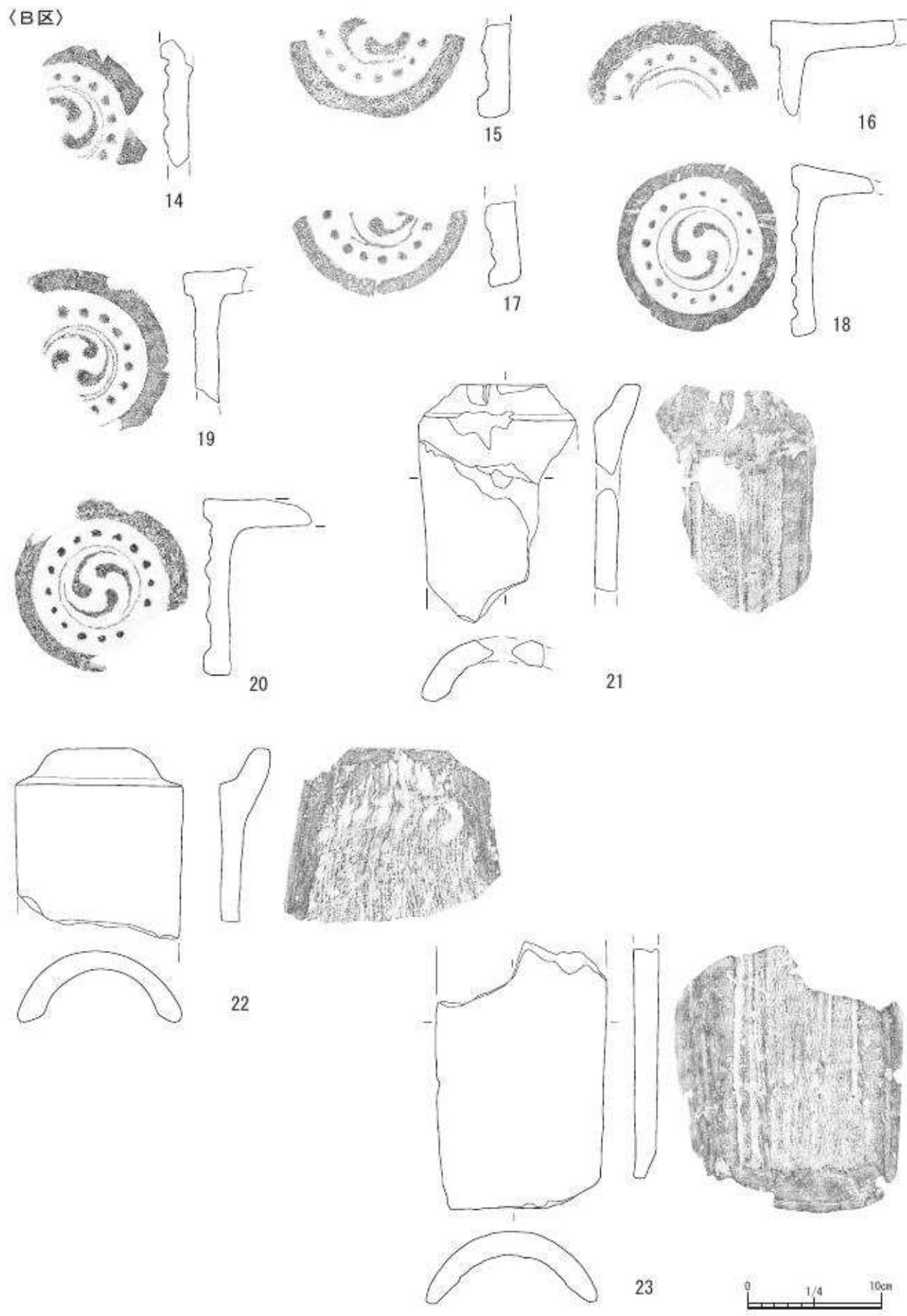




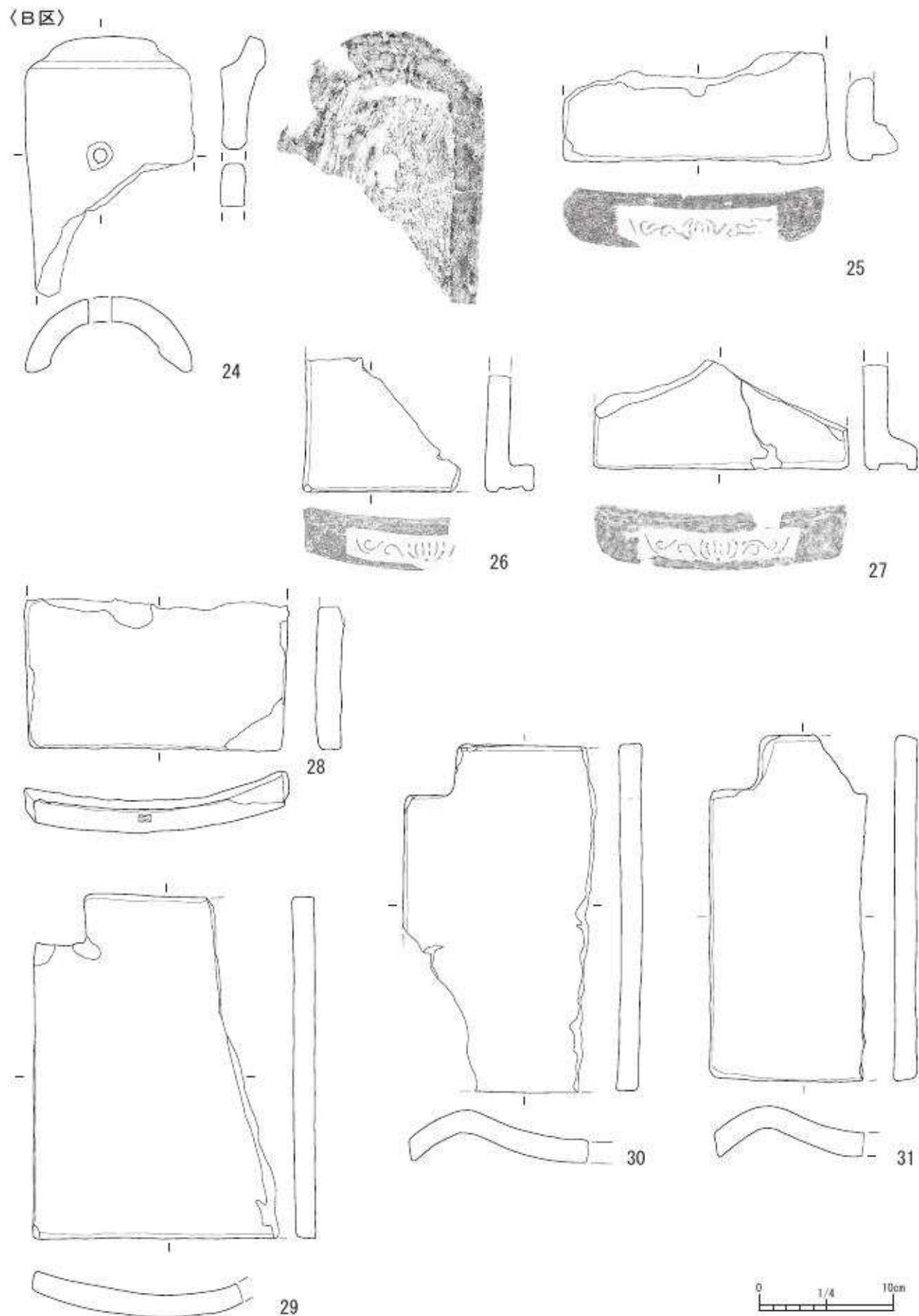
(A区)



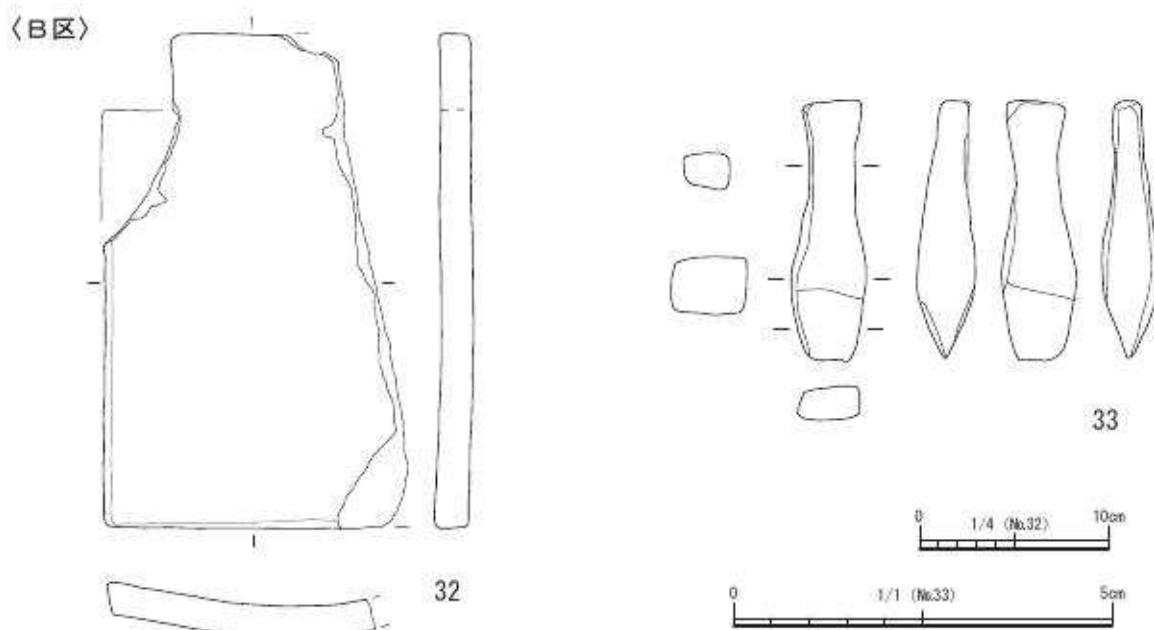
第15図 総合案内所建設地点 A区出土遺物



第16図 総合案内所建設地点 B区出土遺物 (1)



第17図 総合案内所建設地点 B区出土遺物 (2)



第18図 総合案内所建設地点 B区出土遺物 (3)

#### 第4節 水景施設地下機械室設置地点

調査期間 平成29年4月10日～27日

調査担当者 主幹・文化財主事 浅川一郎、文化財主事 上野桜、非常勤嘱託 小池準一

発掘作業員 新谷博朋 小林英樹 坂本健治 角田光夫

#### 第1項 調査の方法

調査区は、事業用地内における立会調査(平成28年度立会No.16)の結果をもとに南北約44m、東西約5.6mの約25m<sup>2</sup>の範囲で設定した。表土層は、立会調査の結果をふまえて、江戸期の遺構確認面であるオリーブ褐色粘質土層(基本土層第V層)上面まで重機を用いて掘削し、人力による掘削、遺構の精査、遺構掘削などの発掘作業を行い、調査の進捗に応じて測量及び写真撮影等の記録作業を行った。

記録図類については、平面図は平板測量により作成した。立面図および詳細図などの平面図の一部は方眼紙への計測で作成した。また、記録写真については小型一眼レフカメラによる35mmモノクロネガ・カラー・ボジを主体に撮影し、補足的にデジタルカメラも使用した。

#### 第2項 層序

調査区内において最も厚い堆積層を有する調査区北壁にて土層確認を行った。土層確認地点における層の堆積は、地表下約2mまでの深さにおいて、5つの層(I～V層)に大別できる。以下に、個々の層について概観する。

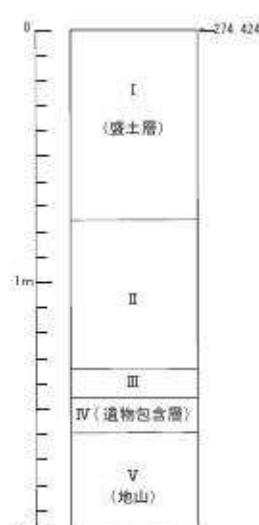
I層：褐色土層であり円碟を含む。近現代の盛土層。

II層：小碟・炭化物を含む暗褐色砂質土層であり、層の上部3cm程度は鉄分を含む褐色砂質土となる。

III層：小碟・炭化物を含む褐色砂質土層。

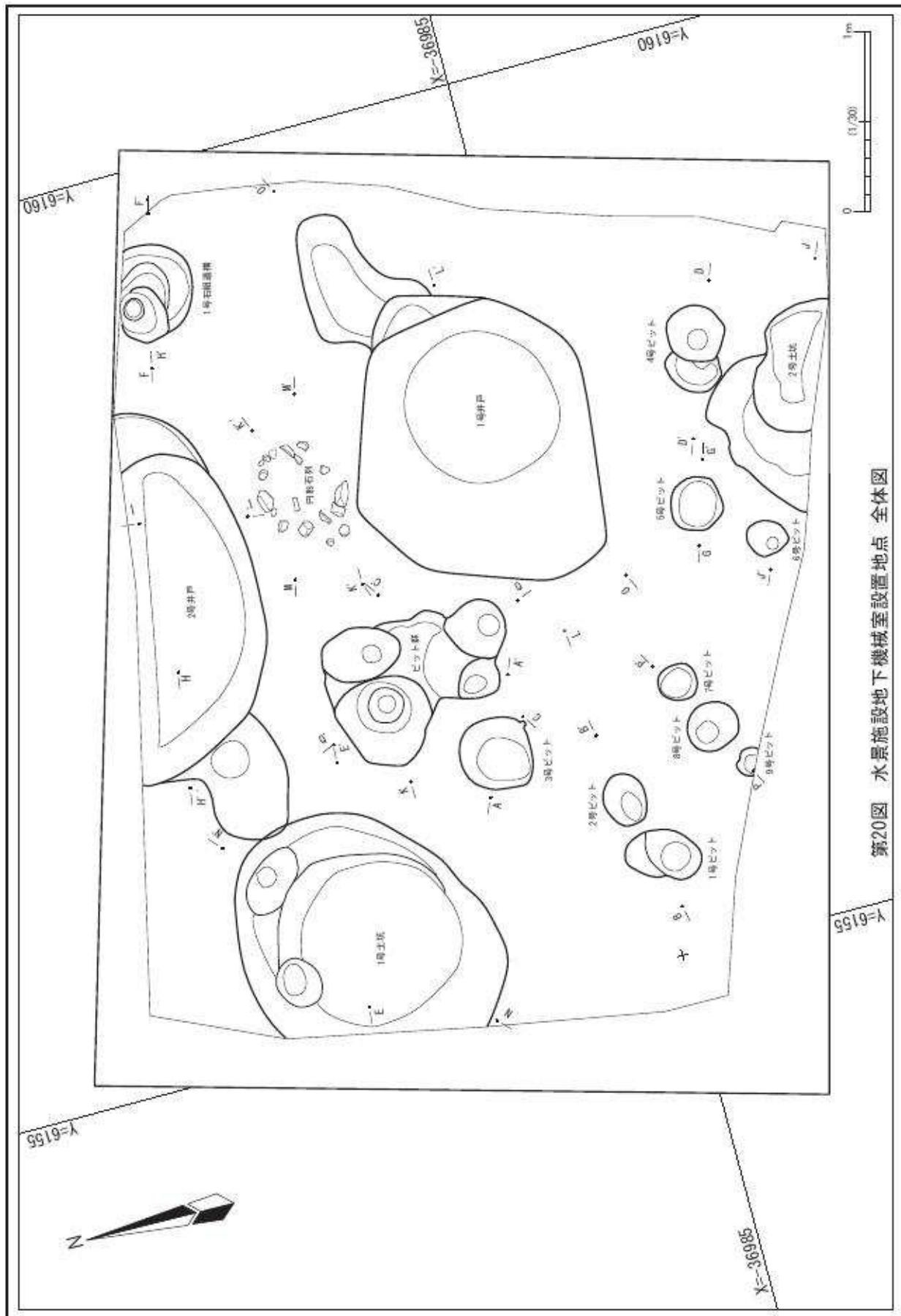
IV層：黒褐色粘質土層であり、江戸時代の遺物包含層である。

V層：オリーブ褐色粘質土層の地山層であり、上面は江戸時代の遺構確認面となる。



第19図 水景施設地下機械室設置地点  
基本土層模式図

第20図 水景施設地下機械室設置地点 全体図





### 第3項 遺構と遺物

水景施設地下機械室設置地点では、近世の遺構を検出した。検出した遺構は、井戸2基、石組遺構1基、土坑2基、円形石列1基、ピット10基である。

#### 1. 井戸

##### 1号井戸（第21図）

**遺構概要** 調査区東部に位置する素掘りの井戸である。長軸約1.8m、短軸約1.5mの楕円形の井戸の北東部に長さ約0.65m、最大幅約0.5m、深さ約0.3mの溝状の掘り込みを有し、溝状の掘り込みをあわせた長軸は約2.45mとなる。井戸部の深さは約1.5mであり、確認面から0.75m以下は平面形が底径約0.85mの円筒状となる。土層の記録はないが、調査時の記録により遺構の覆土は暗褐色土層中に5～15cm大の亜円碟が多量に含まれている。

なお、発掘調査時には「3号土坑」として扱っていたが、整理作業時の検討により「1号井戸」に名称を変更している。

**出土遺物** かわらけ（第24図No1・2）、すり鉢（第24図No3・4）、陶器壺（第24図No5）が出土している。いずれも井戸上部から出土しており、井戸廃絶後の埋没過程においてこの場所に投棄されたものと考えられる。また、井戸下部からは木片が検出されている。

**帰属時期** 近世。

##### 2号井戸（第21図）

**遺構概要** 調査区北部の北壁際に位置する。北側が調査区外に延びているため、全体規模は不明であるが、東西約2.1mの掘り込みと南北0.45m、深さ0.4mのピットを有する。掘り込み内を深さ0.63mまで掘削したが、調査区壁際にあるなどにより底面の確認にはいたっていない。掘り込み内上部には碟溜りがあり、5～70cm大の碟が大量にみられる。碟溜り下には2本の杭（杭A・B）が東西方向に約0.7mの間隔で並ぶ。ボーリングステッキによる調査により、杭Aは約0.3m、杭Bは0.4mの高さを有すると思われる。覆土は炭化物を含む暗褐色土を主体とし、部分的に明黄褐色土が多く含まれる。

なお、発掘調査時には「2号石組遺構」として扱っていたが、整理作業時の検討により「2号井戸」に名称を変更している。

**出土遺物** 軒丸瓦（第24図No6）、すり鉢（第24図No7）が、掘り込み上部の碟溜り付近から出土しており、井戸廃絶後の埋没過程において、碟とともにこの場所に投棄されたものと考えられる。

**帰属時期** 近世。

#### 2. 石組遺構

##### 1号石組遺構（第21図）

**遺構概要** 調査区北東部の北壁際に位置する。北側が調査区外に延びているため、全体規模は不明であるが、東西約0.55m、最大深さ0.4mの掘り込みを有する。掘り込み上部には15cm大の碟が円形状に配されている。

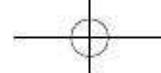
**出土遺物** 土器小片が底面付近より出土している。

**帰属時期** 近世。

#### 3. 土坑

##### 1号土坑（第21図）

**遺構概要** 調査区西部の西壁際に位置し、西側は調査区外に延びる。長軸約1.6m、短軸約1.3mの楕円形を呈すると考えられ、底面までの深さは約0.6mである。北部にピット状の掘り込みをもつ。覆土は西壁際に後世のかく乱がみられる以外は暗褐色砂質土を主体とした単層であり、覆土中には1cm大の炭化物および5～10cm大の植物痕をもつ焼土ブロックが極めて多量に含まれる。



**出土遺物** かわらけ（第24図No.8）、瓦小片が出土している。調査当初、1号土坑全域をかく乱として扱っており、かく乱出土とした土器（第24図No.14）は、1号土坑より出土している可能性がある。

**帰属時期** 近世。

## 2号土坑（第22図）

**遺構概要** 調査区南東部の南壁際に位置し、南側は調査区外に延びる。全体規模は不明であるが、東西約1.2m、最大深さ0.9mの掘り込みを有する。底面付近には3～15cm大の礫が充填されている。

**出土遺物** 上層より土器小片、下部の礫充填層の上部より土器小片・瓦片が出土している。

**帰属時期** 近世。

## 4. 円形石列（第22図）

**遺構概要** 調査区北部中央の1・2号井戸の間に位置する。5～15cm大の礫を径約50cmの円形に配し、中央部には木杭がみられる。サブトレーナーを設定し、土層確認をおこなったところ、木杭付近に幅約10cm、深さ約15cmの範囲で掘り込み状の土層の変化がみられるが、木杭の腐食等により地山層が変色した可能性も考えられる。

**出土遺物** 土器片1点、瓦片1点、磁器片1点を円形石列出土遺物としているが、このうち瓦片と磁器片は、サブトレーナー内より出土したものであり、円形石列出土遺物は土器片のみである。

**帰属時期** 近世。

## 5. ピット（第21・22図）

発掘調査時、10基のピットに遺構名を付したが、ピット群・4号ピットなどは複数のピットから構成されているものもあり、実際の総数は14基となる。今回検出したピットは、いずれも遺物を伴わないため詳細な帰属時期が判然としないが、検出層位から近世に帰属するものと思われる。また、1・7・5・4号ピットについては、東西方向に約1m間隔で並んでおり、なんらかの建物等の痕跡の可能性があるが、その他のピットの配置には規則性がみられない。

以下に、特徴的なピットについて記述するが、各ピットのデータは第11表に掲載している。

第11表 水景施設機械室設置地点 ピット観察表

ピット番号	形状	規模(m)			出土 遺物	備考
		長径	短径	深さ		
ピット群	不整形	1.09	0.80	0.55	-	4基のピットで構成
1号ピット	楕円形	0.42	0.23	0.37	-	
2号ピット	楕円形	0.29	0.23	0.22	-	
3号ピット	円形	0.45	0.43	0.45	-	中位・底面に20cm大砾
4号ピット	不整形	0.48	0.31	0.39	-	2基のピットで構成

ピット番号	形状	規模(m)			出土 遺物	備考
		長径	短径	深さ		
5号ピット	円形	0.29	0.29	0.34	-	中位に10cm大砾
6号ピット	円形	0.22	0.21	0.26	-	
7号ピット	円形	0.22	0.20	0.21	-	
8号ピット	円形	0.29	0.26	0.33	-	
9号ピット	-	0.17	-	0.12	-	

### ピット群（第22図）

**遺構概要** 調査区中央やや北寄りに位置する。平面形は長軸約1.09m、短軸約0.8mの不整形であり、4基のピットから構成される。深さは北西部ピットが0.55mと最も深く、北東部ピットが0.43m、南西部ピットが0.27m、南東部ピットが0.12mとなる。南西部ピット底面付近に15cm大の礫が検出されている。

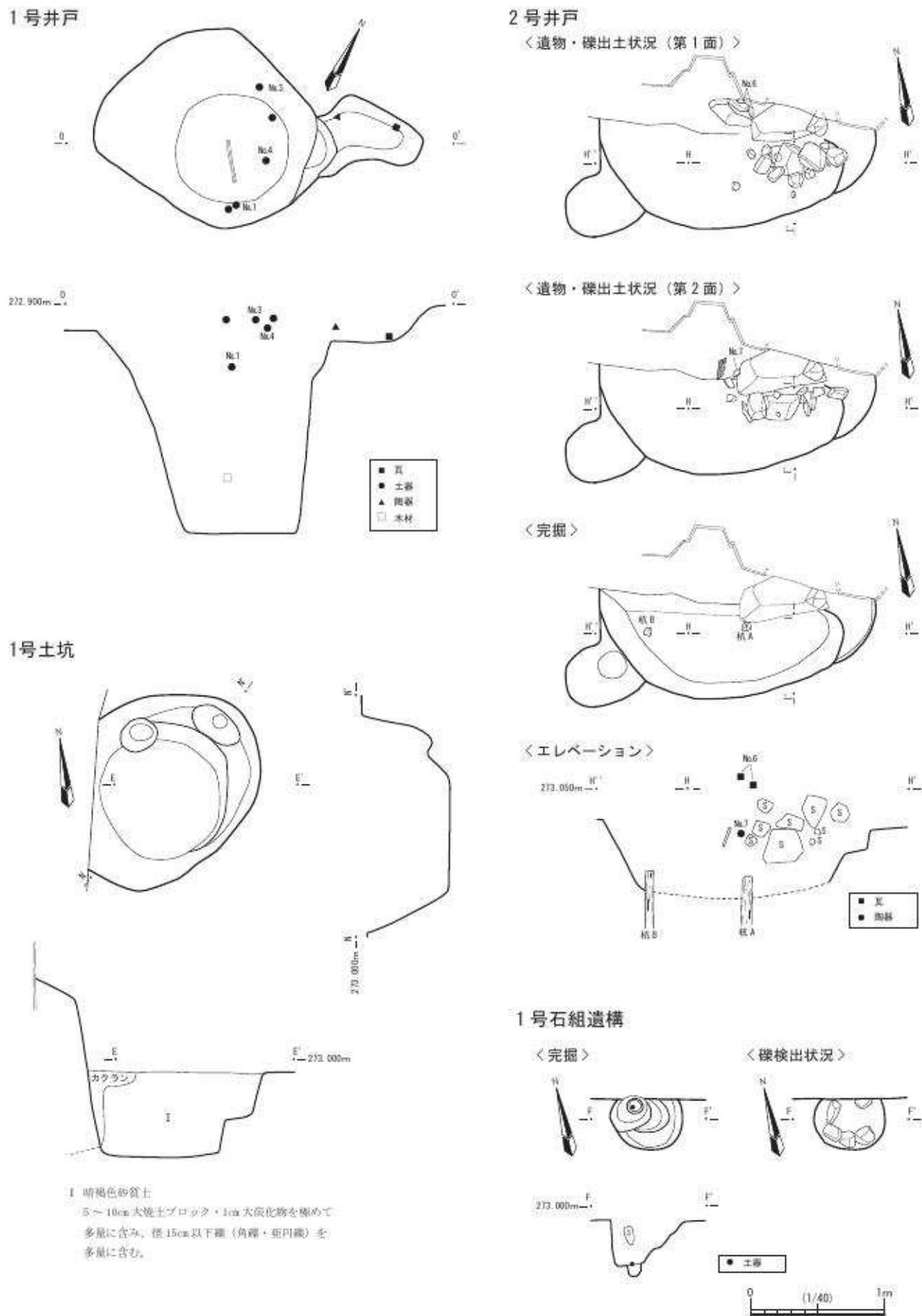
**出土遺物** なし。

**帰属時期** 近世。

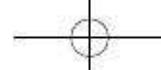
### 3号ピット（第22図）

**遺構概要** 調査区中央やや西寄りに位置する。平面形は長軸約0.45m、短軸約0.43mの円形であり、深さは0.45mである。ピット下部は5cm大の礫が充填され、その上部に30cm大の花崗岩質の礫が縦位に配される。また、底面付近に20cm大の礫が配置されている。

**出土遺物** なし。



第21図 水景施設地下機械室設置地点 井戸・石組遺構・土坑（1）



帰属時期 近世。

### 5号ピット(第22図)

遺構概要 調査区南側中央に位置する。平面形は長軸約0.29m、短軸約0.29mの円形であり、深さは0.34mである。ピット中位から上部に10cm大の礫が配される。

出土遺物 なし。

帰属時期 近世。

### 3. 遺構外出土遺物(第23・24図・第12・13表)

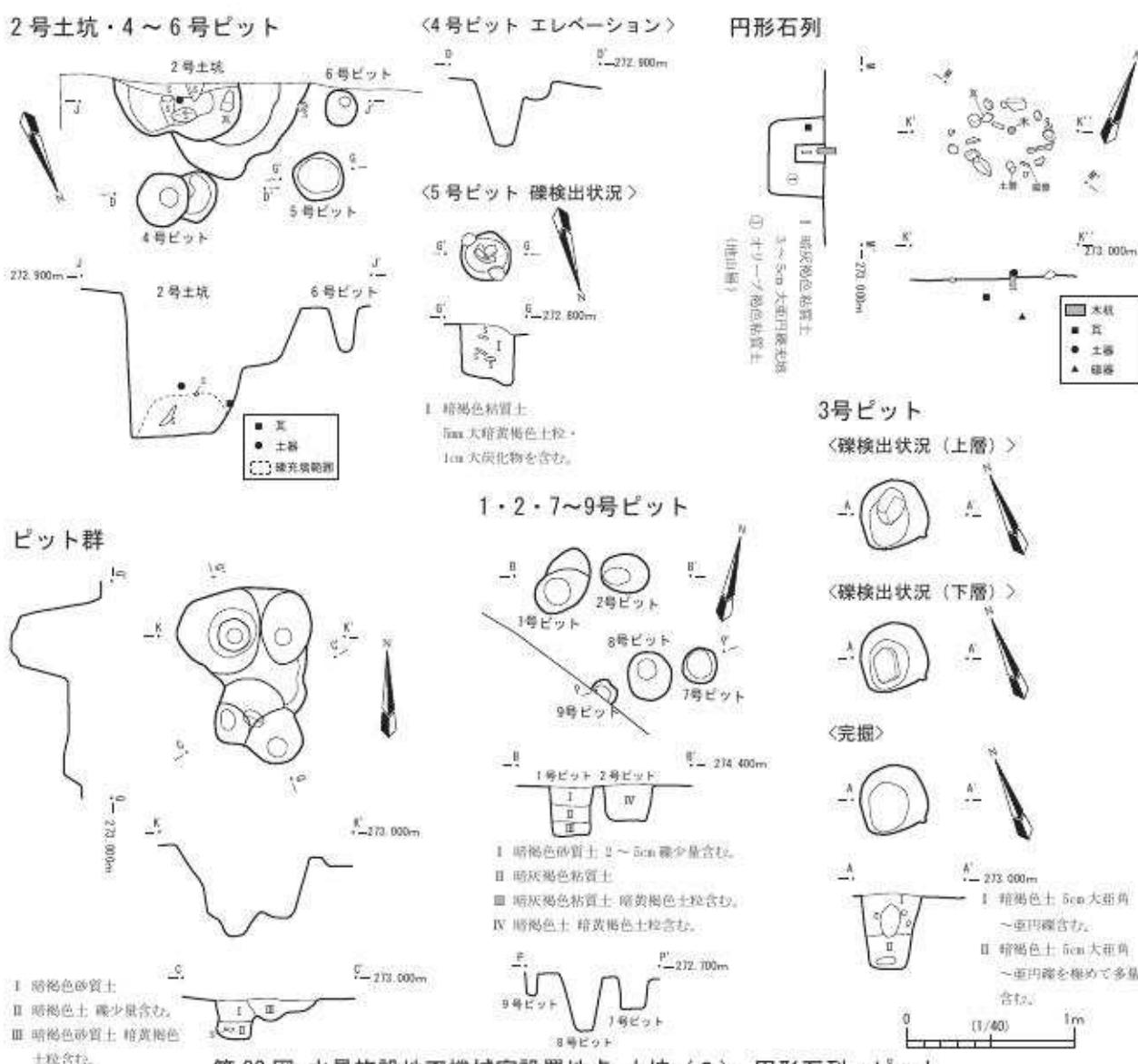
遺構外からは調査区全域より近世の瓦・土器・陶器・金属製品が出土している。ここでは、種別ごとに出土遺物を概観する。

**土器** かわらけ(第24図No.9・10)、すり鉢(第24図No.11)など調査全域に散在して出土している。

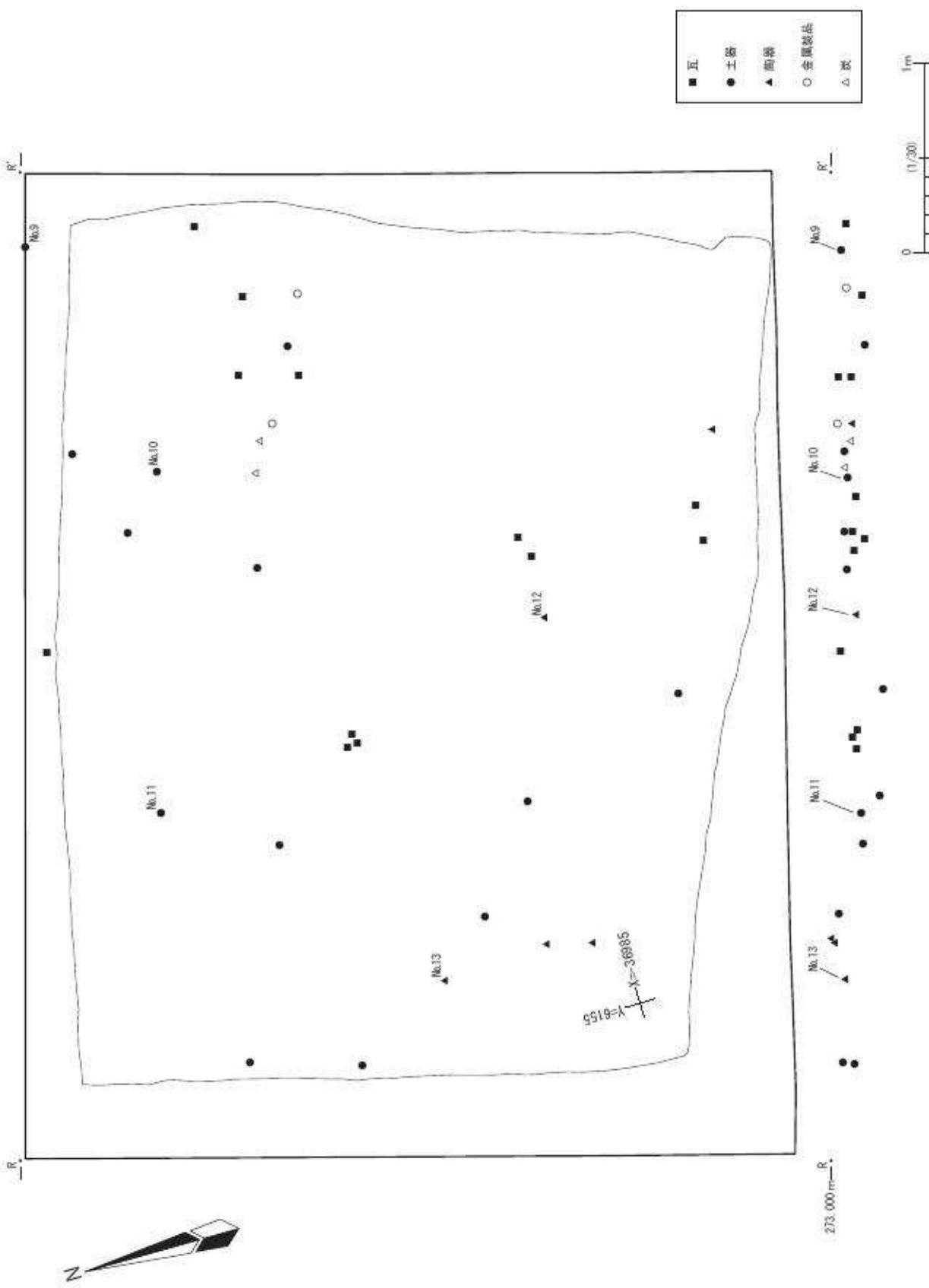
**陶器** 調査区南側に散在して出土し、高台坏(第24図No.12)、鉢(第24図No.13)などがある。

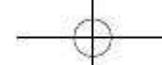
**瓦** 調査区中央から東側に散在して出土する。大半が小破片である。

**金属製品** 調査区北東部に2点出土している。いずれも小破片であり、種別不明である。

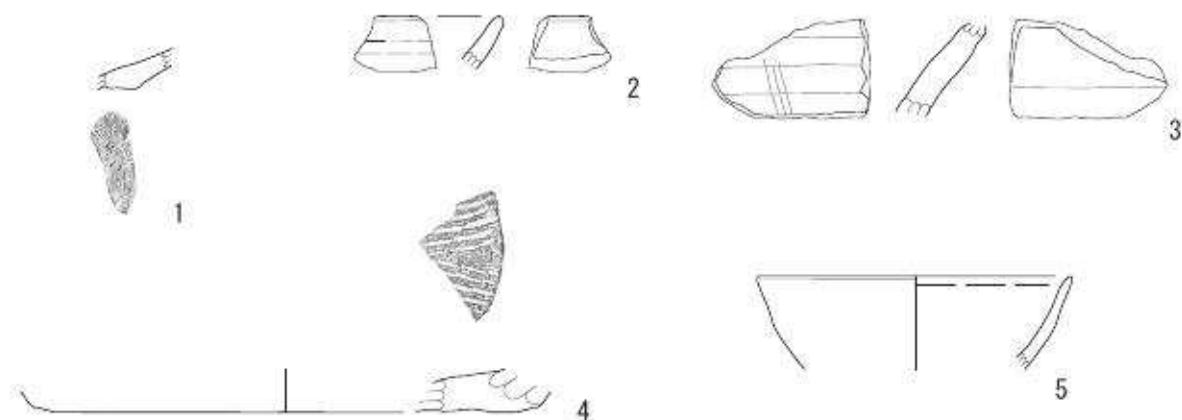


第23図 水景施設地下機械室設置地点 遺構外出土遺物分布図

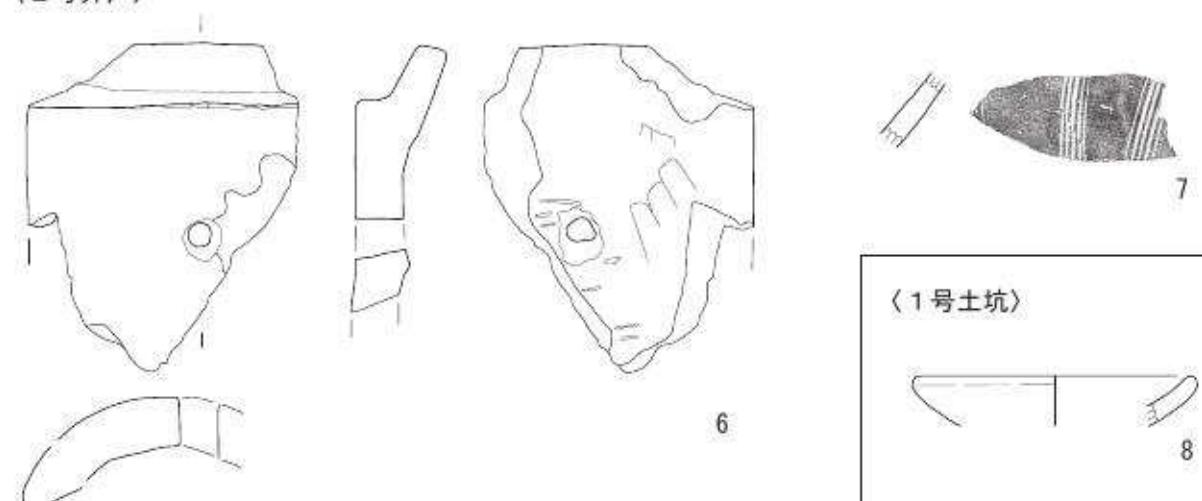




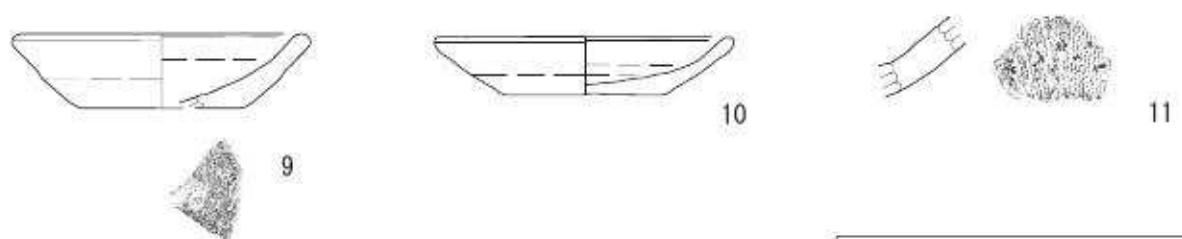
〈1号井戸〉



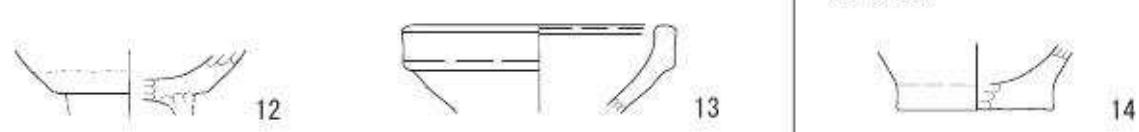
〈2号井戸〉



〈包含層〉



〈カク乱〉



第24図 水景施設地下機械室設置地点 出土遺物

第12表 水景施設地下機械室設置地点 陶磁器・土器観察表

遺物番号	図版番号	測定番号	注記	地点	遺物名	種別	器種	形状	口径		法面 高さ (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
									横径	底径						
1	第24回	7	H 29コウフショウワカ(水引)1号井戸No.2	1号井戸	土器	かわらけ	-	-	-	-	1.60	褐色	赤・白・黒色粒子・金雲母	良	局部変形	
2	第24回	10	H 29コウフショウワカ(水引)1号井戸一品	1号井戸	土器	かわらけ	-	-	-	-	2.20	褐色	赤・白・黒色粒子・金雲母	良		
3	第24回	9	H 29コウフショウワカ(水引)1号井戸No.6	1号井戸	土器	すり鉢	-	-	-	-	3.70	外)褐色 内)赤色	赤・白・黒色粒子・金雲母	良		
4	第24回	8	H 29コウフショウワカ(水引)1号井戸No.4	1号井戸	土器	すり鉢	-	-	-	-	20.20	11.70	にふく・黄褐色	白・黒色粒子・金雲母	やや不良	
5	第24回	11	H 29コウフショウワカ(水引)1号井戸一品	1号井戸	陶器	壺	-	-	-	-	12.60	3.80	灰白色	白	内外面灰釉	
7	第24回	13	H 29コウフショウワカ(水引)2号石瓶No.3	2号井戸	陶器	すり鉢	-	-	-	-	3.00	褐色	白色粒子・砂粒	良		
8	第24回	6	H 29コウフショウワカ(水引)1号土焼一品	1号土焼	土器	かわらけ	-	-	-	-	10.80	12.00	外)褐色 内)灰・黄褐色	黑色粒子・金雲母	良	
9	第24回	1	H 29コウフショウワカ(水引)No.1	包含層	土器	かわらけ	-	-	-	-	6.40	3.00	外)灰・黃褐色 内)灰・褐色	赤色粒子・金雲母	良	
10	第24回	3	H 29コウフショウワカ(水引)No.19	包含層	土器	かわらけ	-	-	-	-	11.60	6.20	2.30	外)淡褐色 内)灰・黃褐色	赤・白色粒子・金雲母	やや良
11	第24回	5	H 29コウフショウワカ(水引)No.32	包含層	土器	すり鉢	-	-	-	-	-	-	褐色	赤・白色粒子	やや良	
12	第24回	2	H 29コウフショウワカ(水引)No.7	包含層	陶器	高台杯?	-	-	-	-	15.00	2.10	褐灰色	黑色粒子・密	良	
13	第24回	4	H 29コウフショウワカ(水引)No.27	包含層	陶器	鉢	-	-	-	-	10.00	-	内)灰・赤褐色	白・黑色粒子	良	
14	第24回	14	H 29コウフショウワカ(水引)新樹かく亂一品	かく乱	土器	甕の壺	-	-	-	-	6.20	2.60	外)明る褐色 内)灰・褐色	白・黑・赤色粒子	やや良	

第13表 水景施設地下機械室設置地点 瓦観察表

遺物番号	図版番号	測定番号	注記	地点	遺物名	種別	器種	長さ (cm)	法面 厚さ (cm)		色調	胎土	備考
									幅	厚さ			
6	第24回	12	H 29コウフショウワカ(水引)2号石瓶No.1, No.2	2号井戸	瓦	軒丸瓦	(13.10)	110.90	3.60	-	灰	白色粒子	R.1 内面へテ漏査・コビキ

## 第5節 確認調査・立会調査

### 第1項 平成26年度

調査期間 平成26年8月20日・9月19日

調査担当者 主幹・文化財主事 浅川一郎、副主幹・文化財主事 吉岡弘樹

平成26年度は甲府駅南口駅前広場の南側の主要地方道甲府韮崎線(平和通り)の中央分離帯内において2件の確認調査(H26立会No1・2)を実施した(第25図、第14表)。このうちH26立会No1の2号トレーニングにおいて、地表下約1.2mの地点で3基の土坑を検出した。これらの遺構は、以後の工事により破壊が及ぶことから、平成26年12月に記録保存のための発掘調査を実施した。なお、発掘調査の詳細は第3章第1節に記載している。

第14表 平成26年度 立会調査・確認調査一覧

番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積 (約、m <sup>2</sup> )	掘削深度 (約、m)	土層	出土品	遺構	措置
1	平和通り中央分離帯	確認調査	中央分離帯撤去	平成26年8月20日	浅川・吉岡	17.4	1.2～1.4	-	-	土坑	発掘調査による記録保存が必要 ※平成26年12月実施
2	平和通り中央分離帯	確認調査	中央分離帯撤去	平成26年9月19日	浅川・吉岡	11.7	1.7	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。

### 第2項 平成27年度

調査期間 平成27年4月8日～平成28年3月31日

調査担当者 史跡資料活用課長 今福利恵、主幹・文化財主事 浅川一郎、副主幹・文化財主事 宮里学  
文化財主事 御山亮済、文化財主事 久保田健太郎、非常勤嘱託 上野桜

平成27年度は2件の確認調査と4件の立会調査を実施している(第25図、第15表)。

H27立会No1は、バスシェルター基礎設置前の埋設管試掘調査に伴い15箇所で立会調査を実施し、その結果、南側のXe1～3の3地点において地表下約1.1m以下に江戸時代の地盤を確認している(第25図)。

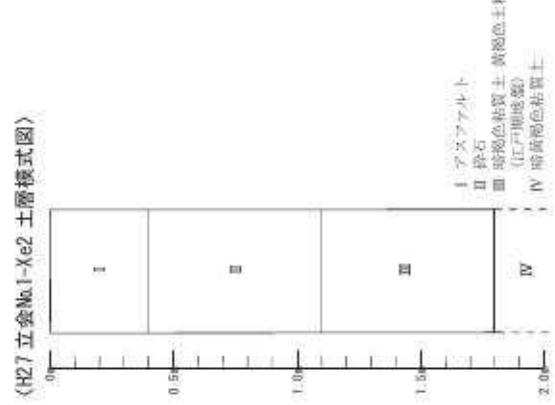
主要地方道甲府韮崎線(平和通り)の中央分離帯内で実施した立会調査(H27立会No2)では、北側中央分離帯内において、江戸時代の造成層中に木箱と井戸と思われる遺構を確認した。これらの遺構は、工事による破壊が及ばないことから保護シートを設置し埋設保存を行った。木箱内からは幕末期の磁器(第40図No1)が出土している。

甲府駅南口駅前ロータリー再舗装工事に伴う確認調査(H27立会No4)は工事の計画掘削深度0.9mに埋蔵文化財の保護層0.3mを加えた地表下1.2mまでを調査対象とした。その結果、地表下約1.2mまでは埋蔵文化財は確認されなかった。ただし、今回の調査対象深度以下に江戸期の層が残っている可能性も考えられ、地表下1.2m以下に掘削がおよび場合は再度調査が必要と判断している。なお、近代の文化層中出土の近代の磁器(第40図No2)は、H27立会No2の出土磁器と接合している。

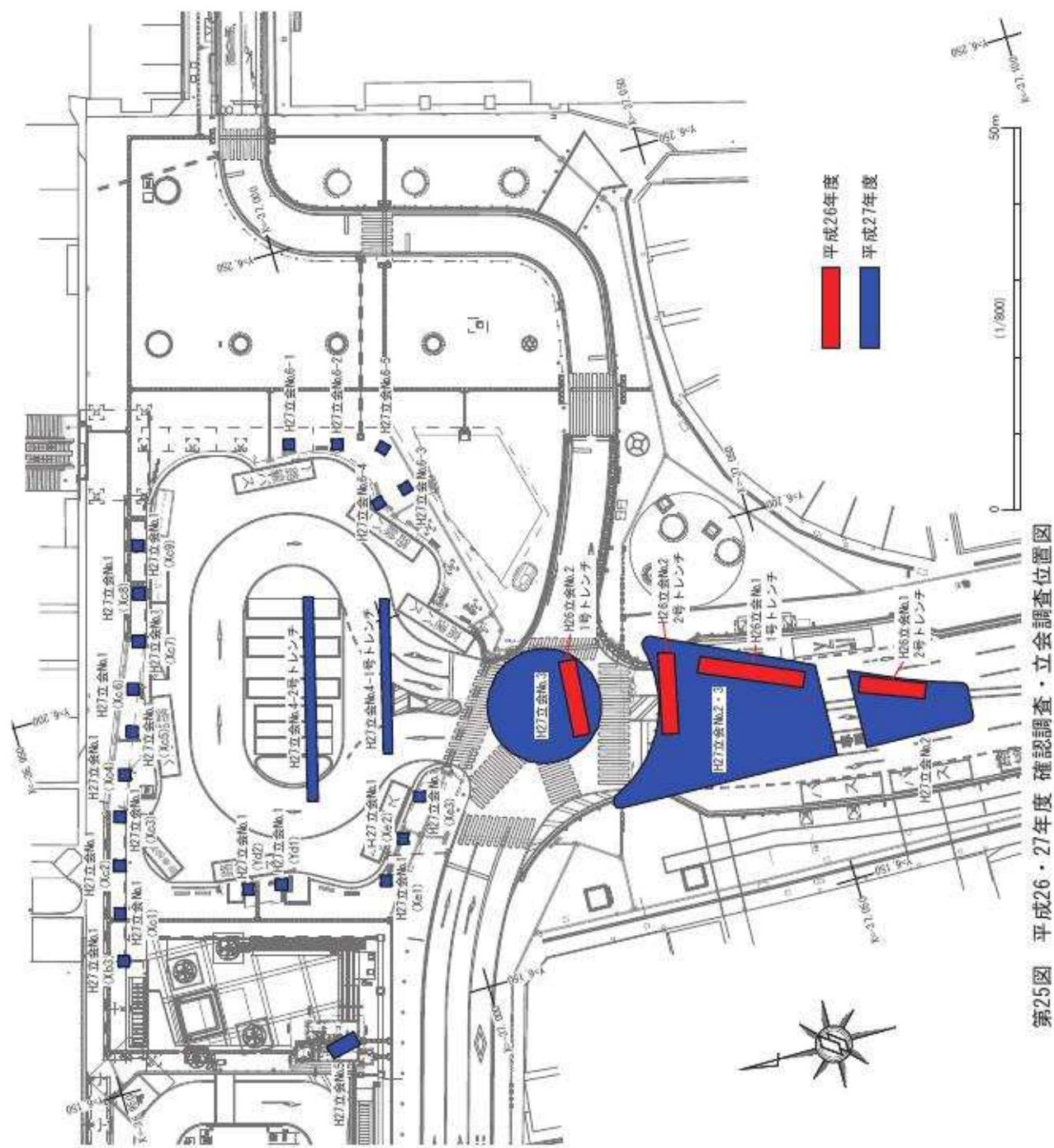
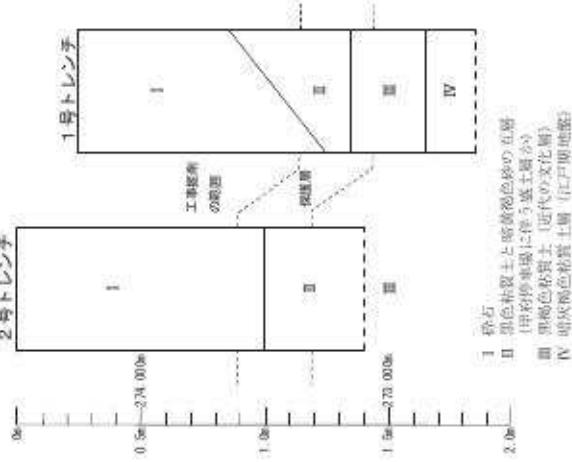
駅前広場公用トイレ建設に伴いおこなった確認調査(H27立会No5)においては、地表下約1.7mより3基のピット等を確認した。これらの遺構は、以後の工事により破壊が及ぶことから、平成27年10・11月に記録保存のための発掘調査を実施した。なお、発掘調査の詳細は第3章第2節に記載している。

第15表 平成27年度 立会調査・確認調査一覧

番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積 (約、m <sup>2</sup> )	掘削深度 (約、m)	土層	出土品	遺構	措置
1	南口駅前広場	立会	バスシェルター基礎工事(試掘)	平成27年4月8・9・12～15日 6月2日	今福・浅川・宮里・御山・久保田	33.8	1.8	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。※現地表面下1.1mで江戸期の地盤を確認した箇所は、掘削が行われる場合は調査が必要。現地表面下1.8mが既掘の箇所は、それ以下に掘削が及ぶ場合は調査が必要。
2	駅前中央分離帯	立会	モニメント土台撤去および再舗装工事	平成27年5月13・14・16・18日	御山・上野	-	-	造成層	瓦・磁器	井戸・土坑	埋蔵文化財シートを設置の上埋設保存。
3	駅前円形植樹帯地点	立会	ハイパーボール基礎撤去	平成27年5月16日	御山	-	1.2	造成層	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
4	南口駅前広場	確認調査	再舗装工事	平成27年7月24日	御山・上野	58.3	1.5	-	磁器	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。ただし、現地表面下1.2m以下に掘削が及ぶ場合は調査が必要。
5	南口駅前広場	確認調査	公用トイレ建設工事	平成27年9月10・11日	御山・上野	2.0	1.8	-	磁器	ピット	発掘調査による記録保存が必要。 ※平成27年10・11月実施。
6	南口駅前広場	立会	シェルター基礎工事	平成28年3月31日	上野	31.2	0.9～1.3	-	瓦	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。



(H27 立会調査No.4 土層模式図)



第25図 平成26・27年度 確認調査・立会調査位置図

### 第3項 平成28年度

調査期間 平成28年4月1日～3月31日

調査担当者 主幹・文化財主事 浅川一郎、主査・文化財主事 依田幸浩、文化財主事 久保田健太郎  
文化財主事 上野桜、非常勤嘱託 加々美鯨美、臨時職員 山本茂樹

平成27年度は2件の確認調査と14件の立会調査を実施している(第26・27図、第16表)。

H28立会No.4は、甲府駅南口駅前広場総合案内所建設に伴う確認調査であり、近世から近代の遺物包含層や地表下約1.5mよりピット等を確認した(第28図)。これらの遺構は、以後の工事により破壊が及ぶことから、平成28年9月から11月の期間で記録保存のための発掘調査(第3章第3節)を実施した。

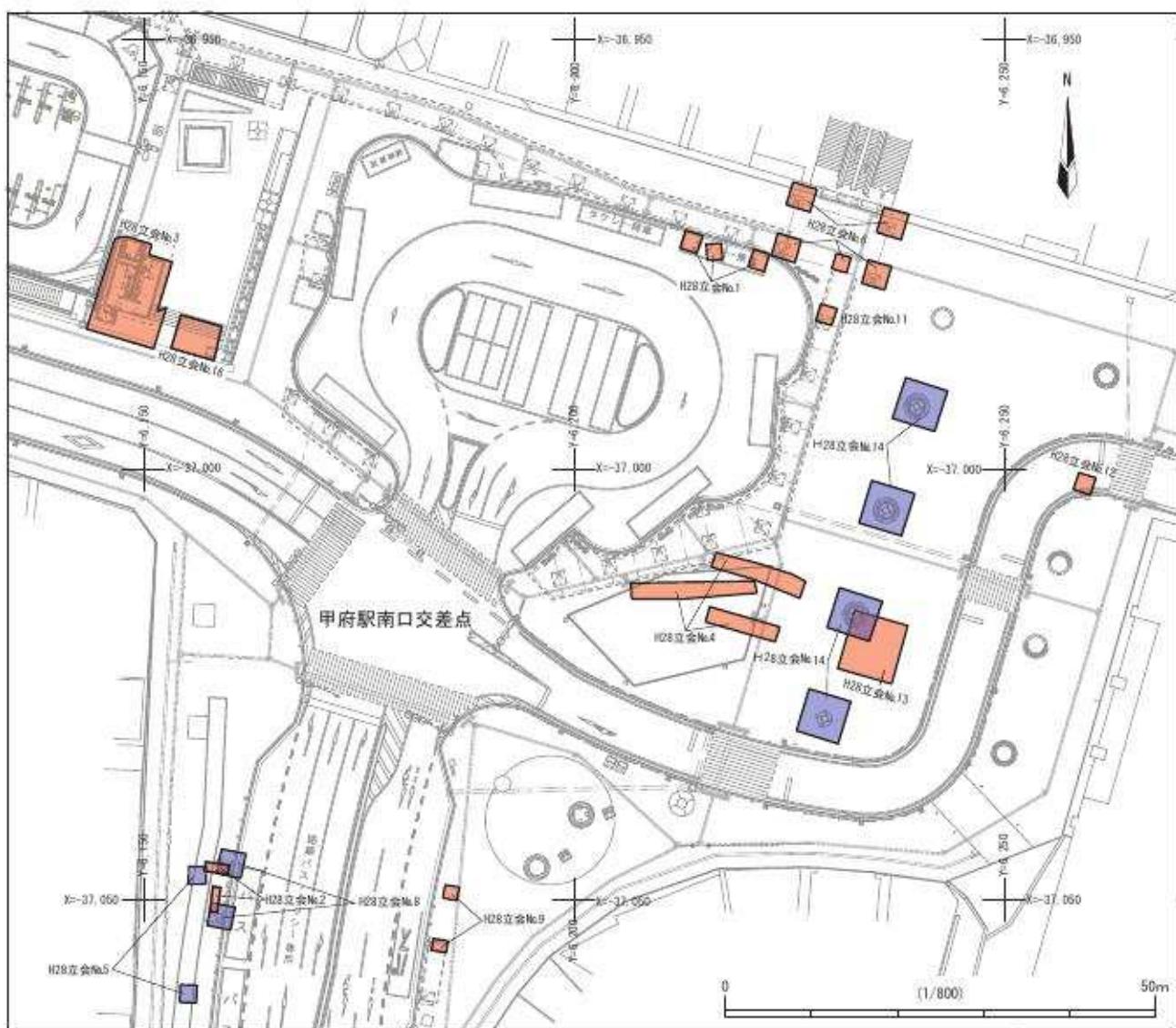
中央分離帯撤去工事に伴い実施した立会調査(H28立会No.10)では、地表下約1mの掘削底面において西側に灰色～黄褐色の地山層が、東側には褐色～明褐色の埋土が堆積している状況を確認した(第29図)。当該地は甲府城一の堀の立ち上がり部と推定され、今回確認した土層の変化は甲府城一の堀の立ち上がりラインの可能性があるが、特定にはさらに広範囲での調査が必要であり、本工事における調査では特定にいたっていない。

H28立会No.13は、ミスト散布装置機械室タンク埋設工事に伴い実施した立会調査であり、甲府城一の堀内に位置する。調査の結果、地表下約1m以下に一の掘埋土であるシルト層が堆積しており、対象範囲の東側では地表下約3～3.5mにおいて、明治期以降の堀の埋め立て時に石垣石材を加工した際に発生したと考えられる安山岩の割り石層が検出された。

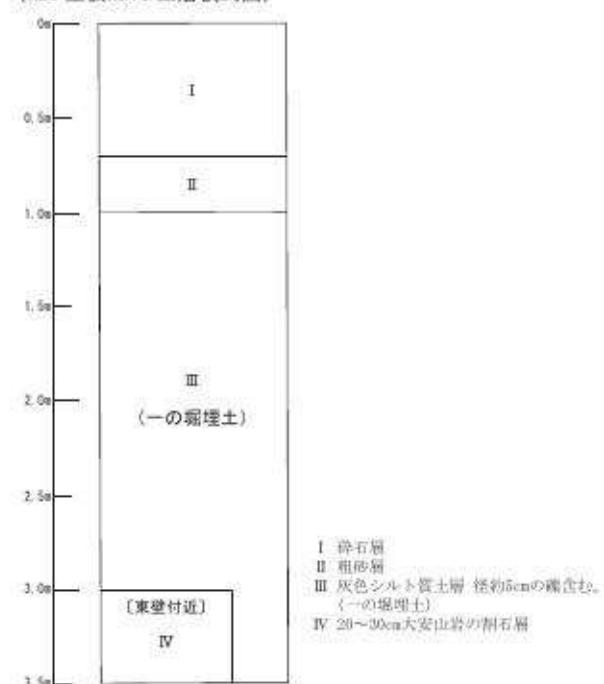
水景施設機械室設置工事に伴う立会調査(H28立会No.16)では、地表下約1.5mより土坑などの遺構が確認され、以後の工事により破壊が及ぶことから、平成29年4月に記録保存のための発掘調査(第3章第4節)を実施した。

第16表 平成28年度 立会調査・確認調査一覧

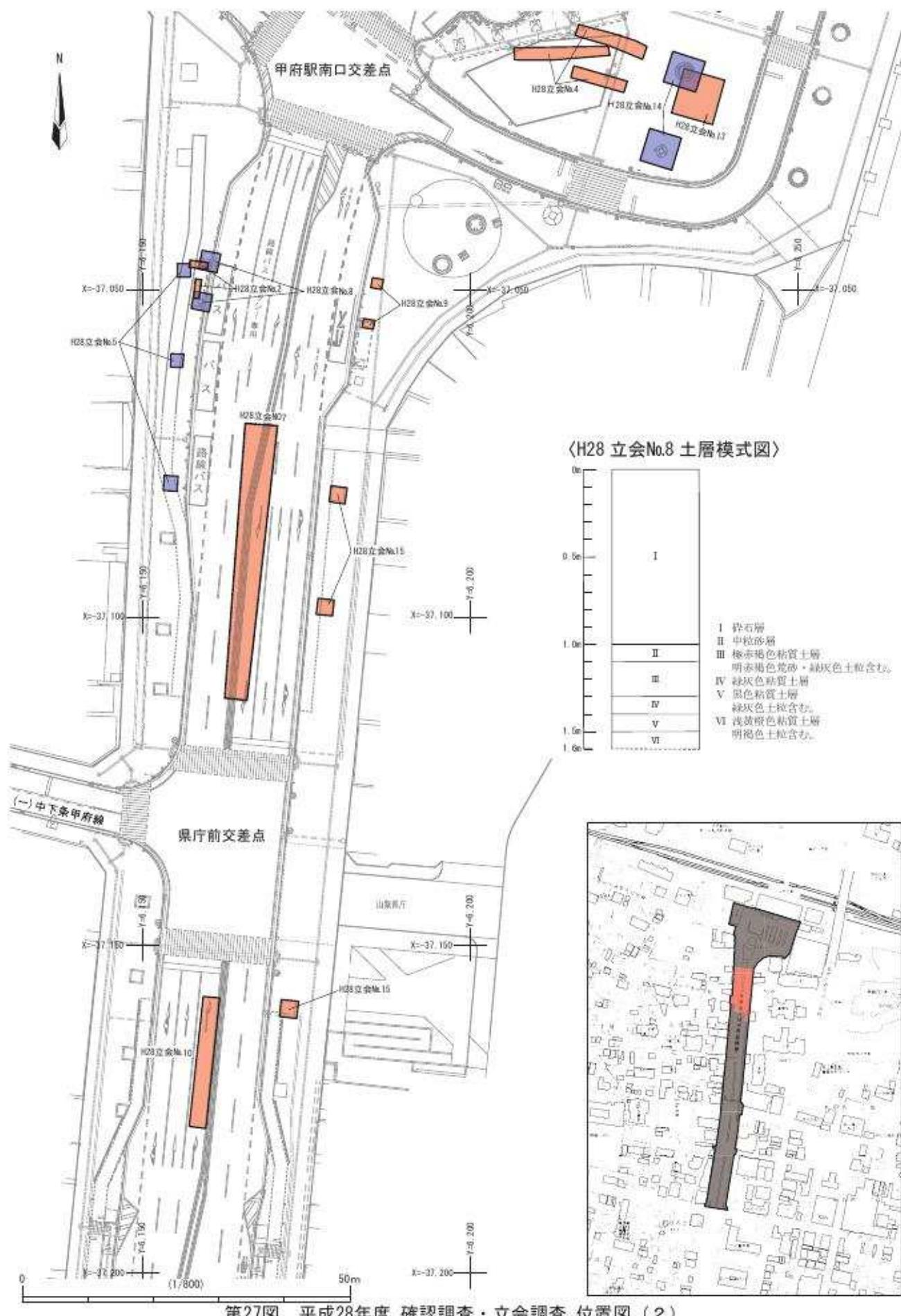
番号	調査地点	調査種別	調査実機	調査時期	調査担当	調査面積 (約、m <sup>2</sup> )	掘削深度 (約、m)	土層	出土品	遺構	措置
1	南口駅前広場	立会	甲府駅南口大屋根基礎撤去	平成28年5月24・25日	依田・上野	10.0	1.0 1.3	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
2	平和通り西側	立会	バスシェルター基礎工事(試掘)	平成28年5月26日	依田・上野	6.0	1.5	-	磁器	-	確認調査による再確認必要。 ※平成28年6・7月実施(No.8)
3	信玄公像広場	立会	公衆用トイレ建設工事	平成28年5月31日～6月3・6・9日	浅川・依田・久保田・上野・加々美	77.6	2.2	-	瓦等	井戸ほか	記録保存。
4	南口駅前広場	確認調査	甲府駅南口駅前広場総合案内所建設工事	平成28年6月1～3日	依田・久保田・上野・加々美	58.3	1.8	瓦・磁器	ピットほか	-	発掘調査による記録保存必要。 ※平成28年9～11月実施
5	平和通り西側	立会	横栽抜根	平成28年6月6～8日	依田・上野	18.0	1.2 1.3	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
6	南口駅前広場	立会	甲府駅南口大屋根建設およびバスシェルター基礎工事	平成28年6月9・10日	依田・上野	40.0	1.5	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
7	平和通り中央分離帯	立会	中央分離帯撤去	平成28年6月10・14日	浅川・依田・上野	147.0	1.3	-	瓦	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
8	平和通り西側	確認調査	バスシェルター基礎工事	平成28年6月27～29日・7月1日	依田・上野	18.0	1.6	-	磁器	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
9	平和通り東側	立会	バスシェルター基礎工事(試掘)	平成28年7月20日	依田・上野	6.8	1.6	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
10	平和通り中央分離帯	立会	中央分離帯撤去	平成28年9月13～16日	浅川・依田	48.0	1.1	-	一の堀	埋設保存。	
11	南口駅前広場	立会	バスシェルター基礎工事	平成28年9月21日	依田	9.0	1.5	-	瓦	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
12	南口駅前広場	立会	横栽抜根	平成28年10月7日	依田	4.0	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
13	南口駅前広場	立会	ミスト機械室タンク埋設工事	平成28年11月4・7日	依田・上野	47.0	3.5	一の堀 土器・磁器・瓦	-	-	記録保存。
14	南口駅前広場	立会	横栽工事	平成28年11月22・26・28日	依田	100.0	0.7～0.9	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
15	平和通り東側	立会	横栽工事	平成28年11月25・26日	依田	18.8	0.7～0.9	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
16	信玄公像広場	立会	水景施設機械室設置	平成29年3月31日	上野・山本	5.0	1.5	かわらけ	土坑	-	発掘調査による記録保存必要。 ※平成29年4月実施

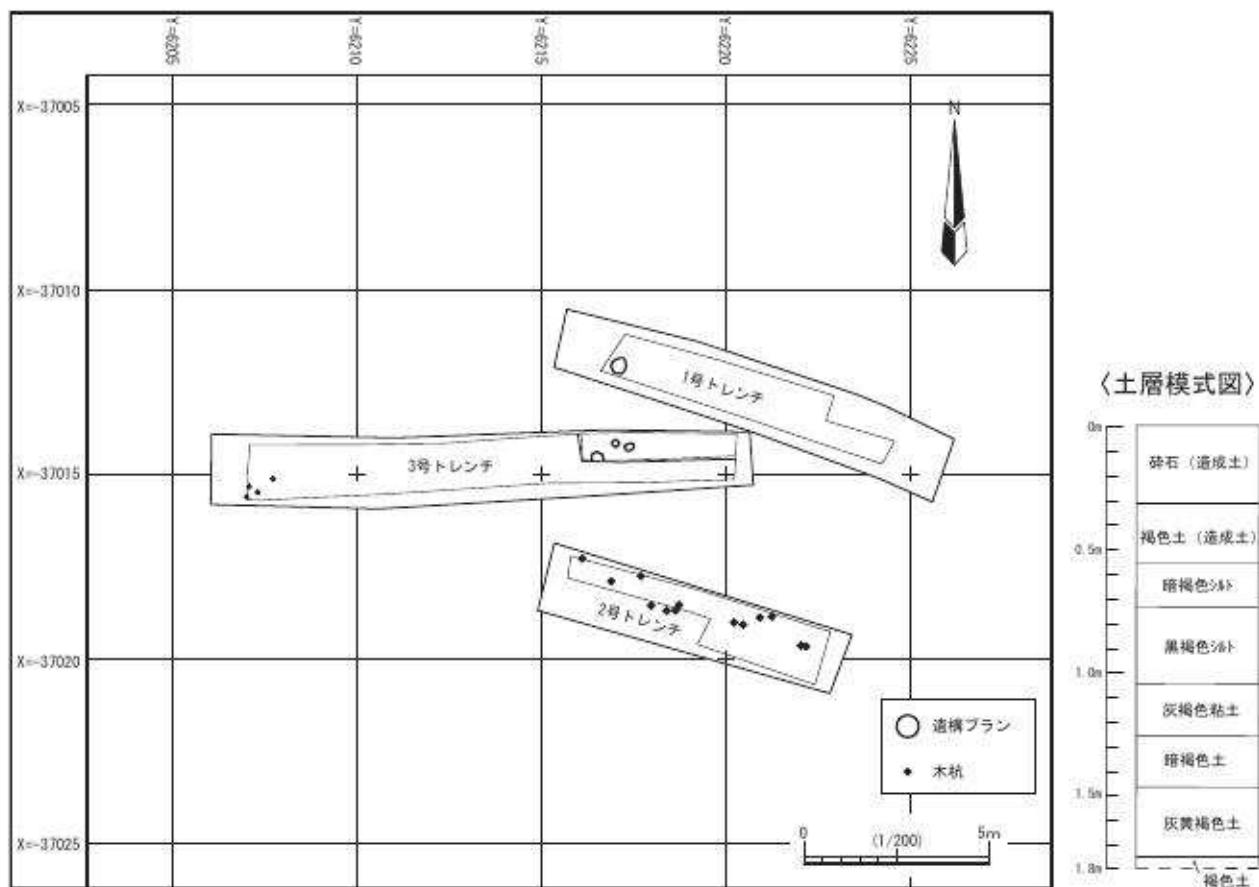


〈H28立会No.13 土層模式図〉



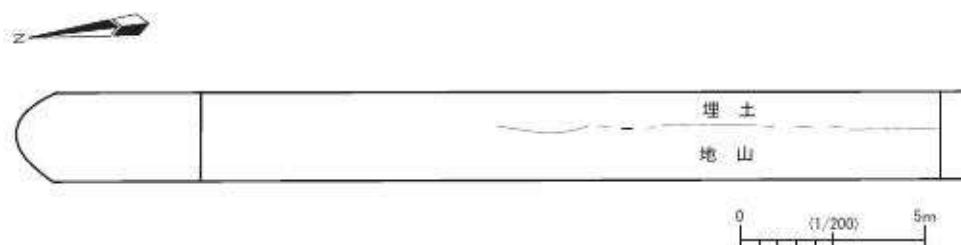
第26図 平成28年度 確認調査・立会調査 位置図（1）



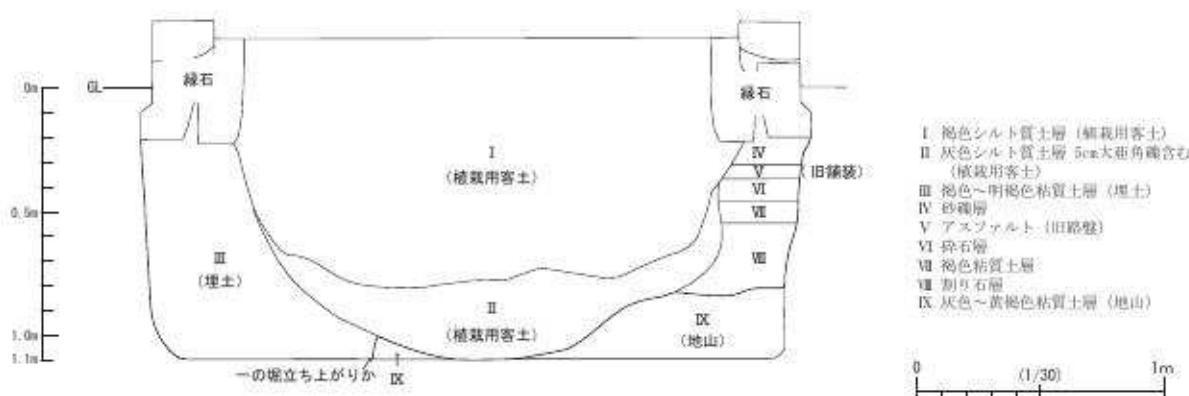


第28図 平成28年度確認調査 H28立会No.4

（平面図）



（土層図）



第29図 平成28年度立会調査 H28立会No.10

#### 第4項 平成29年度

調査期間 平成29年4月1日～3月31日

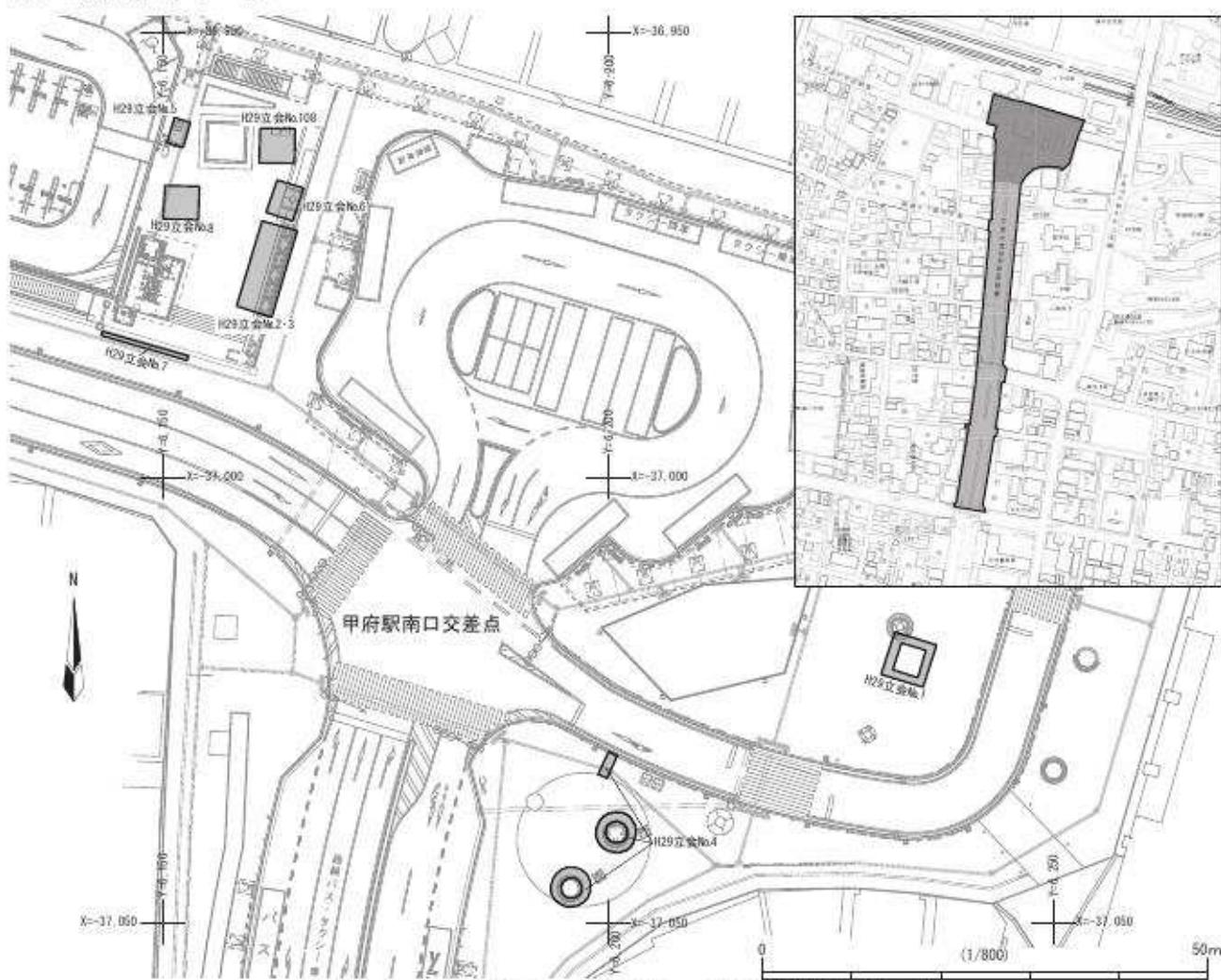
調査担当者 所長 中山誠二、次長 高野玄明、調査研究課長 今福利恵、史跡資料普及課長 保坂和博  
主幹・文化財主事 浅川一郎、主査・文化財主事 依田幸浩、主任・文化財主事 柴田亮平  
専門員 米田明訓、文化財主事 上野桜、非常勤嘱託 末木健・小池準一、臨時職員 古屋ひろみ

平成29年度は109件の立会調査を実施している(第30・31図、第17表)。

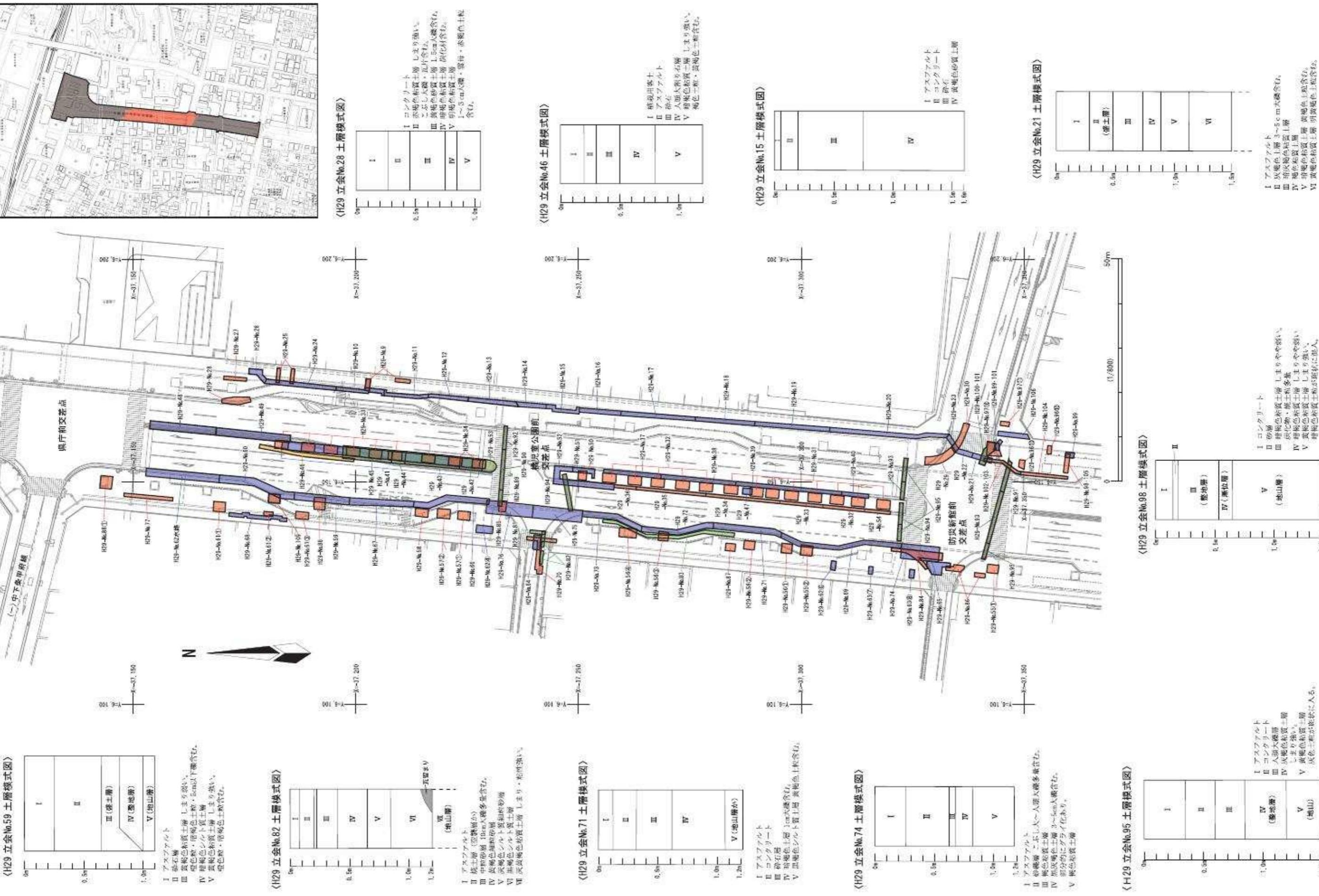
橋児童公園前交差点南側の中央分離帯で実施したH29立会No.51・52では、地表下約0.7mの地点で東側に落ち込む堀状の遺構を確認し、遺構内を約0.3m掘り下げたが、遺構底面まで確認できていない(第32図)。橋児童公園前交差点北側の横断歩道内において実施したH29立会No.89・90・91においても、同様に地表下約0.7mの地点で東側に落ち込む堀状の遺構を確認し、遺構内を約1.4m掘り下げたが遺構底面は確認できていない(第32図)。当該地は甲府城一の堀の立ち上がり部と推定され、今回確認した土層の変化は甲府城一の堀の立ち上がりラインの可能性がある。

橋児童公園前交差点－防災新館前交差点間の中央分離帯工事により立会調査を行ったH29立会No.39では、記録写真以外の詳細な記録が残っていないものの、地表下約60cm付近で東側に面をもつ石列が確認されている。また、調査区北壁の土層記録写真では、石列東側において、石列から東に向かって傾斜する掘り込みの痕跡も認められる。

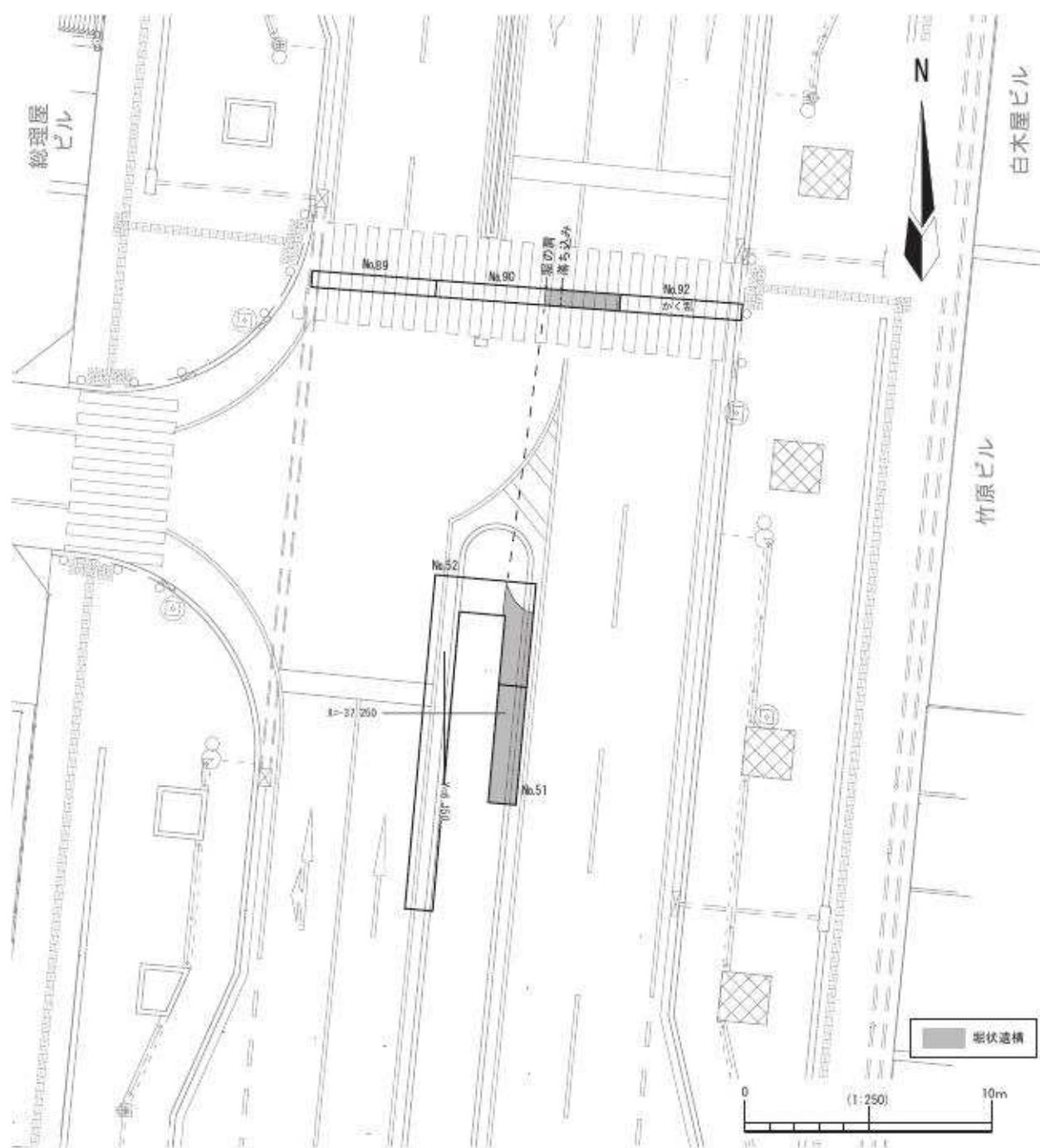
防災新館前交差点北側の中央分離帯内における工事で矢穴の痕跡をもつ石材が出土した。確認時にはすでに原位置を保っておらず、詳細な出土状況は不明であるが、出土地の西側に隣接するH29立会No.54の範囲内に埋設保存している。



第30図 平成29年度 確認調査・立会調査位置図（1）

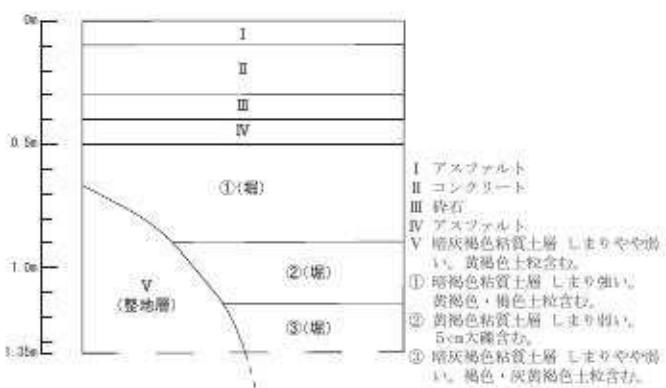
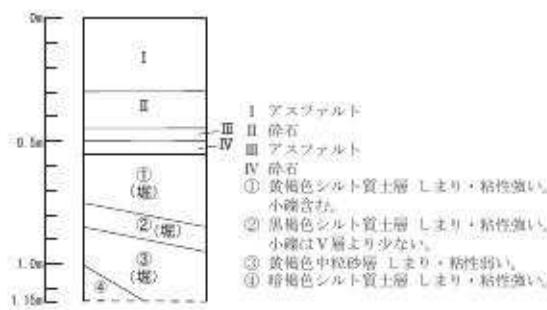


第31図 平成29年度 確認調査・立会調査 位置図（2）



(H29 立会No.90 土層模式図 (S=1/30))

(H29 立会No.51 土層模式図 (S=1/30))



第32図 平成29年度立会調査 H29立会No.51・52・89・90・92





番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積 (約、m <sup>2</sup> )	掘削深度 (約、m)	土層	出土品	遺構	措置
44	平和ストリートビル前	立会	縁石設置・分離帶内掘削	平成29年6月8日	上野・小池	7.8	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
45	平和ストリートビル前～ 三菱UFJ モルガン・ス タンレー証券前	立会	縁石設置・分離帶内掘削	平成29年6月9日	上野・小池	28.6	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
46	三菱UFJ モルガン・ス タンレー証券前～丸栄ビ ル前	立会	縁石設置	平成29年6月13日	上野・小池	17.6	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
47	高山ビル前	立会	照明基礎撤去	平成29年6月16日	上野・小池	3.0	1.5	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
48	山梨中央銀行前	立会	縁石設置	平成29年6月19日	上野・小池	25.5	1.0～1.2	-	陶磁器	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
49	山梨中央銀行前～丸栄ビ ル前	立会	縁石設置	平成29年6月23日	依田・小池	28.9	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
50	神津薬局前	立会	立木抜根	平成29年11月29日	依田・柴田	2.9	0.6	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
51	神津薬局前	立会	①縁石撤去 ②ロータリー看板基礎 撤去	平成29年12月14 日	上野・柴田	5.5	①1.1～ 1.2 ②1.8	-	-	縛状 遺構	立会調査による記録保存実施。
52	神津薬局前	立会	縁石撤去	平成29年12月15 日	依田・柴田	22.2	1.1～1.2	-	-	縛状 遺構	立会調査による記録保存実施。
53	やきとり丸八前	立会	たちはな児童公園前交 差点信号撤去	平成29年12月18 日	石神・古屋	7.2	1.2	造成 層	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
54	防災新館前交差点北側	立会	縁石撤去	平成30年1月10日	石神・上野	8.3	1.0～1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。 1月9日出土矢穴石材を埋設。

#### 《IV 平和通り西側》

番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積 (約、m <sup>2</sup> )	掘削深度 (約、m)	土層	出土品	遺構	措置
55	①りそな銀行前 ②たちはな屋ビル前	立会	ケヤキ抜根(2箇所)	平成29年8月21日	依田・上野	①5.8 ②5.8	①0.7 ②1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
56	①たちはな屋ビル前 ②明治安田生命甲府駅ビ ル前 ③新富屋ビル前 ④三井住友銀行前	立会	ケヤキ抜根(4箇所)	平成29年8月22日	上野・柴田	①5.0 ②4.9 ③4.5 ④8.2	①0.6 ②0.7 ③0.8 ④1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
109	丸栄ビル前	立会	ケヤキ抜根(1箇所)	平成29年8月23日	依田・柴田	5.5	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
57	①総理屋ビル前 ②共栄駅前ビル前	立会	ケヤキ抜根(2箇所)	平成29年8月24日	依田	①5.2 ②5.4	①1.1 ②1.0	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
58	平和ストリートビル前	立会	ケヤキ抜根(1箇所)	平成29年8月25日	石神	5.4	0.5	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
59	三菱UFJ モルガン・ス タンレー証券前	立会	水路工事	平成29年9月4日	保坂・依田	19.8	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
60	丸栄ビル～山梨中央銀行 前	立会	水路工事	平成29年9月5日	依田・小池	28.8	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
61	①山梨中央銀行前 ②平和REC(株)前 ③三菱UFJ モルガン・ス タンレー証券前	立会	水道工事(試掘①②③)	平成29年9月6日	上野・依田	①4.7 ②1.9 ③4.5	①1.2 ②1.3 ③1.4	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
62	水路・山梨中央銀行前 ④やきとり丸八前 ⑤たちはな屋ビル前	立会	水路工事(試掘④⑤)	平成29年9月7日	柴田・米田	水路18.0 ④5.9 ⑤2.2	水路1.1 ④1.2 ⑤1.0	水路・瓦 ④ ⑤	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
63	⑦和光電機ビル前 ⑧SMBC 日興証券前	立会	水道工事(試掘⑦⑧)	平成29年9月8日	依田・柴田	⑦2.0 ⑧2.2	⑦1.1 ⑧1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
64	横堀童公園前交差点内	立会	水道工事(試掘⑨)	平成29年9月10日	保坂・石神	4.8	1.3	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
65	防災新館前交差点内	立会	水道工事(試掘⑩)	平成29年9月11日	依田・上野	8.0	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
66	総理屋ビル前～平和スト リートビル前	立会	水路工事	平成29年9月12日	保坂・小池	23.6	1.1	瓦	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
67	平和ストリートビル前～ 三菱UFJ モルガン・ス タンレー証券前	立会	水路工事	平成29年9月13日	上野・小池	22.5	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
68	山梨中央銀行前～平和 REC(株)前	立会	臨時給水管工事	平成29年9月15日	上野・柴田	8.1	0.6	瓦	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
69	SMBC 日興証券前～明治 安田生命甲府ビル前	立会	水路工事	平成29年9月19日 平成29年9月20日	依田・米田 小池・柴田	7.0 20.8	1.3 0.7～1.1	瓦	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
70	横堀童公園交差点内	立会	臨時給水管工事	平成29年9月24日	保坂	4.0	0.7	瓦	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
71	明治安田生命甲府ビル前 ～高山ビル前	立会	水路工事	平成29年9月21日	石神・米田	12.5	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
72	高山ビル前～三井住友銀 行前	立会	水路工事	平成29年9月25日	米田・小池	20.8	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
73	三井住友銀行前	立会	水路工事	平成29年9月26日	米田・小池	19.5	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
74	SMBC 日興証券前	立会	水路工事	平成29年10月2日	石神・米田	28.9	1.2	造成 層?	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
75	神津薬局前	立会	水路工事	平成29年10月3日	柴田・米田	31.4	1.0～1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。

番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積(約、m <sup>2</sup> )	掘削深度(約、m)	土層	出土品	遺構	措置
76	やまとり丸八前	立会	水路工事	平成29年10月4日	柴田	28.0	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
77	山梨中央銀行前	立会	水道工事	平成29年10月10日	依田・小池	8.3	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
78	4工区	立会	水道工事電気工事	平成29年10月12日	依田	20.0	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
79	4工区	立会	水道工事電気工事	平成29年10月26日	石神・米田	23.0	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
80	4工区	立会	電気工事	平成29年10月27日	上野・小池	20.0	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
81	橋児童公園前交差点内	立会	水道工事	平成29年10月27日	保坂・柴田	2.3	1.3	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
82	橋児童公園前交差点内	立会	水道工事	平成29年10月30日	保坂・柴田	4.6	1.5	瓦	瓦淵まり	-	立会調査による記録保存実施。
83	高山ビル前～三井住友銀行前	立会	電気工事	平成29年11月2日	柴田・米田	25.7	0.7	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
84	SMBC 日興証券前	立会	電気工事	平成29年11月16日	柴田・米田	17.6	1.0	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
85	橋児童公園前交差点内	立会	電気工事	平成29年11月18日	保坂・柴田	3.1	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
86	りそな銀行前	立会	水道工事	平成29年12月18日	上野・柴田	6.6	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
87	高山ビル前	立会	ハナミズキ抜根(1箇所)	平成30年2月1日	柴田	3.7	0.6	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
88	①富士急行ビル前 ②三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券前	立会	ケヤキ植栽(2箇所)	平成30年2月10日	石神・柴田	①7.3 ②4.6	①0.9 ②0.8	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。

#### 《V 平和通り横断部》

番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積(約、m <sup>2</sup> )	掘削深度(約、m)	土層	出土品	遺構	措置
89	橋児童公園前交差点内	立会	電気工事	平成29年11月8日	中山・保坂	2.8	1.3	造成層	瓦	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
90	橋児童公園前交差点内	立会	電気工事	平成29年11月9日	保坂・石神・上野・柴田	7.2	1.4	造成層	-	烟状遺構	立会調査による記録保存。
91	防災新館前交差点内	立会	電気工事	平成29年11月9日	保坂・石神・上野・柴田	5.9	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
92	橋児童公園前交差点内	立会	電気工事	平成29年11月10日	石神・依田	4.4	1.5	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
93	防災新館前交差点内	立会	電気工事	平成29年11月10日	石神・依田	10.7	1.4	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
94	①橋児童公園前交差点内 ②防災新館前交差点内	立会	電気工事	平成29年11月12日	保坂・上野	①6.8 ②4.2	①1.5 ②1.5	③造成層	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
95	防災新館前交差点内	立会	電気工事	平成29年11月13日	今福・石神	北3.9 南8.1	北1.2 南1.5	造成層	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。

#### 《VI 防災新館交差点南東》

番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積(約、m <sup>2</sup> )	掘削深度(約、m)	土層	出土品	遺構	措置
96	三井住友信託銀行前	立会	水道工事(試掘⑩)	平成29年9月9日	上野・柴田	⑧2.0 ⑨2.2	⑩1.3 ⑩1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
97	⑩防災新館前交差点内 ⑪三井住友信託銀行前	立会	水道工事(試掘⑩⑪)	平成29年9月12日	石神	⑩9.1 ⑩2.1	⑩1.5 ⑩0.9	後造成層	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
98	三井住友信託銀行前	立会	水道工事(試掘⑩)	平成29年10月7日	保坂	3.8	1.4	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
99	防災新館前交差点内	立会	水道工事	平成30年1月17日	石神・上野	①2.3 ②2.6	①1.1 ②1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
100	防災新館前交差点内	立会	水道工事	平成30年1月18日	高野・柴田	9.1	1.3	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
101	防災新館前交差点内	立会	水道工事	平成30年1月19日	保坂・依田	14.0	1.4	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
102	三井住友信託銀行前	立会	水道工事	平成30年1月23日	中山・保坂	5.2	1.6 ~ 1.7	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
103	三井住友信託銀行前	立会	水道工事	平成30年1月24日	石神・依田	6.0	1.4	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
104	三井住友信託銀行前	立会	水道工事	平成30年1月26日	上野・柴田	7.4	1.2	造成層	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
105	三井住友信託銀行前	立会	水道工事	平成30年1月29日	上野・柴田	3.8	0.6	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
106	三井住友信託銀行前	立会	水路工事	平成30年3月2日	依田・柴田	8.0	1.0	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。

#### 《VII 平和通り西側市道》

番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積(約、m <sup>2</sup> )	掘削深度(約、m)	土層	出土品	遺構	措置
107	平和通り西側市道	立会	水道工事	平成29年12月6日	石神	1.9	1.0	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。

## 第5項 平成30年度

調査期間 平成30年4月1日～平成31年1月18日

調査担当者 次長 高野玄明、調査研究課長 笠原みゆき、史跡資料普及課長 今福利恵、主査・文化財主事 依田幸浩、副主査・文化財主事 正木季洋、主幹・文化財主事 井上彰雄、専門員 米田明訓、主任・文化財主事 柴田亮平、文化財主事 熊谷晋祐、北澤宏明  
非常勤嘱託 小池準一、塩谷風季、臨時職員 高左右裕

平成30年度は128件の立会調査を実施している（第33～34図、第18表）。

主要地方道甲府莧崎線東側歩道内で立会調査を実施したH30立会No.II-20では、地山層上面より掘り込まれる土坑プランを確認した（第35図）。東西は工事範囲外に延び、南は土坑確認面より上層で掘削を終了しているため範囲は不明である。土坑は工事において掘削が及ばないことからプラン確認のみにとどめ、現地に埋設保存している。

市役所前交差点南西部の主要地方道甲府莧崎線西側歩道内で実施したH30立会No.V-6・7では、地表下約1mより南北約5.5mの規模を有する遺構を確認した（第36図）。遺構は近現代の埋土下に堆積する造成層と思われる層の上面より掘り込まれ、近代の陶器片が出土している。東西は工事範囲外に延び、南はかく乱を受けているため範囲は不明である。遺構内部には黄褐色砂が堆積しており、水路の可能性も考えられる。本遺構は工事により掘削が及ばないことからプラン確認にとどめ埋設保存している。

甲府市役所西側の主要地方道甲府莧崎線東側歩道内で実施したH30立会No.VII-11および13では高さ約2mの石垣を確認した（第37図）。石垣は間知積みで、8度の傾斜をもつ。当該地は旧濁川（甲府城二の堀）の東岸にあたり、今回確認した石垣は旧濁川の護岸石垣である。石垣は工事による掘削が及ばないことから埋設保存している。

甲府警察署前交差点北西側歩道内で実施したH30立会No.VIII-6・12では地表下約0.6mより東西方向の石組水路を確認した（第38図）。H30立会No.VIII-6では、地表下約1mまでが工事掘削範囲であるため水路底面までは確認できなかったが、水路北側は2段、南側は3段の安山岩の間知積み石積みを確認している。H30立会No.VIII-12では南側の石積みは失われていたが、北側石積みは水路底面まで良好な状態で残っていた。北側石積みはH30立会No.VIII-6の石積み水路と様相が異なり、切り込み剥ぎで積まれ、最下部の石材は花崗岩と思われる。H30立会No.VIII-6・12で確認した石組水路は工事による掘削が及ばないことから現地に埋設保存している。

主要地方道甲府莧崎線西側歩道内で実施したH30立会No.VIII-15では、地表下約1.2mより東西方向の石組水路を確認した（第39図）。石組水路は空襲時の焼土を含む埋土層の下層の造成層上面より築かれ、水路底面までの深さは約0.4m、南北ともに2段の石積みからなる。水路内下部には水成堆積層である中粒砂層が堆積し、中粒砂層中に現代のものと思われるガラス片がみられることから、終戦前後まで開口していたものと考えられる。H30立会No.VIII-15で確認した石組水路は工事による掘削が及ばないことから現地に埋設保存している。

**第18表 平成30年度立会調査・確認調査一覧  
(I 5工区中央分離帯)**

番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積 (約.m <sup>2</sup> )	掘削深度 (約.m)	土層	出土品	遺構	措置
1	中央分離帯	立会	核規	平成30年4月16日	正木・柴田・北澤	34.7	0.4～0.7	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
2	三井住友信託銀行前	立会	中央分離帯掘削	平成30年5月23日	柴田・米田	29.9	1.0	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
3	三井住友信託銀行前	立会	中央分離帯掘削	平成30年5月24日	柴田	13.5	1.0	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
4	三井住友信託銀行前	立会	中央分離帯掘削	平成30年5月26日	今福・北澤	16.0	1.1	造成層 瓦・陶磁器	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
5	三井住友信託銀行前	立会	中央分離帯掘削	平成30年5月30日	柴田・北澤	12.8	1.1	造成層 瓦・陶磁器	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
6	三井住友信託銀行前	立会	中央分離帯掘削	平成30年5月31日	正木・柴田	18.6	1.1	造成層	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
7	三井住友信託銀行前	立会	中央分離帯掘削	平成30年6月2日	今福・柴田	20.2	1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
8	三井住友信託銀行前	立会	中央分離帯掘削	平成30年6月4日	井上・北澤	19.5	1.2	造成層 陶磁器	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
9	三井住友信託銀行前	立会	中央分離帯掘削	平成30年6月5日	小池・北澤	7.4	1.3	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
10	三井住友信託銀行前	立会	ハンドホール設置	平成30年6月8日	今福・北澤	3.8	0.9	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
11	三井住友信託銀行前	立会	信号基礎撤去	平成30年6月16日	今福・柴田	14.6	1.25～1.6	造成層 瓦	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
12	甲府丸の内ビル前	立会	電気工	平成31年1月15日	柴田・北澤	5.3	1.1	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
13	甲府丸の内ビル前	立会	電気工	平成31年1月16日	依田・正木	6.9	0.9	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
14	甲府丸の内ビル前	立会	電気工	平成31年1月17日	今福・井上	7.3	0.9	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。

**（II 5工区平和通り東側）**

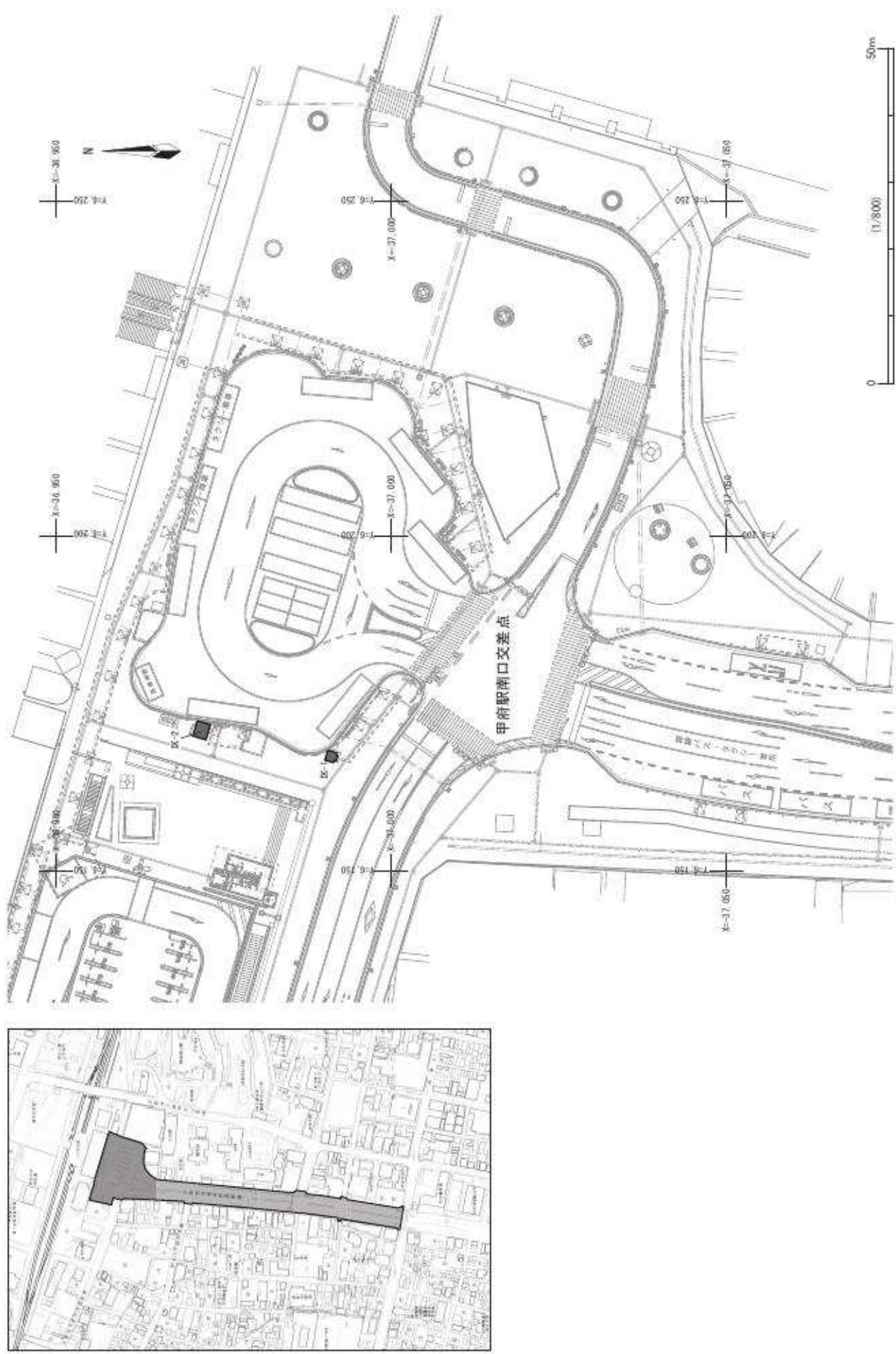
番号	調査地点	調査種別	調査契機	調査時期	調査担当	調査面積 (約.m <sup>2</sup> )	掘削深度 (約.m)	土層	出土品	遺構	措置
1	東武穴水ビル前	立会	路線2 水道試験	平成30年4月16日	正木・柴田・北澤	4.5	0.9	岩盤層 陶磁器	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
2	三井住友信託銀行前	立会	臨時給水管工	平成30年5月7日	柴田・米田	3.4	0.8～1.2	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
3	三井住友信託銀行前	立会	臨時給水管工	平成30年5月9日	柴田・米田	9.4	0.5～0.6	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。
4	三井住友信託銀行前～ 東武穴水ビル前	立会	臨時給水管工	平成30年5月10日	今福・柴田	11.6	0.5～0.6	-	-	-	埋蔵文化財の保護措置は不要。



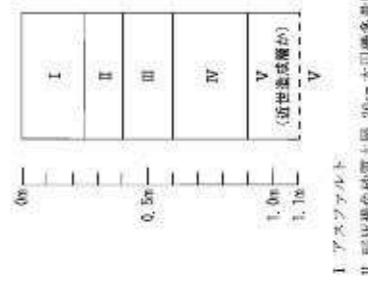


50m  
0  
(1/800)

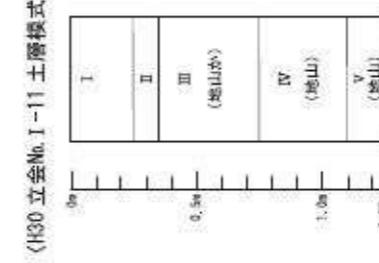
第33図 平成30年度 確認調査・立会調査位置図（1）



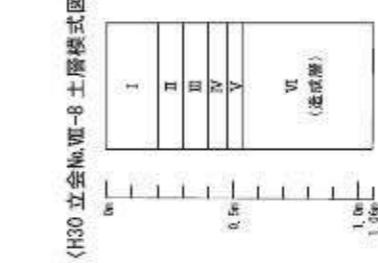
〈H30立会No.IV-18土層模式図〉



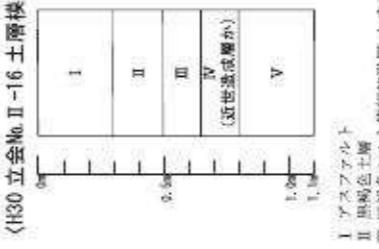
〈H30立会No.I-11土層模式図〉



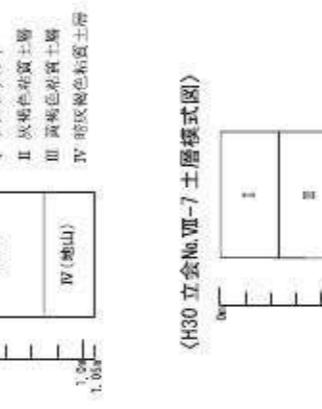
〈H30立会No.VII-8土層模式図〉



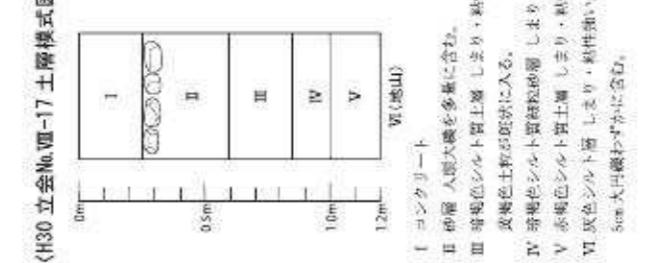
〈H30立会No.II-16土層模式図〉



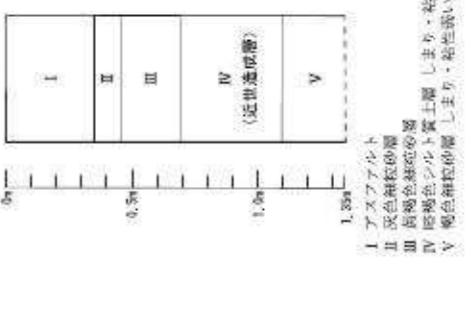
〈H30立会No.II-5土層模式図〉



〈H30立会No.VII-17土層模式図〉

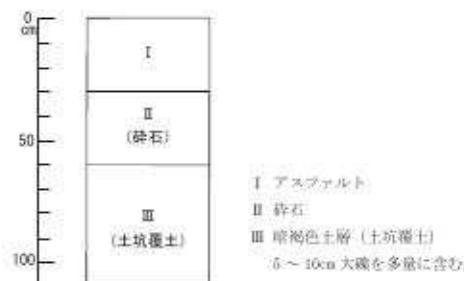


〈H30立会No.VI-4土層模式図〉

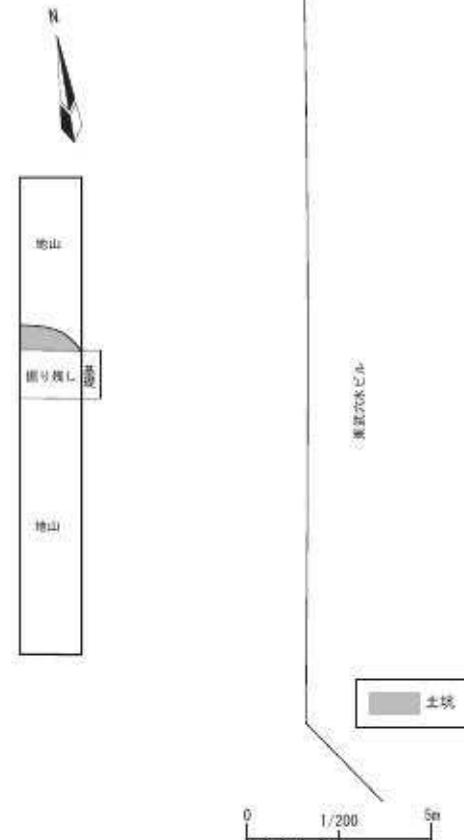


第34図 平成30年度 確認調査・立会調査 位置図 (2)

(H30 立会No. II -20 土層模式図)

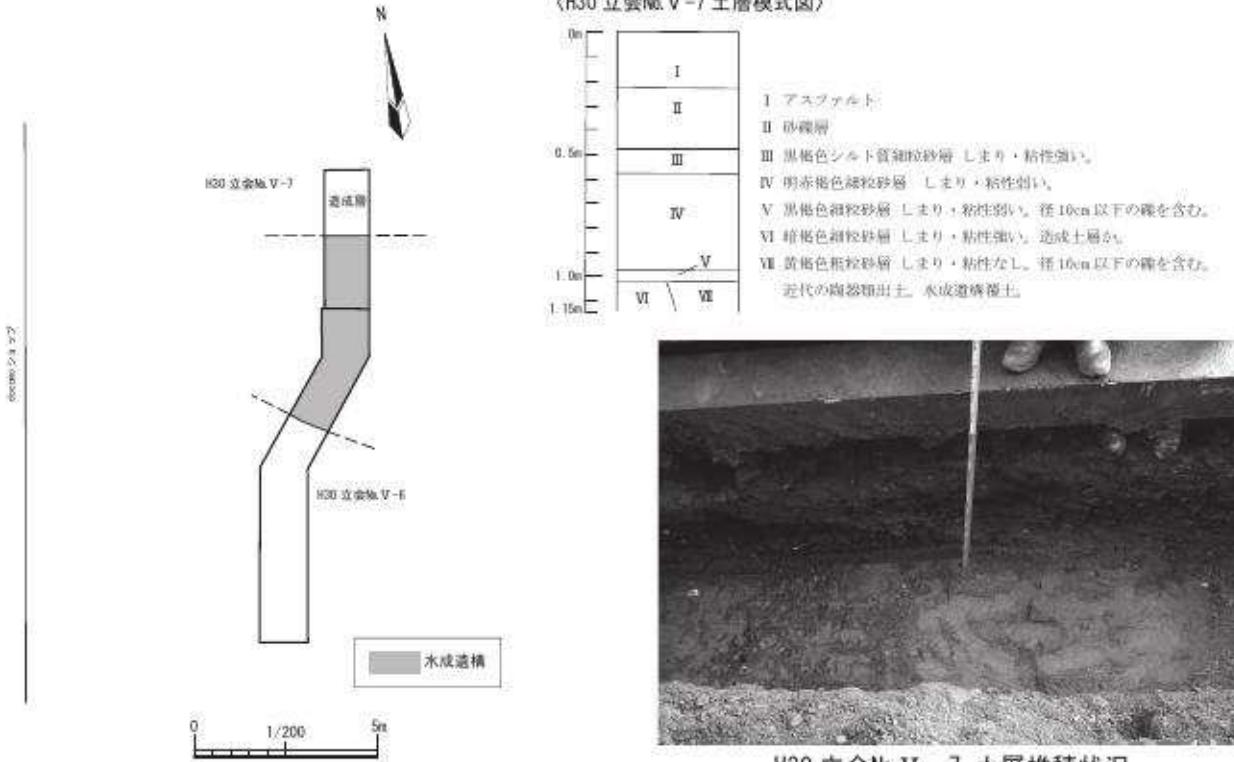


H30 立会No. II -20 土坑検出状況



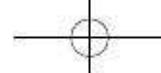
第 35 図 平成 30 年度立会調査 H30 立会No. II -20

(H30 立会No. V -7 土層模式図)



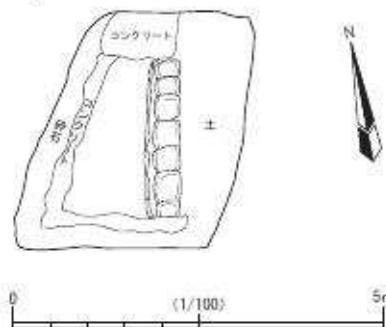
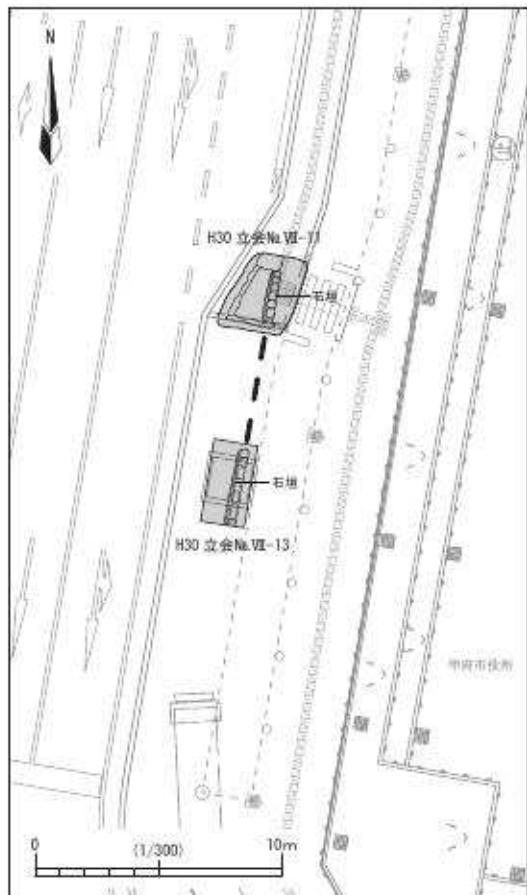
H30 立会No. V -7 土層堆積状況

第 36 図 平成 30 年度立会調査 H30 立会No. V -6・7

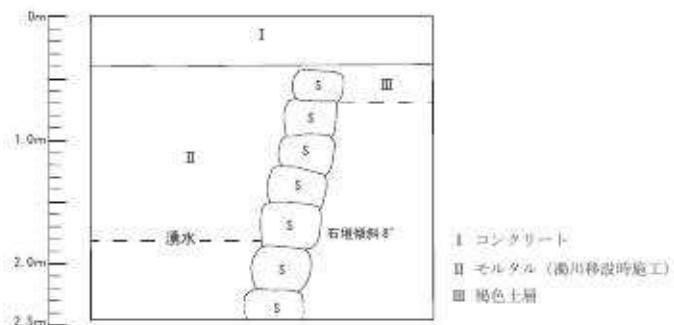


H30 立会No.VII-11

〈詳細図 (S=1/100)〉

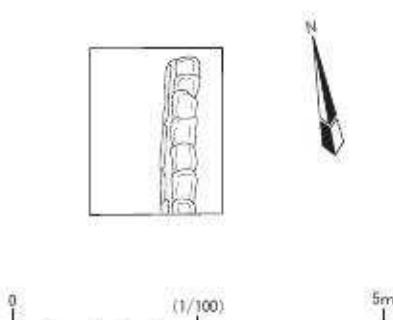


〈土層模式図 (S=1/60)〉



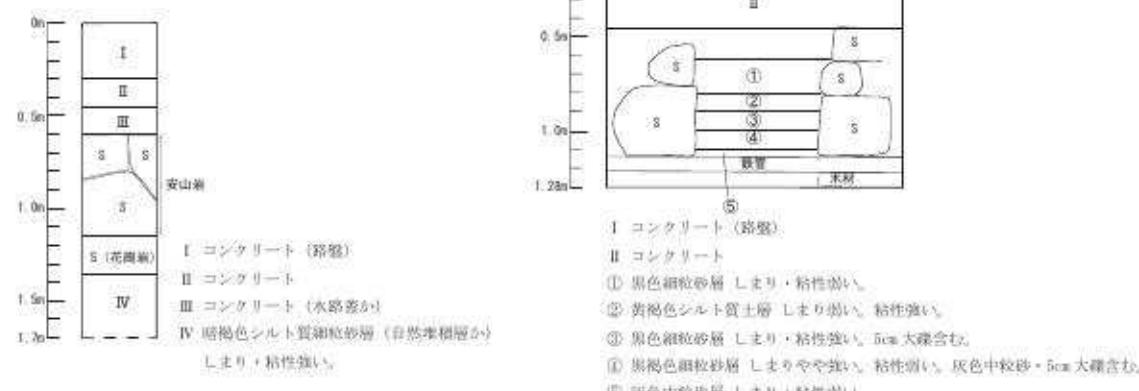
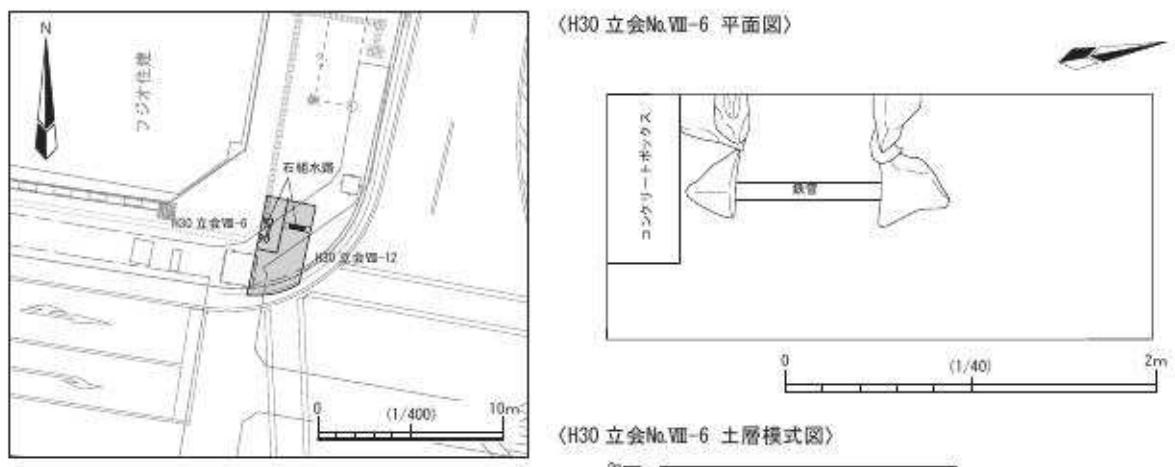
H30 立会No.VII-11 石垣検出状況

H30 立会No.VII-13

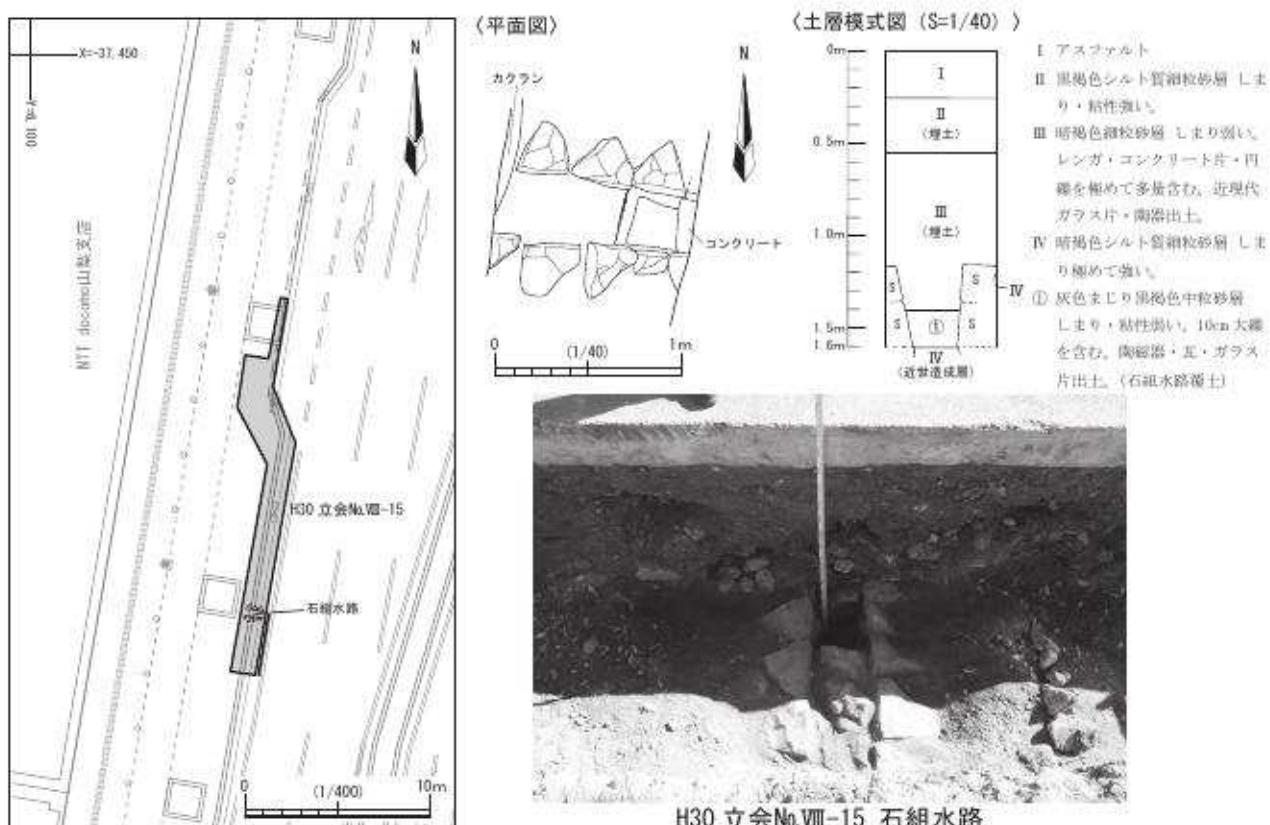


H30 立会No.VII-13 石垣検出状況

第 37 図 平成 30 年度立会調査 H30 立会No.VII-11・13

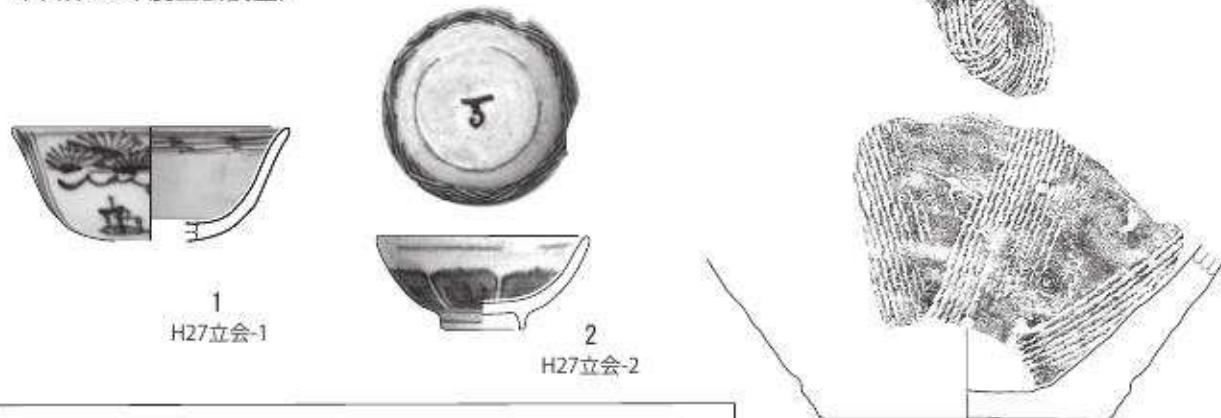


第38図 平成30年度立会調査 H30立会No.VIII-6・12

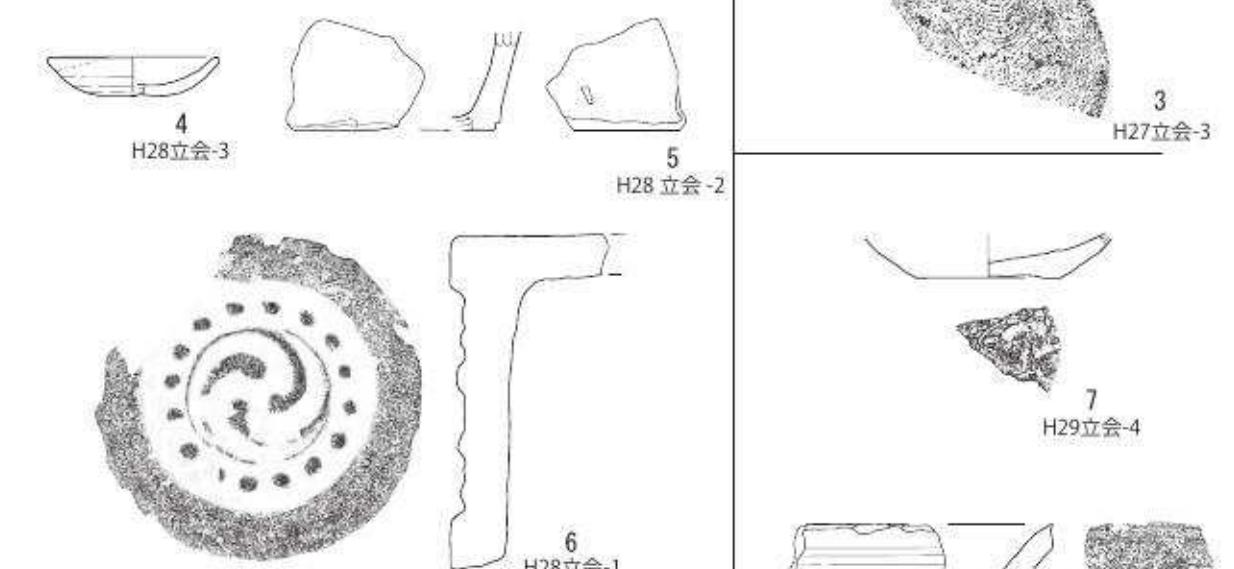


第39図 平成30年度立会調査 H30立会No.VIII-15

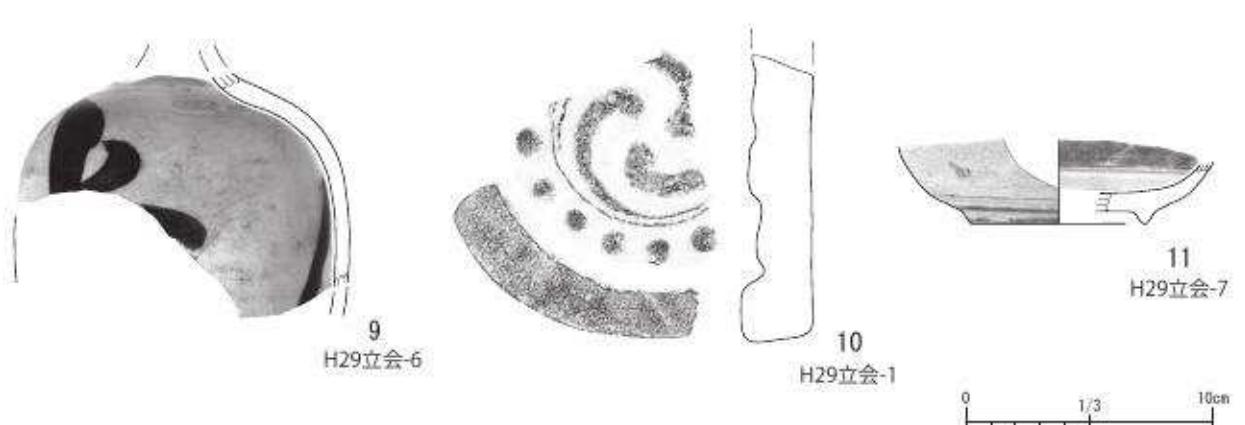
（平成 27 年度立会調査）



（平成 28 年度立会調査）



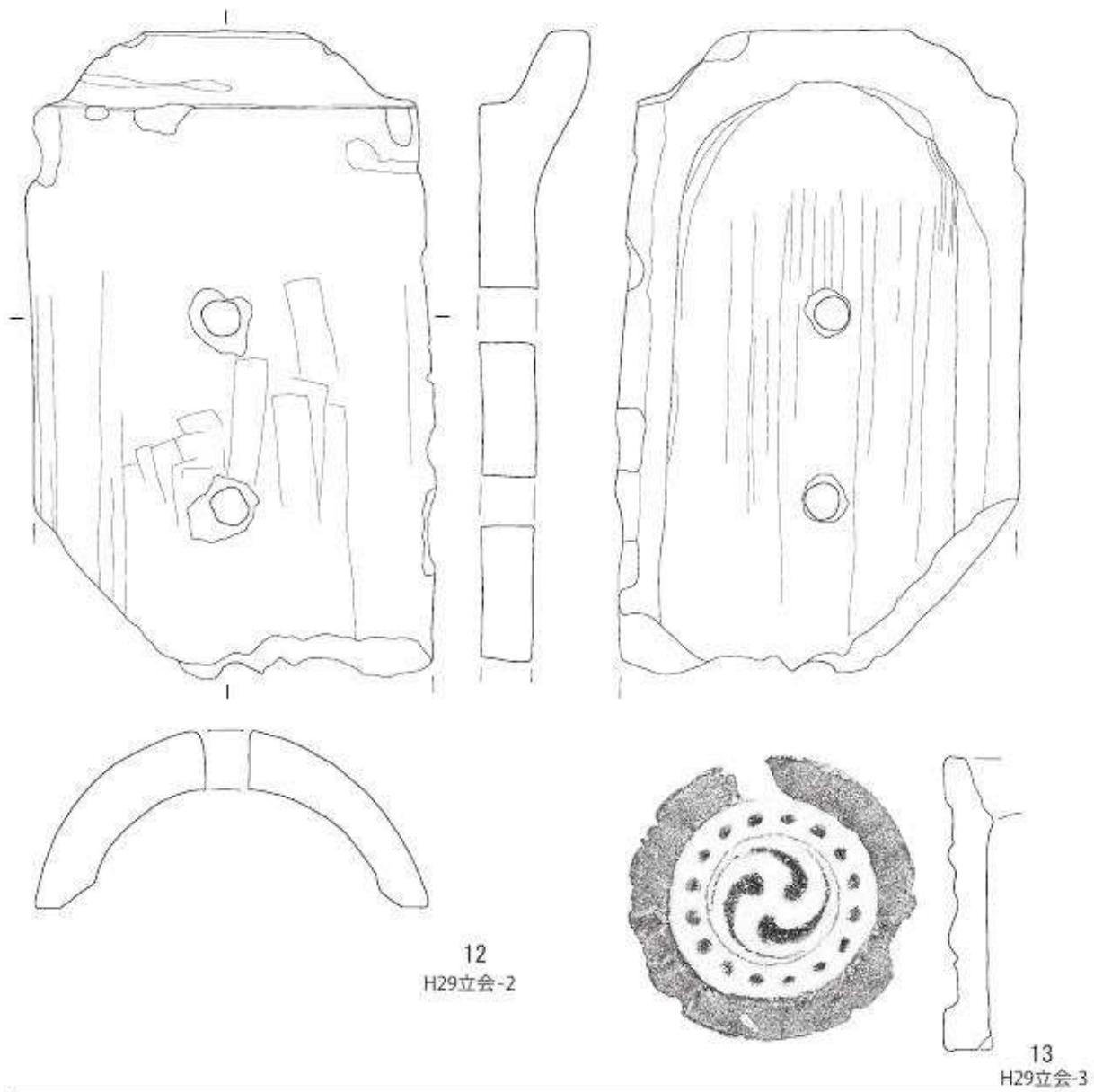
（平成 29 年度立会調査）



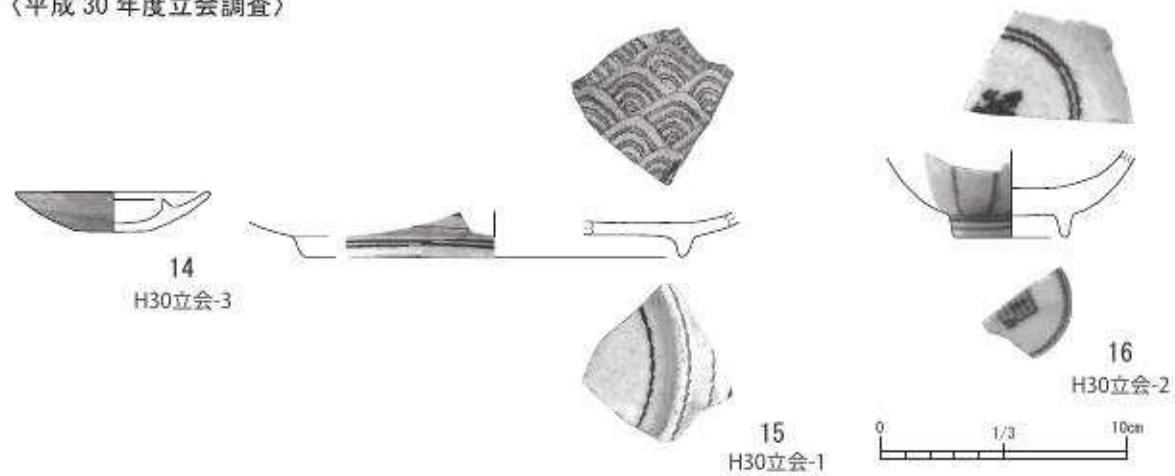
第 40 図 確認調査・立会調査出土遺物（1）



〈平成 29 年度立会調査〉



〈平成 30 年度立会調査〉



第 41 図 確認調査・立会調査出土遺物 (2)

第19表 確認調査・立会調査 陶磁器・土器観察表

遺物番号	図版番号	測定番号	注記	地点	遺構名	種別	器種	形状	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色調	胎土	焼成	備考
1	第40図	H27立会1	H27 南口立会No.2	立会No.2	木箱	磁器	丸筒	丸筒	11.20	—	(4.50)	灰白色	密	良	焼付、透明釉
2	第40図	H27立会2	H27 南口立会No.2+4	立会No.2+4	木箱	磁器	小碟	丸形	8.60	3.30	3.90	灰白色	密	良	焼付、透明釉
3	第40図	H27立会3	H27 南口立会No.5	立会No.5	陶器	すり鉢	—	—	(11.60)	(7.10)	灰褐色～灰白色	黒色粒子	密	良	馬込部、文字
4	第40図	H28立会3	H28 南口立会No.13 ミスト立会	立会No.13	—の縁	磁器	小碟	—	(7.00)	(2.60)	1.60	灰白色	密	良	内面・透明釉
5	第40図	H28立会2	H28 南口立会No.13 ミスト立会	立会No.13	—の縁	土器	急鋸	—	—	—	(4.00)	外：灰褐色 内：明赤褐色	白・赤色粒子、金雲母	良	外面：煤
7	第40図	H29立会4	H29 南口立会No.2 信玄公立会	立会No.2	土器	土瓶器	かわらけ	—	—	5.80	(1.80)	浅黄褐色	黑色粒子、金雲母	やや良	底部：調整不良
8	第40図	H29立会5	H29 南口立会No.5 信玄公立会	立会No.5	陶器	すり鉢	—	—	—	(4.00)	褐色	白色粒子	密	良	白粒子
9	第40図	H29立会6	H29 南口立会No.13.3 工区立会	立会No.13	磁器	橢円	橢円	—	—	(8.70)	灰白色	密	良	透明釉、手書き	
11	第40図	H29立会7	H29 南口立会No.24.3 工区立会	立会No.24	磁器	高台付碗?	—	—	(6.80)	(2.50)	灰白色	密	良	透明釉	
14	第41図	H30立会3	H30 南口立会5 工区中央分離帶	立会No.8	陶器	灯弔皿	—	(7.80)	(3.00)	2.10	灰白色	密	良	外表面：灰釉	
15	第41図	H30立会1	H30 南口立会5 工区平通り東側	立会No.1	磁器	皿	—	—	(15.00)	(1.70)	新幽・灰白色	密	良	透明釉	
16	第41図	H30立会2	H30 南口立会5 工区水道本力ノン	立会No.10	磁器	網	—	—	(4.40)	(3.50)	新幽・灰白色	密	良	二重塗装 底部、漆器? 馬込部、漆器? 外表面：二重塗装	

第20表 確認調査・立会調査 瓦銀観察表

遺物番号	図版番号	測定番号	注記	地点	遺構名	種別	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	色調	胎土	焼成	備考
6	第40図	H28立会1	H28 南口立会No.13 ミスト立会	立会No.13	—の縁	瓦	軒丸瓦	13.6	13.7	6.40	灰色	白色粒子	良	—
10	第40図	H29立会1	H29 南口立会No.20.3 工区立会	立会No.20	—	瓦	軒丸瓦	(11.80)	(11.20)	左巴	16	白色	良	—
12	第41図	H29立会2	H29 南口立会No.43.3 工区立会	立会No.43	—	瓦	丸瓦	(29.00)	18.00	5.00	灰色	白色粒子、金雲母	良	内外面：数分付着、ハラ調整
13	第41図	H29立会3	H29 南口立会62.4 工区立会	立会No.62	—	瓦	野丸瓦	13.30	13.20	2.20	灰色	白色粒子、金雲母	良	—



# 第4章 甲府城下町遺跡の放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

16世紀末の甲府城の築城に伴って形成された甲府城下町遺跡は、甲府城を中心として、二の堀で囲まれた武家地と、三の堀で囲まれた町人地から構成される。地形分類図(吉村・平川,1984)などを参考とすると、本遺跡は甲府盆地北部の山地から流下する相川によって形成された扇状地の扇端付近に立地する。

本報告では、甲府城下町遺跡の甲府駅南口駅前広場総合案内所建設地点で確認された堆積層や出土遺物の年代に関する資料の作成を目的として、発掘調査時に採取された炭化物を対象に放射性炭素年代測定を実施した。

## 第1節 試料

放射性炭素年代測定に供された試料は、B区北壁より採取された炭化物7点(北壁C-1～C-7)と、C区南壁より採取された炭化物3点(南壁C-1～C-3)の計10点である。

測定には、試料の肉眼および実体顕微鏡観察により確認された、炭化した微細な組織片からなる炭質物2点(北壁C-2、南壁C-1)と、微細片～細片からなる炭化材5点(北壁C-3～C-7)を供している。また、炭質物や炭化材が確認できなかった3点(北壁C-1、南壁C-2、南壁C-3)については、担当者と協議を行い、南壁C-3は採取試料(黒色泥からなる腐植質土壌)を供することとした。北壁C-1と南壁C-2の2点は測定対象からは除外し、代替としてB区より出土した瓦片2点(Ka747、Ka878)に付着する土壌に確認された炭化材を供している。

なお、上記した炭化材試料については、試料の履歴に関わる情報を得るために、樹種の確認を行った。樹種の確認は、放射性炭素年代測定に影響がないよう肉眼および実体顕微鏡による観察を基本とし、試料の分割が可能と判断されたものは走査型電子顕微鏡による観察を行った。これらの結果は放射性炭素年代測定結果とともに第21表に記したので参照されたい。

## 第2節 分析方法

測定試料について、メスやピンセットなどを用いて土砂や根などの付着物を除去する。その後、炭質物や炭化材は、酸-アルカリ-酸(AAA)処理により不純物を化学的に処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。なお、AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では、水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。この際、アルカリ濃度が1Mに達した場合は「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表示する。また、腐植質土壌は、酸処理により不純物を化学的に処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる(HCl)。

これらの処理の後、試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させ、精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイトを生成させる。さらに生成したグラファイトは、内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行うため、この値を用いて<sup>13</sup>Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。暦年較正は、OxCal4.2.4を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、及び半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正は、OxCal4.2.4のマニュアルに従い、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。暦年較正結果は $1\sigma \cdot 2\sigma$ (1

$\sigma$ は統計的に真の値が68.2%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲)の値を示す。なお、現在使用されている較正曲線(Intcal13: Reimer et al.2013)は、基本的に10年単位(新しい時代では5年単位)で作成されている点や、測定年代、較正曲線の精度から、与えられた年代は5年もしくは10年単位で考えることが必要である(Stuiver and Polach,1977)。ただし、本報告では、将来的な較正曲線ならびにソフトウェアの更新に伴う再計算に対応できるよう、表中には1年単位の値を記している。

### 第3節 結果

各試料の同位体効果による補正を行った測定結果(補正年代)は、北壁C-2(炭質物)が $3,320 \pm 30$ BP、北壁C-3(炭化材)が $260 \pm 20$ BP、北壁C-4(炭化材)が $290 \pm 20$ BP、北壁C-5(炭化材)が $410 \pm 20$ BP、北壁C-6(炭化材)が $70 \pm 20$ BP、北壁C-7(炭化材)が $110 \pm 20$ BP、南壁C-1(炭質物)が $880 \pm 20$ BP、南壁C-3(腐植質土壌)が $1,930 \pm 20$ BP、Ka747(炭化材)が $380 \pm 20$ BP、Ka878(炭化材)が $340 \pm 20$ BPである(第21表)。

また、暦年較正結果( $2\sigma$ 暦年代範囲)は、北壁C-2(炭質物)がcalBC 1,686 - calBC 1,521、北壁C-3(炭化材)がcalAD 1,528 - calAD 1,799、北壁C-4(炭化材)がcalAD 1,520 - calAD 1,655、北壁C-5(炭化材)がcalAD 1,437 - calAD 1,616、北壁C-6(炭化材)がcalAD 1,695 - calAD 1,919、北壁C-7(炭化材)がcalAD 1,682 - calAD 1,934、南壁C-1(炭質物)がcalAD 1,047 - calAD 1,219、南壁C-3(腐植質土壌)がcalAD 24 - calAD 127、Ka747(炭化材)がcalAD 1,447 - calAD 1,630、Ka878(炭化材)がcalAD 1,478 - calAD 1,639である(第21表、第42・43図)。

第21表 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料名	処理方法	補正年代(BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代(暦年較正用)(BP)	暦年較正結果		測定番号
					$1\sigma$ 暦年代範囲	$2\sigma$ 暦年代範囲	
北壁C-2炭質物	AaA	$3,320 \pm 30$	-26.87±0.47	$3,322 \pm 31$	1640BC(31.5%) 1600BC 1586BC(36.7%) 1534BC	1686BC(95.4%) 1521BC	IAAA-162205
北壁C-3炭化材(広葉樹)	AaA	$260 \pm 20$	-22.84±0.41	$255 \pm 21$	1641AD(68.2%) 1664AD 1632AD(26.7%) 1649AD	1528AD(5.2%) 1545AD 1633AD(76.5%) 1669AD 1781AD(13.6%) 1799AD	IAAA-162206
北壁C-4炭化材(マツ属複雑管束茎属)	AaA	$290 \pm 20$	-23.99±0.35	$288 \pm 21$	1526AD(41.5%) 1557AD 1632AD(26.7%) 1649AD	1520AD(60.8%) 1593AD 1619AD(34.6%) 1655AD	IAAA-162207
北壁C-5炭化材(針葉樹)	AaA	$410 \pm 20$	-23.43±0.38	$408 \pm 22$	1444AD(68.2%) 1475AD	1437AD(88.4%) 1499AD 1508AD(0.5%) 1511AD 1601AD(6.6%) 1616AD	IAAA-162208
北壁C-6炭化材(コナラ節)	AaA	$70 \pm 20$	-25.78±0.39	$72 \pm 21$	1706AD(13.4%) 1720AD 1819AD(11.8%) 1833AD 1881AD(43.1%) 1915AD	1695AD(23.5%) 1728AD 1812AD(21.2%) 1854AD 1867AD(50.7%) 1919AD	IAAA-162209
北壁C-7炭化材(クリ)	AAA	$110 \pm 20$	-25.01±0.45	$114 \pm 21$	1692AD(10.5%) 1709AD 1718AD(6.3%) 1728AD 1812AD(45.7%) 1889AD 1910AD(5.7%) 1920AD	1682AD(27.8%) 1736AD 1805AD(67.6%) 1934AD	IAAA-162210
南壁C-1炭質物	AaA	$880 \pm 20$	-24.37±0.25	$880 \pm 22$	1154AD(68.2%) 1210AD	1047AD(20.6%) 1089AD 1121AD(4.8%) 1139AD 1148AD(69.9%) 1219AD	IAAA-162211
南壁C-3腐植質土壌	HCl	$1,930 \pm 20$	-19.24±0.44	$1930 \pm 23$	52AD(54.3%) 87AD 106AD(13.9%) 120AD	24AD(95.4%) 127AD	IAAA-162212
Ka747炭化材(針葉樹)	AAA	$380 \pm 20$	-23.26±0.43	$376 \pm 23$	1454AD(47.2%) 1499AD 1505AD(5.5%) 1512AD 1601AD(15.5%) 1616AD	1447AD(65.3%) 1523AD 1572AD(30.1%) 1630AD	IAAA-162384
Ka878炭化材(針葉樹)	AaA	$340 \pm 20$	-25.87±0.61	$336 \pm 23$	1495AD(21.4%) 1526AD 1557AD(34.0%) 1602AD 1615AD(12.8%) 1632AD	1478AD(95.4%) 1639AD	IAAA-162385

### 第4項 考察

今回の測定に供した試料の出土層位(採取地点)などの調査所見によれば、B区北壁試料は、2層からC-7、7層からC-2、8層からC-3、9層からC-5、C-6がそれぞれ採取されている(第11図)。また、C区南壁試料は、整地層(砂層)直下の層準からC-1、整地層(砂層)より下位約70cmに確認された泥炭と推定される層準からC-3が採取されている(第11図)。

各試料の暦年較正結果( $2\sigma$ 暦年代範囲)のうち、最も古い暦年代範囲を示した北壁C-2の炭質物は、小林(2008)を参考とすると、縄文時代後期中葉頃に相当する。また、南壁C-3の腐植質土壌は弥生時代後期頃、南壁C-1の炭質物は11世紀～13世紀頃に相当する。これらは後述する炭化材試料よりも明らかに古い暦年

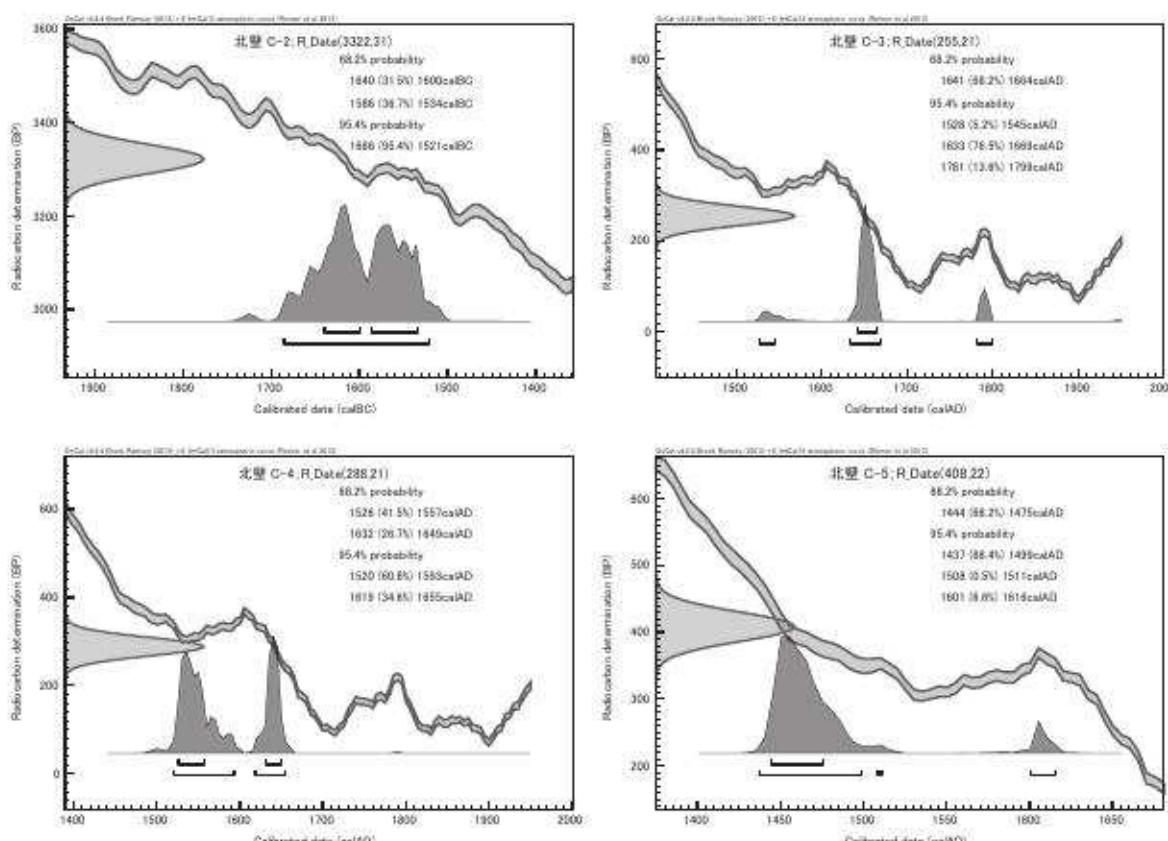
代範囲を示したことから、炭化材試料とは履歴が異なる可能性がある。また、腐植質土壌（南壁 C-3）については腐植の形成された年代を示していると推定される。

次に、B 区の炭化材試料の出土層位と暦年代範囲（第44図）についてみると、2層（北壁 C-7）は17世紀末以降～近代と推定される。下位の9層は暦年代範囲が明らかに異なる炭化材試料（北壁 C-5, C-6）からなるが、北壁 C-6 が混入試料でない場合、当層準の形成は17世紀後半以降～近代と推定される。また、9層より下位の8層（北壁 C-3）は16世紀前半から18世紀末、10層（北壁 C-4）は16世紀前半から17世紀中頃までの暦年代範囲が推定され、上記した北壁 C-6 との新旧関係とも整合する。ただし、いずれの炭化材試料も年輪部位が不明の破片であったことから、古木効果の影響が想定され、出土遺物から推定される年代との比較による評価が必要である。

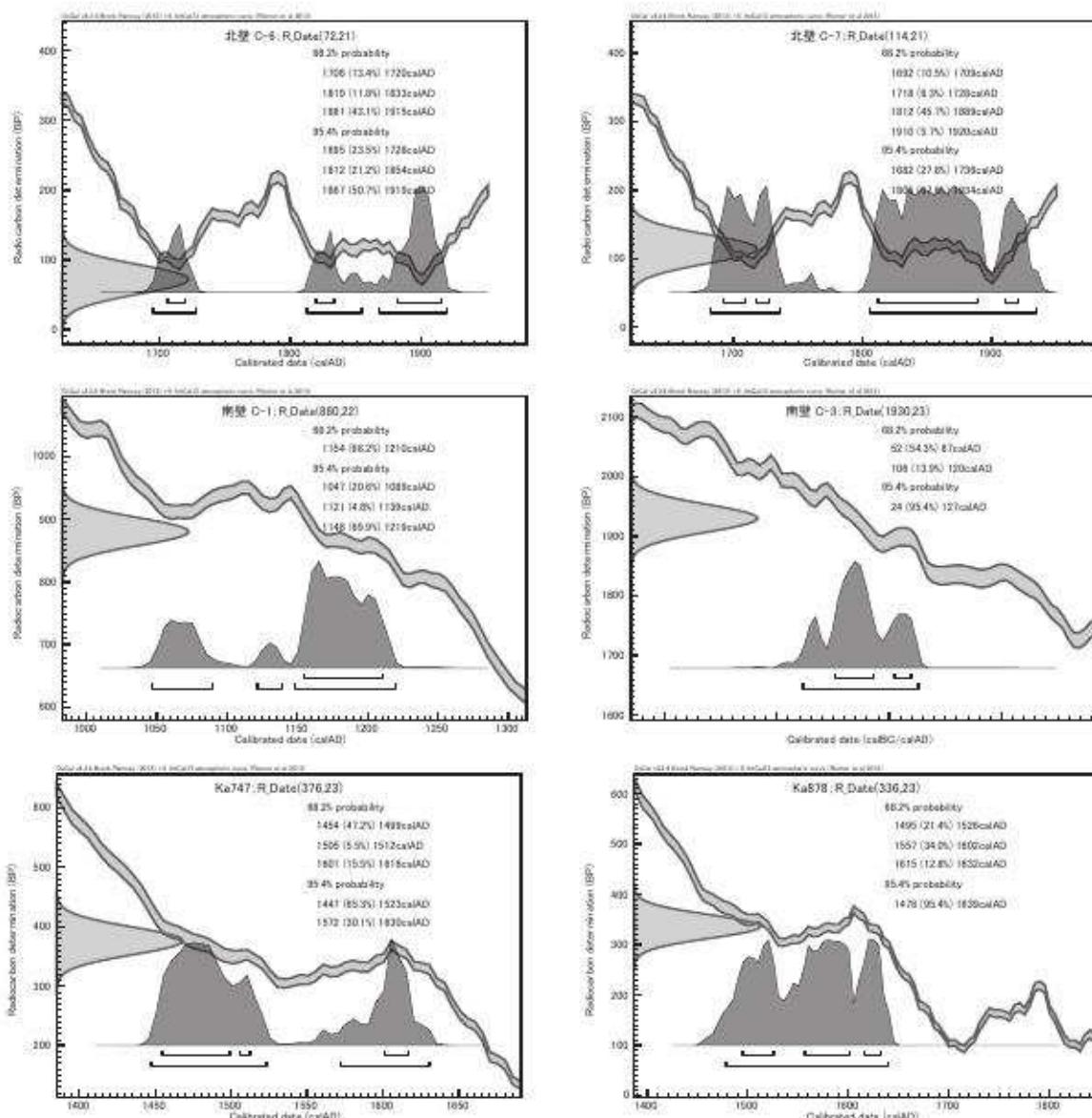
また、炭化材試料の樹種に着目すると、マツ属複維管束亞属（北壁 C-4）を含む針葉樹（北壁 C-5, Ka747, Ka848）は、コナラ節（北壁 C-6）やクリ（北壁 C-7）を含む広葉樹（北壁 C-3）よりも全体的に古く、概ね近似する暦年代範囲を示している。このような特徴は、炭化材の由来となった木材の履歴、例えば当時の木材利用事情を反映している可能性があり、今後、これらの調査事例も含めた評価も期待される。

#### <引用文献>

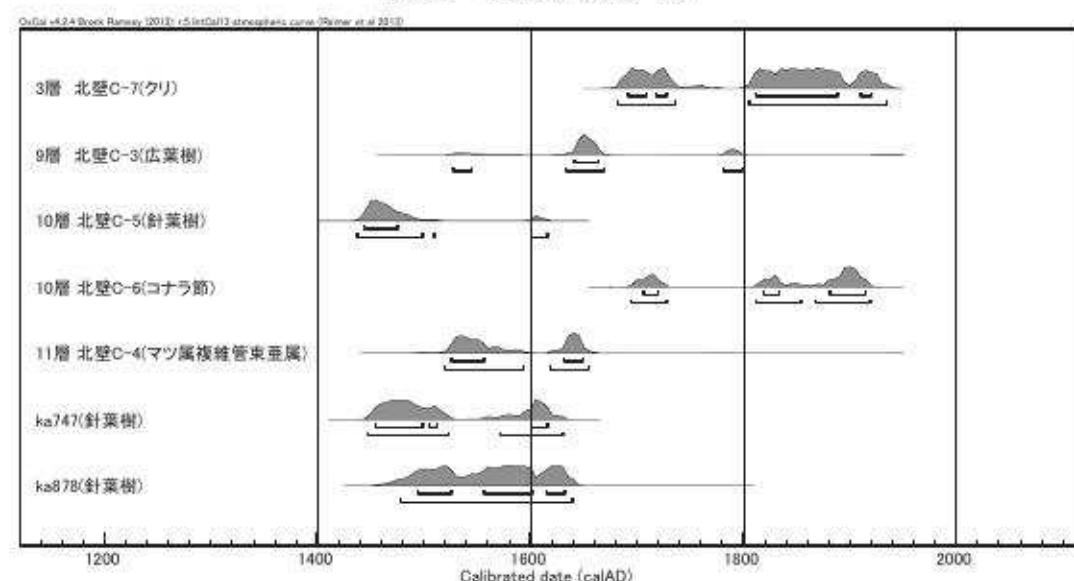
- Bronk Ramsey, C., & Lee, S. 2013. Recent and Planned Developments of the Program OxCal. Radiocarbon, 55, 720-730.  
 小林謙一. 2008. 縄文土器の年代(東日本). 小林達雄編 小林達雄先生古稀記念企画 総覧縄文土器、「総覧縄文土器」刊行委員会、株式会社アム・プロモーション, 896-903  
 Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Haflidason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J. 2013. IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869–1887.  
 Stuiver Minze and Polach A Henry, 1977. Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of  $^{14}\text{C}$  Data. Radiocarbon, 19, 355-363.  
 吉村 稔・平川一臣, I 地形分類図、土地分類基本調査 甲府 5万分の1 国土調査, 山梨県, 15-24.



第42図 暦年較正結果（1）



第43図 曆年較正結果（2）



第44図 B区炭化材試料の曆年較正結果

## 第5章 総括

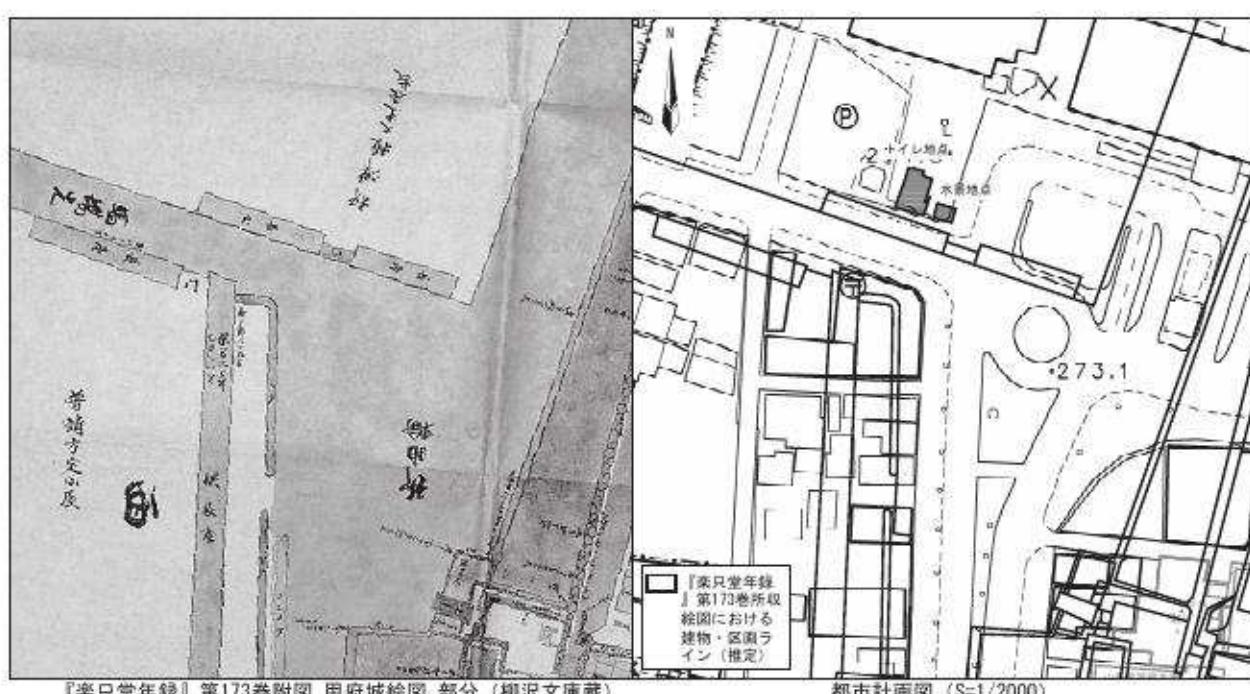
### 第1節 公衆用トイレ建設地点および水景施設地下機械室設置地点における遺構配置について

公衆用トイレ建設地点（以下「トイレ地点」という。）および水景施設地下機械室設置地点（以下「水景地点」という。）は、近世においては、甲府城の北西部、二の堀に囲まれた武家屋敷地にあたる「内郭」に該当する。この場所は、甲府城の北西部の柳御門に近接した場所であり、宝永元年（1704年）に甲府城主となる柳沢吉保の公用日記である『楽只堂年録』第173巻所収の絵図史料では、柳沢家家老の柳沢権太夫の屋敷地に比定されるなど、甲府城上の要人が拝領していたという履歴をもつ。

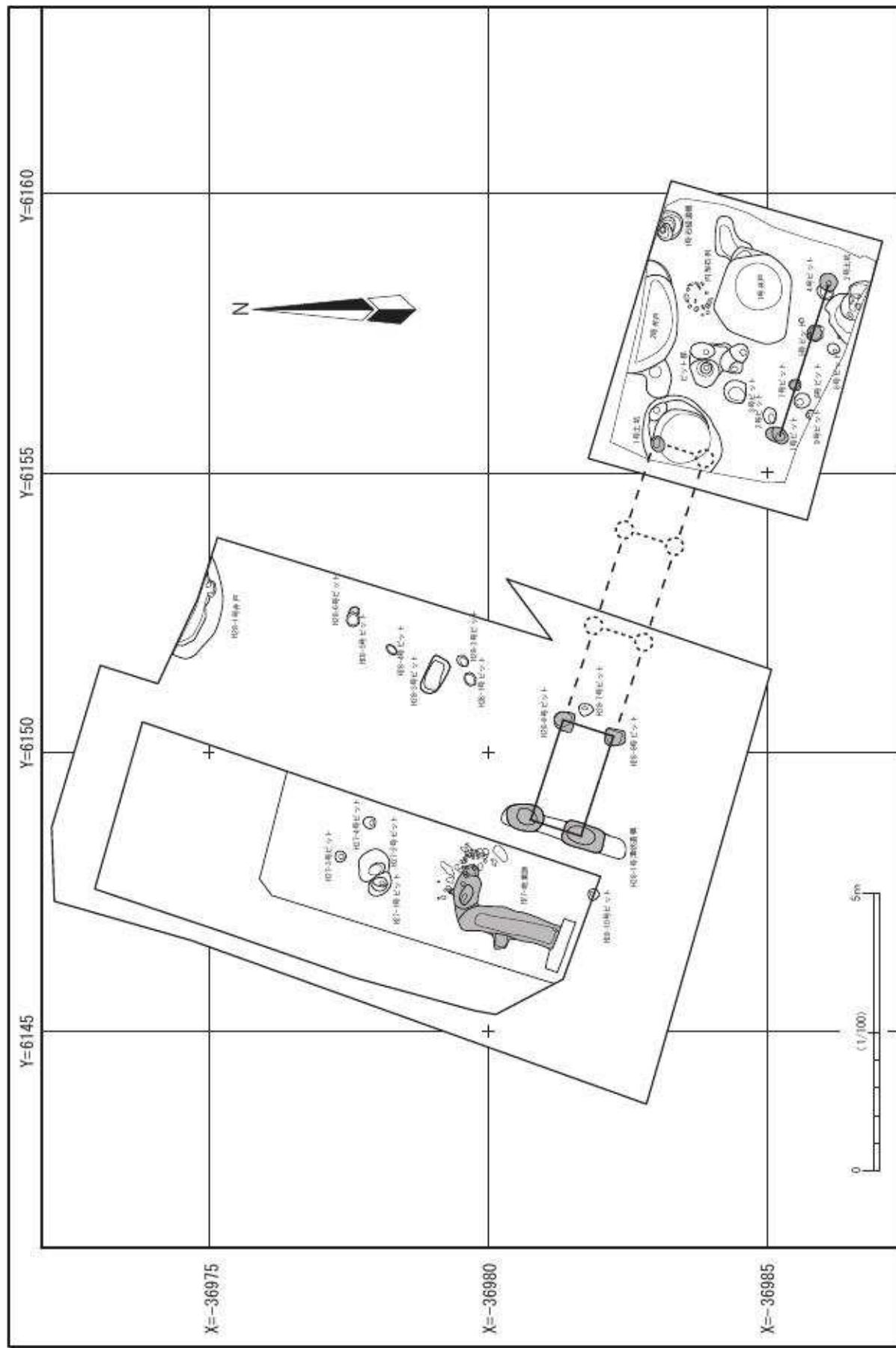
第3章第2・4節で前述したとおり、トイレ地点および水景地点からはピット・井戸など、近世の遺構が数多く検出されている。トイレ地点においては、14基のピットが検出されたが、ピット単体での遺構配置に規則性が認められないことは第3章第2節で述べた。ここであらためてH28-1号溝状遺構に注目すると、溝北部と中央部にピット状の掘り込みがみられ、ピットの芯々距離は約1mであり、配列の方位角は約18°となる（第9図）。

トイレ地点および水景地点の遺構配置図（第46図）を確認すると、トイレ地点H28-1号溝状遺構の東側にはトイレ地点H28-8号ピットおよびH28-9号ピットがあり、トイレ地点H28-8号ピット-H28-9号ピット間の芯々距離は約1m、配列の方位角も約18.5°とトイレ地点H28-1号溝状遺構と同様となる。また、トイレ地点H28-1号溝状遺構北部ピット-H28-9号ピット間、トイレ地点H28-1号溝状遺構中央部ピット-H28-8号ピット間の芯々距離は約1.85mとなり、さらにトイレ地点H28-1号溝状遺構北部ピット-H28-9号ピットラインの延長線上の東へ約5.3m（約三間）の位置に水景地点1号土坑内ピットがあり、中間の状況は調査区外となり、詳細は不明であるが、南北一間、東西四間の建物跡の存在が推測される。また、この建物跡の西側約1.85mの位置にはトイレ地点H27- 地業跡があり、その長軸の方位角も約17.5°と同様の値を示すことから、両者の関連性が想定される。

前述した『楽只堂年録』第173巻所収の絵図史料においては、トイレ地点および水景地点付近には、長屋門が描かれており、本節にて推定した建物跡はこの長屋門の一部か長屋北側に隣接する建物の可能性が考えられるものの、現状では遺構の詳細時期は不明であるなど、特定にはさらなる検討が必要といえる。



第45図 絵図からみる調査区の位置比定



第46図 公衆用トイレ建設地点・水景施設地下機械室設置地点 遺構配造図



## 第2節 立会調査成果を元にした甲府城一の堀範囲の復元

平成28・29年度立会調査範囲である甲府駅南口駅前広場および主要地方道甲府韮崎線（以下「平和通り」という。）付近は、甲府城一の堀の存在が推定されている。過去の周辺の埋蔵文化財調査においては、平成9年度の甲府市教育委員会による試掘調査（甲府市教育委員会2007）や平成15年度の山梨県庁北別館西側の試掘調査および山梨県庁西口における立会調査（山梨県教育委員会2006）、防災新館建設に伴う平成22・23年度の発掘調査（甲府城楽屋曲輪地点）（山梨県教育委員会2012）、山梨県庁舎西口付近における平成27年度の発掘調査（甲府城跡県庁構内西口周辺地点）（山梨県教育委員会2017）などにおいて甲府城内城側の一の堀の立ち上がりにあたる石垣が確認されている。

今回、南口周辺地域修景計画にもとづく再整備事業に伴い実施した立会調査においても甲府城一の堀に関係すると思われる遺構が複数確認されている（H28立会No10・13、H29立会No52・51・90）。

第47図は上記の成果および過去の調査成果より甲府城一の堀の範囲を推定したものである。

H28立会No18は堀内部での掘削工事であり、明確な立ち上がりは確認されていないが、調査範囲東側において確認した石垣石材の割り石は、明治36年の甲府駅開業にあわせたH28立会No18付近の一の堀の埋め立て時に、甲府城内城側の堀の立ち上がりにあたる石垣を撤去した際の痕跡と考えられ、調査範囲東側付近においてその石垣の存在が想定される。

平和通り中央分離帯付近で実施したH28立会No10、H29立会No52・51・90において確認した堀の立ち上がりは、いずれも甲府城の内郭側に面する一の堀立ち上がりラインとなる。このラインの南側延長線上において実施したH29立会No39においては、第3章第5節で前述したとおり、東側に面をもつ石列と石列から東に向かって傾斜する掘り込みとみられる痕跡が写真記録において確認される。詳細記録が残されていないため、その詳細は不明であるが、H28立会No10、H29立会No52・51・90による一の堀立ち上がりラインの延長線上にあることや、石列や掘り込みの方向が東側（堀側）を向いていること等を考慮すると、H29立会No39の掘り込み痕跡は一の堀立ち上がりにあたり、石列はその立ち上がり上部に設置されたものの可能性が考えられる。

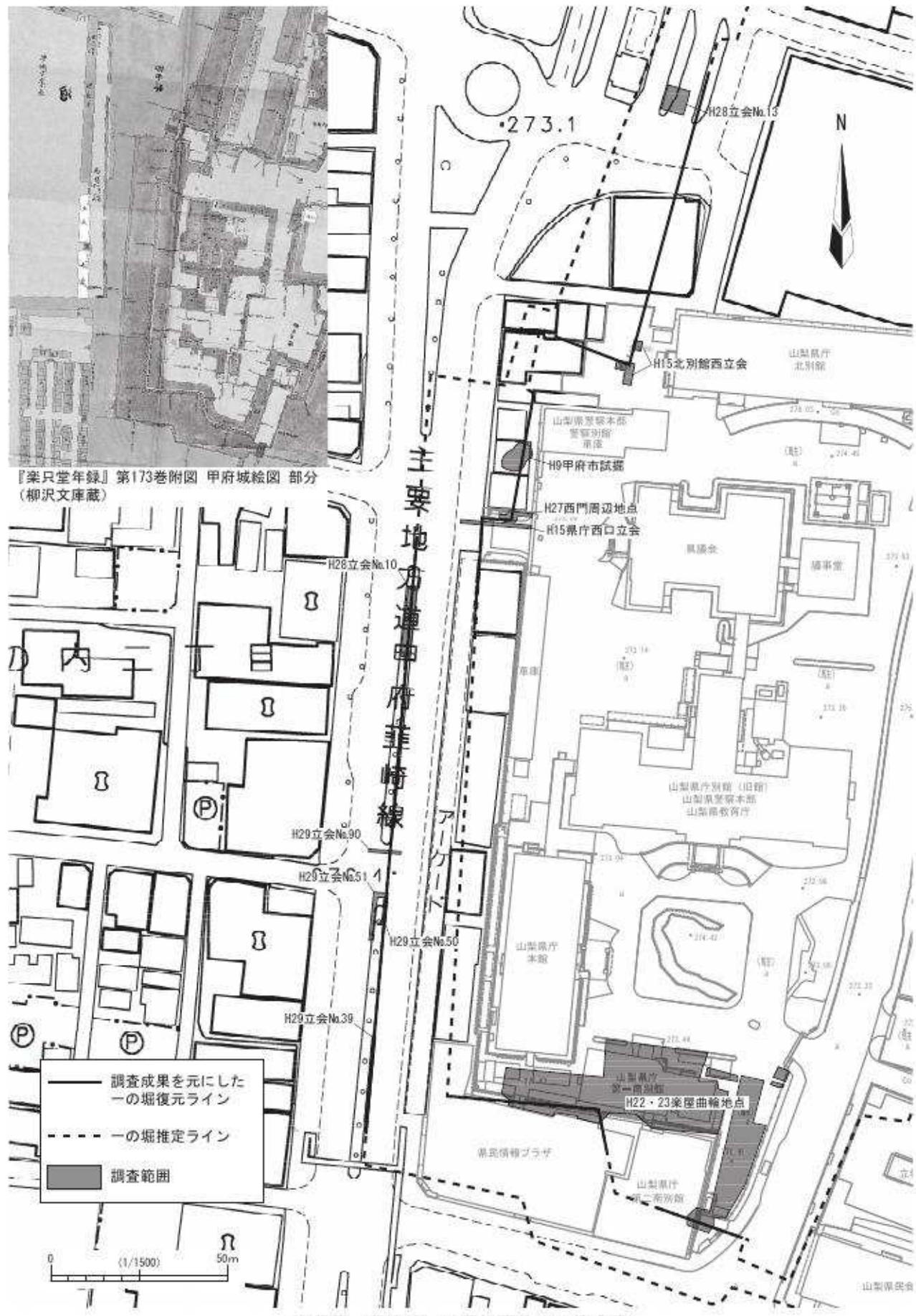
これまで甲府城西側における内城に面した一の堀の立ち上がりは複数確認されていたが、内郭側の立ち上がりは確認されておらず、今回の調査によってはじめて確認されることになるが、立会調査は限られた工事掘削範囲内における調査であり、今後も注視して調査・検討をおこなっていく必要がある。

### 〈参考文献〉

- ・甲府市教育委員会 2007『甲府市内遺跡IV－平成9～10年度試掘調査報告書－』甲府市文化財調査報告35
- ・山梨県教育委員会 2006『甲府城跡周辺確認調査報告書－県庁構内及び甲府城下町遺跡関係立会・発掘調査等報告－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第232集
- ・山梨県教育委員会 2012『甲府城跡－楽屋曲輪地点－県庁舎耐震化等整備事業（防災新館建設）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第284集
- ・山梨県教育委員会 2017『甲府城跡－県庁舎耐震化等整備事業に伴う確認調査、発掘調査および立会調査－』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第313集



H29立会No.39で確認された石列（北東より）



写真図版 1  
平和通り中央分離帯地点



調査区遠景



表土剥ぎ状況



調査風景



調査区全景 北から



1号ピット完掘状況



2号ピット完掘状況



3号ピット完掘状況



4号ピット完掘状況

写真図版2  
公衆用トイレ建設地点



平成 27 年度 表土剥ぎ状況



平成 27 年度 土留め設置状況



平成 27 年度 調査区全景 南から



平成 27 年度 調査区全景 北西から



平成 27 年度 南壁土層堆積状況



平成 28 年度 北壁土層堆積状況

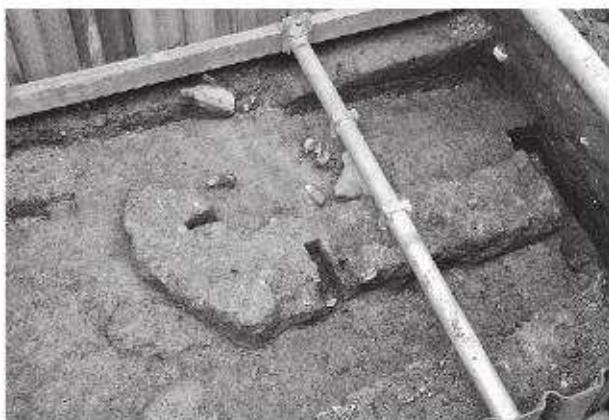


H27- 地業跡 粘土・礫集中検出状況



H27- 地業跡 矶集中検出状況

写真図版 3  
公衆用トイレ建設地点



H27- 地業跡 粘土検出状況



H27- 地業跡 完掘状況



H27- 地業跡 土層堆積状況



H28-1 号井戸 完掘状況



H28-1 号井戸 古銭 (No.2) 出土状況



H28-1 号井戸 木杭検出状況



H28-1 号溝状遺構 検出状況



H27-1 ~ 4 号ビット 完掘状況

写真図版 4  
公衆用トイレ建設地点



H27-1・2号坑 完掘状況



H27-3号坑 完掘状況



H27-4号坑 完掘状況



H27-4号坑 土層堆積状況



H28-1～6号坑 完掘状況



H28-8・9号坑 完掘状況



平成 27 年度 遺構外遺物 (No.3) 出土状況



平成 27 年度 遺構外遺物 (No.4) 出土状況

写真図版 5  
総合案内所建設地点



調査区遠景 北東から



表土剥ぎ状況



A区北壁西侧 土層堆積状況



A区北壁東側 土層堆積状況



A区全景 南西から



A区 遺物出土状況 南西から



A区 落ち込み 遺物出土状況



B区全景 南西から

写真図版 6  
総合案内所建設地点



瓦・礫集中 検出状況（第一面）



瓦・礫集中 検出状況（第二面）



B 区北壁 土層堆積状況



B 区 北東部落ち込み 遺物出土状況



B 区 北側 遺物出土状況



B 区 砥石（No.33）出土状況



C 区全景 西から

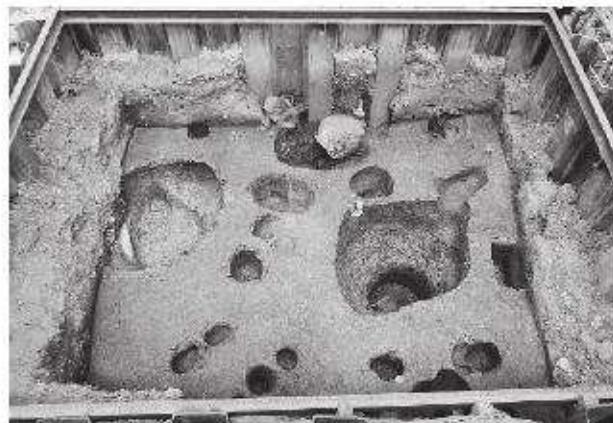


C 区南壁 土層堆積状況

写真図版 7  
水景施設地下機械室設置地点



調査区遠景 北西から



調査区全景 南から



調査区全景 西から



1号井戸 完掘状況



2号井戸 磑検出状況（第一面）



2号井戸 磑検出状況（第二面）



2号井戸 木杭検出状況



2号井戸 杭A検出状況

写真図版 8  
水景施設地下機械室設置地点



2号井戸 杭B検出状況



1号石組遺構 碟検出状況



1号石組遺構 完掘状況



1号土坑 完掘状況



1号土坑 土層堆積状況



2号土坑・4号ピット 完掘状況



円形石列 検出状況



円形石列 断ち割り状況

写真図版9  
水景施設地下機械室設置地点



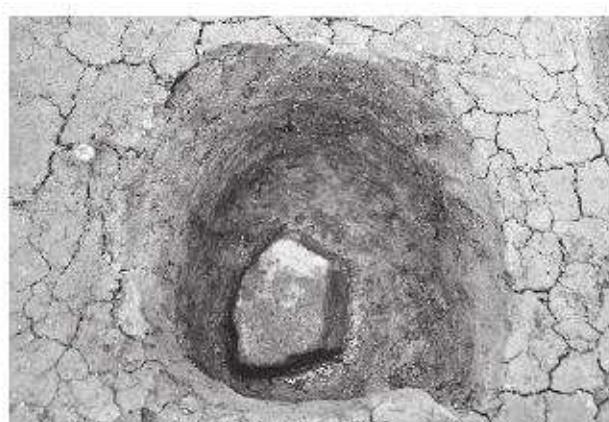
ピット群 完掘状況



1・2号ピット 完掘状況



3号ピット 碓検出状況（上層）



3号ピット 碓検出状況（下層）



4号ピット 完掘状況



5号ピット 完掘状況



5号ピット 土層堆積状況



6号ピット 完掘状況

写真図版 10  
確認調査・立会調査



H27 立会No.2 井戸 プラン検出状況



H27 立会No.2 木箱 検出状況



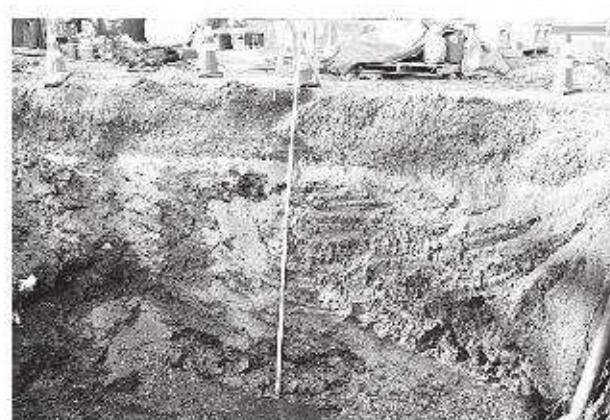
H28 立会No.18 1号トレンチ ピット検出状況



H28 立会No.4 2号トレンチ 木杭検出状況



H28 立会No.10 土層堆積状況（一の堀立ち上がり）



H28 立会No.13 東面土層堆積状況（一の堀内）



H29 立会No.39 石列検出状況 北東から



H29 立会No.54 付近出土石材

写真図版 11  
確認調査・立会調査



H29 立会No.54 付近出土石材の矢穴痕跡



H29 立会No.54 石材埋設状況



H30 立会No.VIII-6 石組水路検出状況



H30 立会No.VIII-12 全景 南から



H30 立会No.VIII-12 石組水路検出状況



H30 立会No.VIII-15 石組水路検出状況



H30 立会No.VIII-15 石組水路 北側側壁



H30 立会No.VIII-15 石組水路 南側側壁

写真図版 12

出土遺物（公衆用トイレ建設地点・総合案内所建設地点）



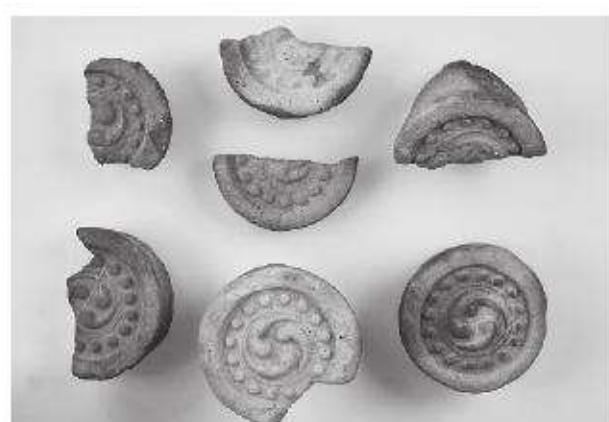
公衆用トイレ建設地点 出土遺物



総合案内所建設地点 A 区出土遺物（1）



総合案内所建設地点 A 区出土遺物（2）



総合案内所建設地点 B 区出土遺物（1）



総合案内所建設地点 B 区出土遺物（2）



総合案内所建設地点 B 区出土遺物（3）

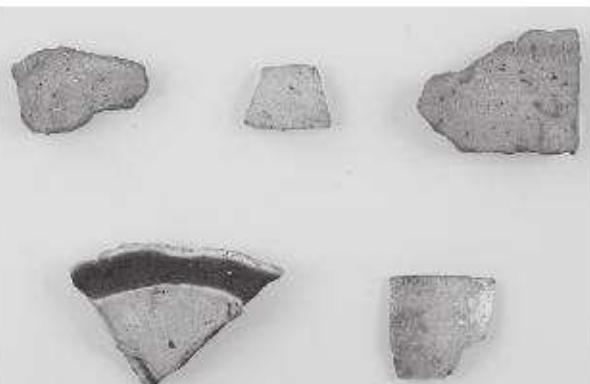


総合案内所建設地点 B 区出土遺物（4）



総合案内所建設地点 B 区出土遺物（5）

写真図版 13  
出土遺物（水景施設地下機械室設置地点・確認調査・立会調査）



水景施設地下機械室設置地点 出土遺物（1号井戸）



水景施設地下機械室設置地点 出土遺物  
(2号井戸・1号土坑)



水景施設地下機械室設置地点 出土遺物（遺構外）



平成 27 年度確認調査・立会調査 出土遺物



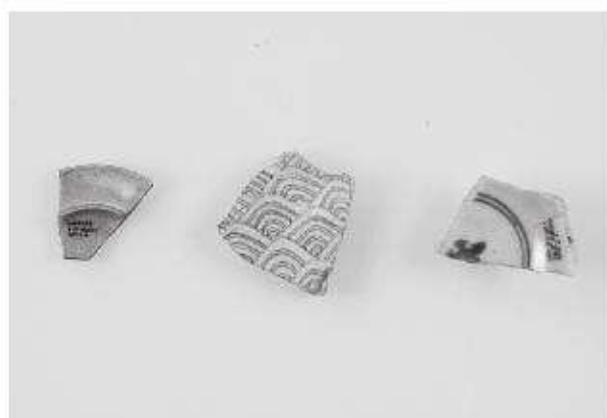
平成 28 年度確認調査・立会調査 出土遺物



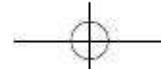
平成 29 年度確認調査・立会調査 出土遺物（1）



平成 29 年度確認調査・立会調査 出土遺物（2）



平成 30 年度確認調査・立会調査 出土遺物



## 報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき							
書名	甲府城下町遺跡							
副書名	平成26～30年度甲府駅南口周辺地域修景計画事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第322集							
著者名	正木季洋 パリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 055-266-3016							
発行機関	山梨県教育委員会 山梨県県土整備部							
発行日	2019年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	市町村 コード	遺跡 番号	北緯 (新)	東經 (新)	調査期間	調査 面積	調査原因
甲府城下町遺跡	山梨県甲府市丸の内一丁目2-14	19201	253	35° 39' 51"	138° 34' 05"	20140820～20141205 20150408～20160331 20160401～20170331 20170401～20180331 20180401～20190118	226.5m <sup>2</sup>	その他開発 (甲府駅南口周辺地域修景計画)
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	城下町	近世・近現代	地業跡・井戸・土坑・ピット・水路・堀		土器・陶磁器・瓦・鐵貨		・近世の建物跡 ・近世～近代の水路 ・甲府城一の堀	
要約	<p>本調査区域は、江戸時代において、甲府城二の堀に囲まれた武家屋敷などが設置されたエリアであり、調査においてもそれらに関連する遺構や遺物が多数確認されている。</p> <p>特に、公衆用トイレ建設地点および水景施設地下機械室設置地点は、柳沢吉保の公用日記である『楽只堂年録』所収の絵図において、家老柳沢權太夫の屋敷地の南東部の長屋門付近にあたり、発掘調査によって、長屋門周辺の建物跡や井戸などがみつかっている。</p> <p>また、主要地方道甲府亜崎線（平和通り）における立会調査では、これまで確認されてこなかった甲府城西側の一の堀の立ち上がり部や、土地区画を示すと思われる石組水路などがみつかっており、近世から近代における山梨県中心部の土地利用のあり方を解説する手がかりを得ることができた。</p>							

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第322集

## 甲府城下町遺跡

平成26～30年度甲府駅南口周辺地域修景計画事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

2019年3月15日 印刷・発行

編集 編集 山梨県埋蔵文化財センター  
山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016  
maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

発行 山梨県教育委員会  
印刷 青柳印刷株式会社